

第2期福井市中心市街地活性化基本計画 (素案)



【福井市中心市街地都市模型写真】

平成24年10月

福井県福井市

目次

○基本計画の名称	-----	1
○作成主体	-----	1
○計画期間	-----	1
1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針	-----	1
[1] 福井市の概要	-----	1
[2] 中心市街地の概要	-----	2
[3] 統計的なデータ等による現状把握・分析	-----	5
[4] 地域住民のニーズ等の把握	-----	20
[5] 中心市街地活性化に向けたこれまでの取組と評価	-----	27
[6] 課題の整理	-----	50
[7] 中心市街地の活性化に関する基本的な方針	-----	51
2. 中心市街地の位置及び区域	-----	68
[1] 位置	-----	68
[2] 区域	-----	69
[3] 中心市街地要件に適合していることの説明	-----	70
3. 中心市街地の活性化の目標	-----	74
[1] 福井市中心市街地活性化の目標	-----	74
[2] 計画期間	-----	74
[3] 数値目標	-----	75

- 基本計画の名称：第2期福井市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：福井県福井市
- 計画期間：平成25年4月～平成30年3月(5年)

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 福井市の概要

本市は、日本列島のほぼ中央の日本海側にあり、日本列島の「へそ」に位置している。九頭竜川、足羽川、日野川の三大河川の扇状地である福井平野は、今から1500年ほど前、この地にゆかりの深い継体(けいたい)天皇の治山治水事業により、一面の沼沢地が肥沃な平野に生まれ変わったと伝えられている。

その後、文化の発展に伴い北陸の要衝として栄え、中世には、市街地の南東にある一乗谷に居を構えた朝倉氏が五代にわたり、越前国守護としてこの地を治め、小京都と呼ばれるほどの栄華を極めたといわれている。

現在の市の中心部は、室町時代のころ北ノ庄と呼ばれ、まちづくりは柴田勝家の北ノ庄城築城が始まりといわれている。江戸時代に入り、徳川家康の次男である結城秀康が68万石の城主として慶長5年(1600)に任ぜられた。福井の地名については、北ノ庄から「福居」となり、3代藩主忠昌のとき、「福井」と改められた。

幕末の藩主は、名君の誉れ高い松平慶永(春嶽)で、その時代には、橋本左内、由利公正、橘曙覧、笠原白翁ら多くの人材が輩出された。また、慶永は産業振興事業として織物を取り入れ、これが織物王国福井の礎となった。

明治22年に市制が施行され福井市となり、鉄道の開通や織物産業等の興隆により政治・経済・文化の中心都市として発展してきた。昭和20年7月の空襲、昭和23年の福井大震災と壊滅的な打撃を受け、さらに水害、雪害と幾多の災害に見舞われたが、市民の不屈の精神によって不死鳥のように甦り、今日の「不死鳥のまち福井」を築き上げてきた。

平成12年には特例市に移行し、平成18年2月1日には、隣接する美山町、越廼村、清水町の3町村と合併し、総面積約536.19k㎡、人口約27万人となり、県内人口約34%を占める福井県の県都として重要な役割を担っている。全国各都市の「すみよさランキング(都市データパック東洋経済新報社)」で、安心度、利便度、快適度、富裕度、住居水準充実度の観点から毎年度上位(平成24年度は11位)に選ばれている。

また、本格的な人口減少社会の到来、超高齢社会の進展、地球環境問題の深刻化など時代の潮流を踏まえ、持続可能な集約型都市構造への転換を見据えたコンパクトシティの実現に向けて、「歩く」視点にたった都市づくりの考え方を

《福井市 位置図》



継承しつつ「暮らしの豊かさを実感できる『歩きたくなる』まち」を目指し、平成 22 年に『福井市都市計画マスタープラン』を改訂した。また、福井都市圏の広域総合交通体系を構築するための福井市都市交通戦略を策定（平成 21 年 3 月）した。

[2] 中心市街地の概要

(1) 中心市街地の概要

本市の中心市街地は、安土桃山時代末期からの歴史を有し、J R 福井駅を中心として商業、業務、居住など多様な都市機能が集積し、多くの人やもの、情報が行き交う場として、独自の生活文化や伝統を育み、福井市の中心市街地としてだけでなく、圏域全体の発展に大きな役割を果たしてきた地域である。

特に、J R やえちぜん鉄道、福井鉄道などの鉄道に加え、路線バス、すまいるバスなど多様な公共交通機関が結節し、市役所や県庁などの行政施設、金融機関の支店等の業務施設、百貨店や商店街等の商業施設、響のホール等の文化施設など、多くの都市機能が徒歩圏域内に集積していることに特徴がある。



【福井市中心市街地都市模型写真】

(2) 歴史的・文化的資源、景観資源、社会資本や産業資源等の既存ストック状況及びその有効活用等

①歴史的・文化的資源

福井城址、柴田神社などは、中心市街地が城下町として形成されたことを示す歴史的な資源である。

福井城址は、結城秀康が築城し、約 270 年間にわたり松平家の繁栄の舞台となった名城跡である。かつては、4層5階、高さ 37mに及ぶ天守閣が存在したものの、現在は石垣と堀のみで、天守台下には福井という名の起こりになった「福の井」と呼ばれる井戸跡がある。御本丸緑地の内堀公園内には、幕末の福井藩の財政の立て直しをはかるなど活躍した福井ゆかりの偉人、三岡八郎（由利公正）、横井小楠の彫像が設置されているほか、福井城下に関する歴史が学べる解説板もあり、福井の歴史を身近に学ぶことができる。



【福井城址】



【柴田神社】

柴田神社は、柴田勝家によって築かれた北の庄城跡であり、明治中期に建てられた柴田神社が鎮座し、一帯は北の庄城址公園となっている。公園内には柴田勝家・お市の方夫妻の銅像をはじめ、北の庄城の石垣跡や鬼瓦、復元井戸などが展示保存されている。

桜の花が咲く季節になると、これら福井の歴史を彩った戦国の勇士や武将達が鎧兜に身をかため、福井城址から足羽河原にかけて勇壮な時代絵巻を繰り広げる「ふくい春まつり」が開催されている。

さらに夏には、これまで福井市が戦災・震災・水害といった壊滅的な大災害に見舞われながらも、不死鳥(フェニックス)のように逞しく復興したのを記念して行われるようになった「福井フェニックスまつり」も中心市街地で繰り広げられている。

まちなか文化施設「響のホール」では、音楽や演劇鑑賞、市民活動の発表などの文化活動の場として活用されている。

本市は、郷土の歴史や伝統文化を大切にし、人との交流により育んできた多様な文化を、産・学・官と市民が協働して、さらに高度に発展させていくまちを目指している。



【ふくい春まつり】



【福井フェニックスまつり】

②景観資源

福井の玄関口であるＪＲ福井駅周辺には、商業、業務施設などの都市的な景観に隣接して、市街地内を東西に流れる足羽川の水辺や「日本さくら名所 100 選」にも選定されている堤防の桜堤、足羽山の緑などの自然景観を形成し、これらが福井の中心市街地における景観の骨格を形成している。



そこで、本市の都市景観の基本的な整備方針を明らかにし、市民と行政が協力してその目標の実現を図るための指針として、「福井市都市景観基本計画・1989」を策定した。また、平成 3 年には「福井市都市景観条例」を制定し、福井市全域を対象とする良好な都市景観形成のためのルールや制度を整えてきた。

その後、中心市街地内に残る貴重な歴史的資源を有機的に結び、人々の回遊と交流を促す「歴史のみち整備事業」や、来街者が楽しく安全で快適に回遊でき、道路と沿道建物との一体的な景観にも配慮した道路空間を整備する「賑わいの道づくり事業」などの関連事業を含め、景観づくりに取り組んできた。

さらに、平成 16 年の「景観法」の制定や市町村合併による地域固有の景観資源が新たに加わったことにより、平成 19 年 5 月に「福井市景観基本計画」を策定した。中心市街地を含む福井都心地区は、景観形成重点地区として位置付けられ、「福井らしさを実感できる風格あるシンボル景観の創生」を目標として、景観資源の保全・活用に取り組んでいくこととしている。

第 1 期計画の策定以降では、「さくらの小径・浜町通り界限整備事業」と「浜町おもてなし空間づくり事業」により、地域が一体となって魅力ある空間づくりに取り組んだ結果、地区の歴史を活かした道路・沿道に高級感ある景観が創出された。

③社会資本や産業資源

本市の中心市街地は、戦災・震災などによって壊滅的な打撃を受けたが、土地区画整理事業の実施により、道路等の都市基盤が整えられた。これに伴って、市役所や県庁などをはじめとする行政機能や、事務所、商店街といった産業・商業機能、居住機能、更には病院・医院が立地し、多様な都市機能が集積している。

公共交通については、ＪＲ福井駅を中心として、えちぜん鉄道、福井鉄道など地方鉄道網が維持され、また京福バスやすまいるバスなど、郊外バス、市内バス、コミュニティバスの発着地点があり、公共交通の利便性の高い地域である。

[3] 統計的なデータ等による現状把握・分析

(1) 人口動態に関する状況

○人口は減少傾向にあったが平成 23 年にはじめて増加に転じた。

- ・ 中心市街地の人口の推移をみると、人口及び福井市域内シェアとも減少傾向にあったが、平成 23 年にはじめて増加に転じた。
- ・ 第 1 期計画認定時の平成 19 年と比べ、人口は 91 人 (2.1%) 減少、福井市域内シェアは横ばいから近年増加に転じた。(図 1-1-1)

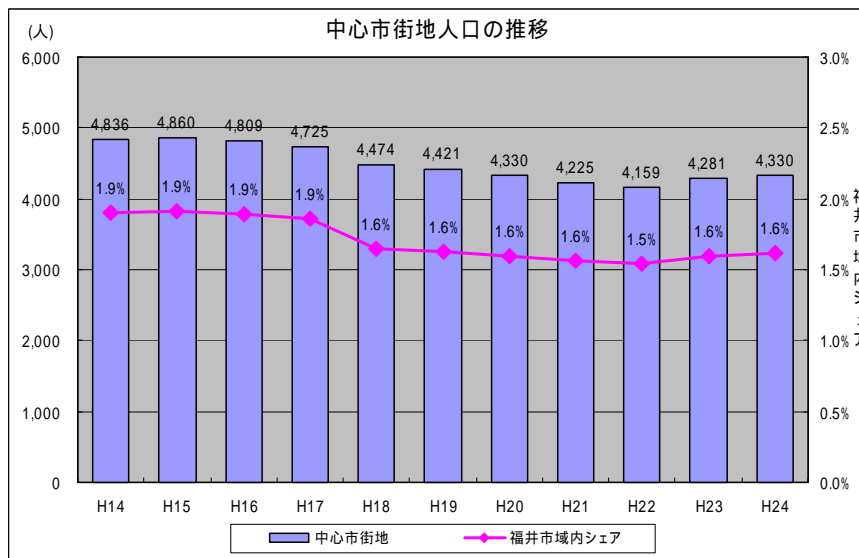


図 1-1-1 中心市街地人口の推移

資料：住民基本台帳

○世帯数は近年増加傾向にある。

- ・ 中心市街地の世帯数は、平成 18 年に減少し以後平成 22 年までほぼ横ばいで推移していたが、平成 23 年から増加傾向にある。
- ・ 第 1 期基本計画認定の平成 19 年と比べ、世帯数は 129 世帯 (7.3%) 増加、福井市域内シェアは横ばいとなっている。(図 1-1-2)

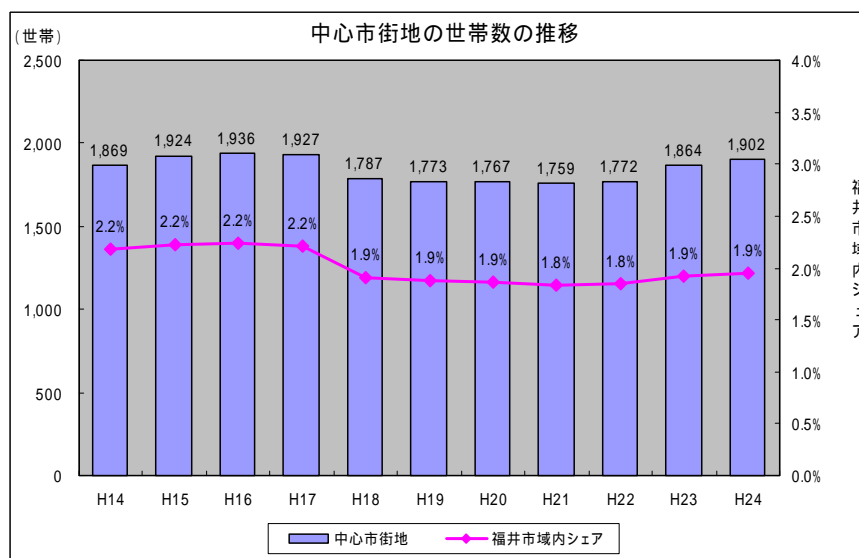


図 1-1-2 世帯数の推移

資料：住民基本台帳

《分析》

- ・人口は減少傾向にあり、幼年人口及び生産年齢人口の減少がその主な要因となっている。
- ・高齢人口はほぼ横ばいで推移していることから、今後、中心市街地において更に人口増を図るためには、居住ニーズに対応した住宅の供給や、居住者の転出を防ぐ取組が必要である。

(2) 産業に関する状況

○中心市街地の事業所数、従業員数は増加しているものの依然として低い水準にある。

- ・中心市街地における事業所数は、平成16年までは減少傾向にあったが、その後は増加傾向となっている。ただし、福井市域内シェアについては、減少幅は小さくなっているものの、減少し続けている。
- ・第1期計画認定前後の平成18年と21年を比較すると、事業所数は55事業所(2.5%)増加、福井市域内シェアは0.1ポイント低下している。(図1-2-1)

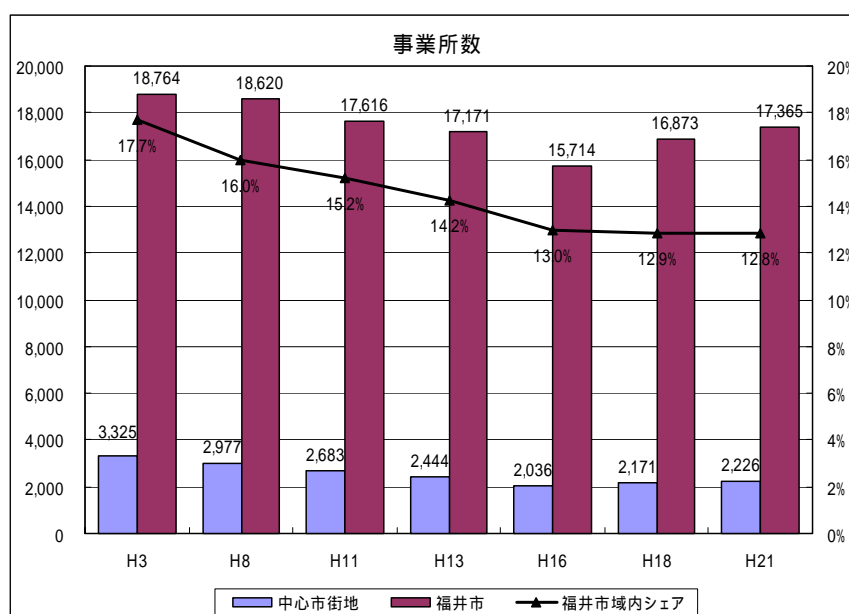


図1-2-1 事業所数の推移 資料：事業所・企業統計調査、H21のみ経済センサス

- ・中心市街地における従業員数も、平成16年までは減少傾向にあったが、その後は増加傾向となっている。
- ・第1期計画認定前後の平成18年と21年を比較すると、従業員数は1,553人(9.6%)増加、福井市域内シェアは0.4ポイント上昇している。(図1-2-2)

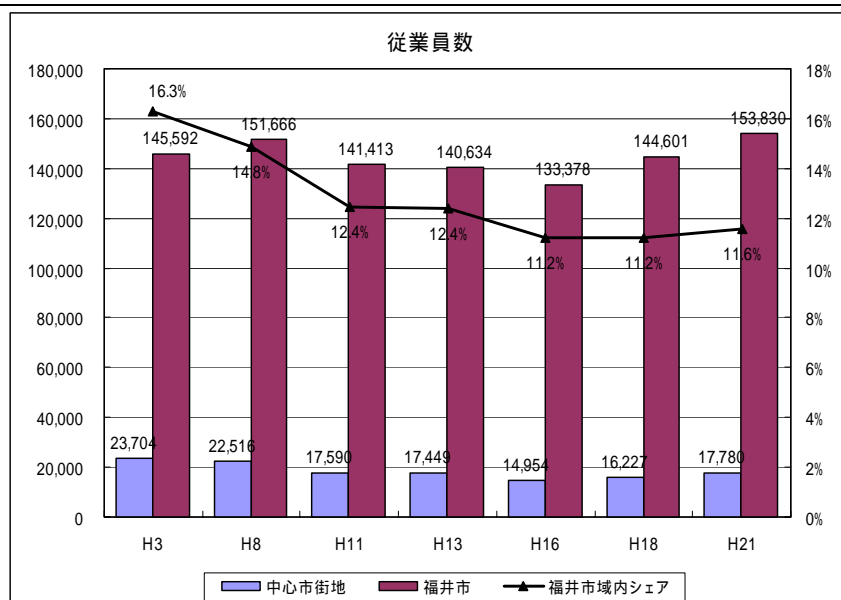


図 1-2-2 従業員数の推移 資料：事業所・企業統計調査、H21のみ経済センサス

○卸売・小売業飲食店などの業種は減少している。

- ・各業種の事業所数の推移をみると、卸売・小売業飲食店が平成 21 年には平成 3 年と比較して 809 事業所 (36.9%) 減少し、中心市街地内の事業所数の減少に大きく影響を与えている。(図 1-2-3)
- ・各業種の従業員数の推移をみると、卸売・小売業飲食店、金融・保険業の減少が顕著で、平成 21 年には平成 3 年と比較して、それぞれ 2,647 人 (25.4%)、1,942 人 (40.4%) 減少した。(図 1-2-4)
- ・第 1 期計画認定前後の平成 18 年と 21 年を比較すると、事業所数については農林漁業鉱業や建設業以外の業種で、従業員数については建設業やサービス業以外の業種で増加している。

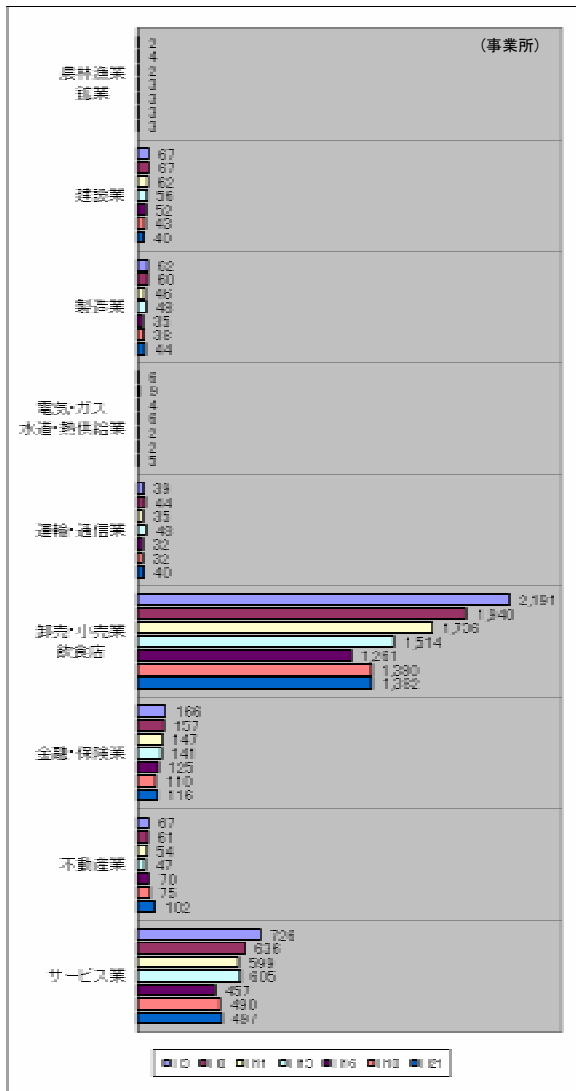


図 1-2-3 業種ごとの事業所数の推移 (大分類)

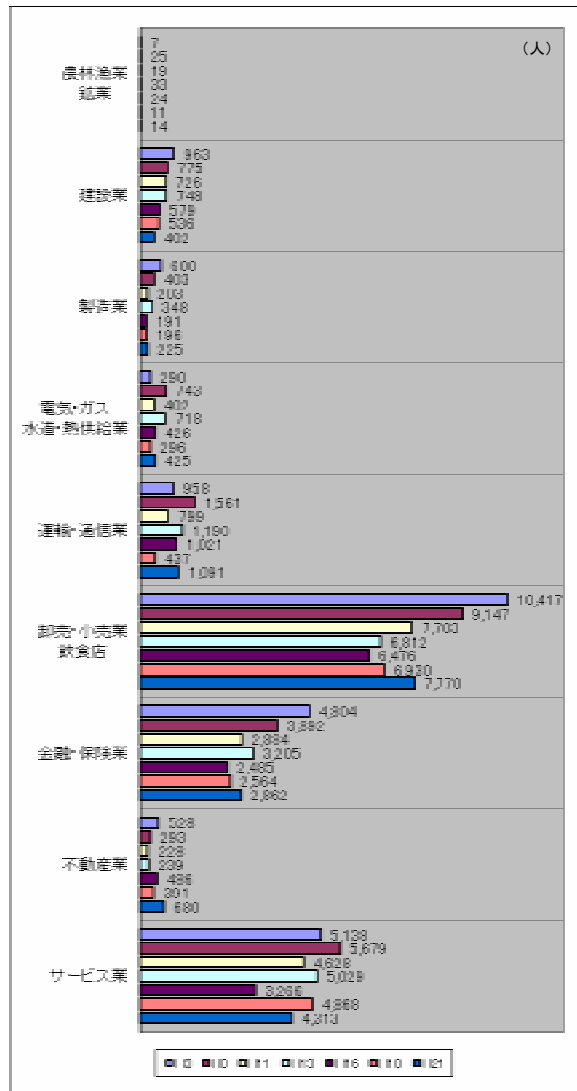


図 1-2-4 業種ごとの従業員数の推移 (大分類)

資料：事業所・企業統計調査、H21のみ経済センサス

《分析》

- ・卸売・小売業飲食店及び金融・保険業の減少が著しい。卸売・小売業飲食店の減少は、中心市街地の商業の中心性を喪失させ、金融・保険業の減少は、中心市街地の経済性を喪失することにつながる。
- ・中心市街地における事業所数や従業員数の減少は、賑わいの喪失、買い物などによる消費の減少につながる。
- ・今後、事業所数及び従業員数の更なる増加に向け、民間投資が積極的に行われるような環境を整えていくことが必要である。

(3) 商業に関する状況

○中心市街地の商店数は減少している。

- ・中心市街地の商店数は、減少し続けている。平成19年には352店舗となり、平成3年の633店舗と比較して281店舗（44.4%）減少している。
- ・福井市域内シェアについては、平成19年に増加に転じたが、平成3年と比べると2.8ポイント低下している。（図1-3-1）

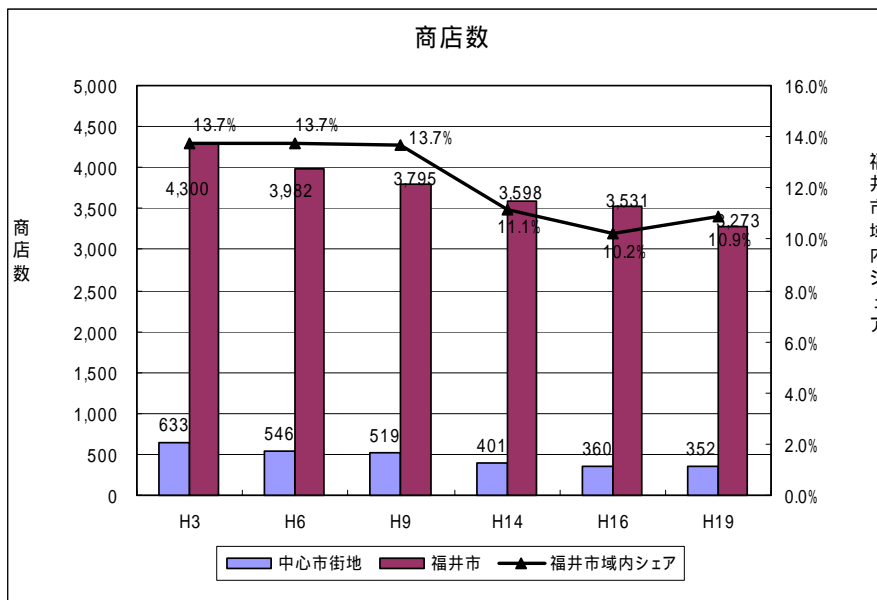


図 1-3-1 商店数の推移

資料：商業統計調査

○中心市街地の年間小売販売額は減少している。

- ・中心市街地の年間小売販売額は減少し続けている。平成19年には338億円となり、平成3年の690億円と比較して352億円（51.0%）減少している。
- ・福井市域内シェアにおいても、17.4%（平成3年）から8.8%（平成19年）となり、8.6ポイント減少している。（図1-3-2）

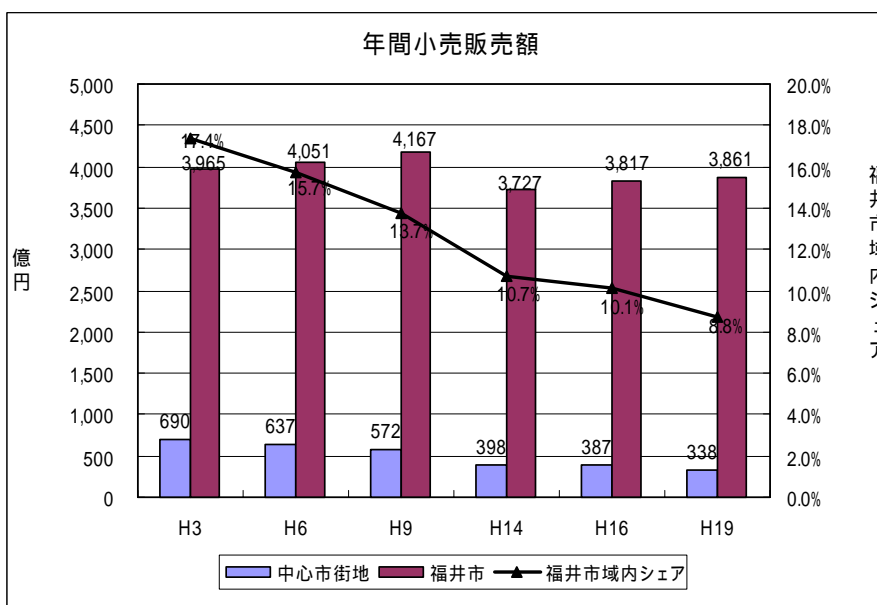


図 1-3-2 年間販売額の推移

資料：商業統計調査

○中心市街地の売場面積は減少している。

- ・福井市全体の売場面積は大きく増加しているが、中心市街地の売場面積は減少し続けている。平成 19 年には 49,456 m² となり、平成 3 年の 71,815 m² と比較して 22,359 m² (31.1%) 減少している。
- ・福井市域内シェアにおいても、20.1% (平成 3 年) から 10.2% (平成 19 年) となり、9.9 ポイント減少している。(図 1-3-3)

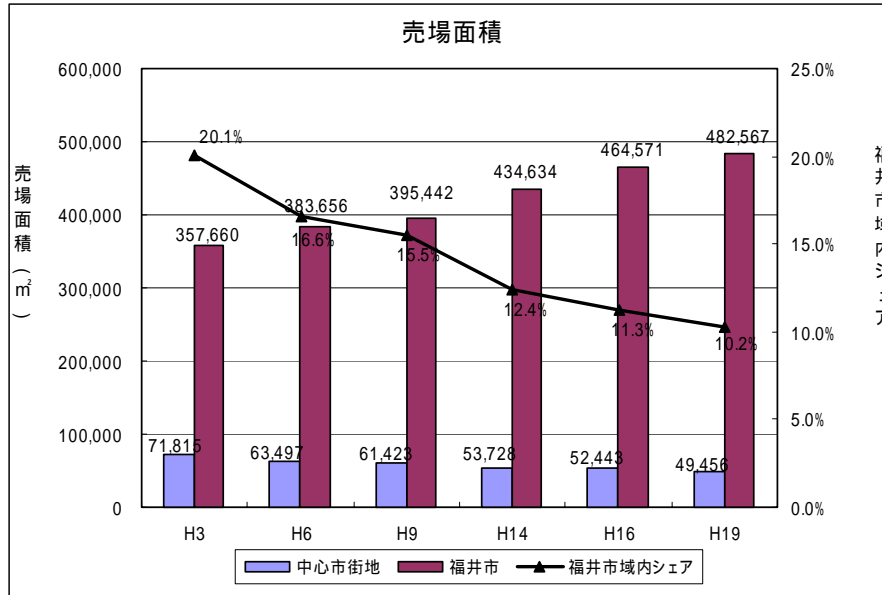


図 1-3-3 売場面積の推移 資料：商業統計調査

○空き店舗数は増加している。

- ・空き店舗数 (中央 1 丁目) は、平成 13 年 12 月に 26 店舗であったが、平成 24 年 8 月には 75 店舗となり、49 店舗増加している。(図 1-3-4)
- ・中央 1 丁目における店舗数は 383 店舗 (平成 24 年) あり、空き店舗数は全体の 19.6% を占めている。

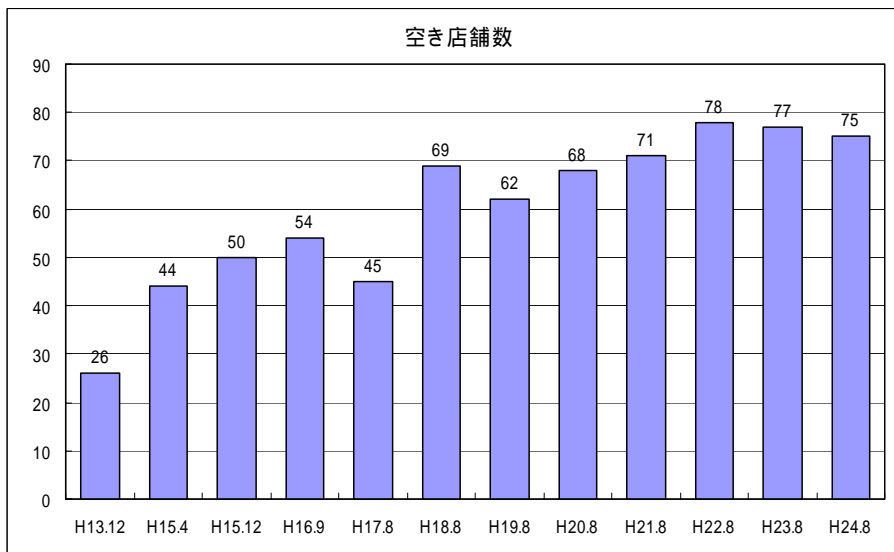


図 1-3-4 空き店舗の状況 (中央 1 丁目) 資料：まちづくり福井

○歩行者・自転車通行量は減少している。

- ・歩行者・自転車通行量（7月休日、10地点合計）は、平成24年において38,634人であり、平成12年の67,435人と比較して28,801人（42.7%）減少している。
- ・大規模商業施設の開店により増加しており、開店の効果は見られるものの、その後徐々に減少傾向を示すなど持続しにくい傾向が見られる。
- ・第1期計画認定後の平成19年以降について見ると、平成22年に増加に転じたものの、平成23年には再び減少し、平成12年以降で最少値となった。（図1-3-5）

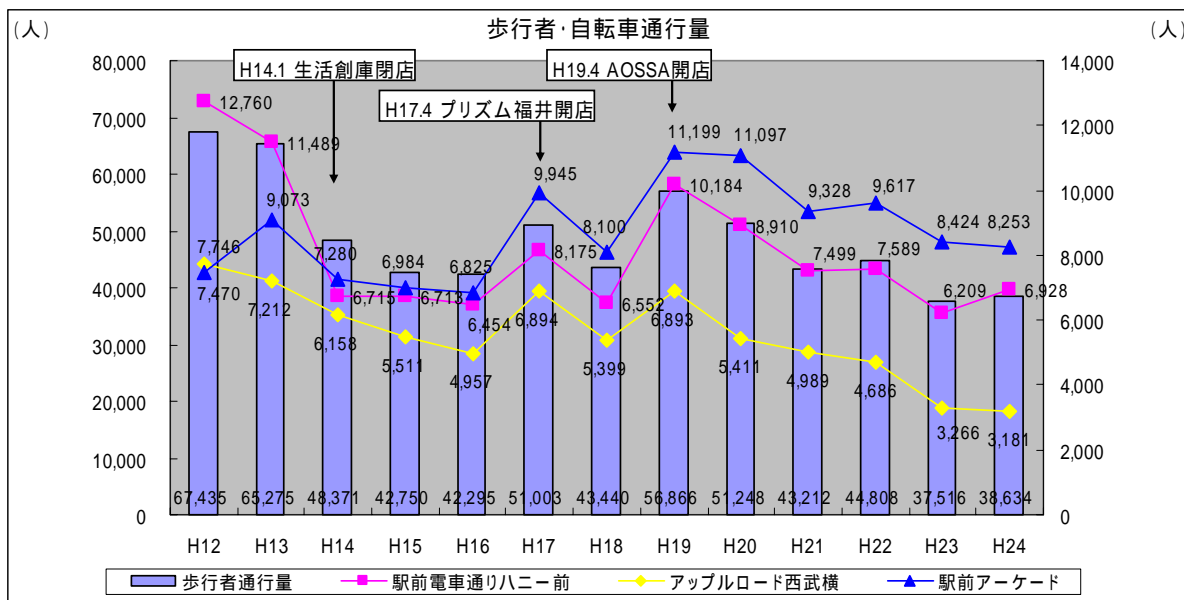


図 1-3-5 歩行者・自転車通行量の推移

資料：福井市

《歩行者・自転車通行量の調査地点（10地点）》



- | | |
|--------------|--------------|
| ① シンボルロード南側 | ⑥ 南通り旧生活創庫前 |
| ② ミスタードーナツ南側 | ⑦ ガレリア元町 |
| ③ 駅前電車通り北側 | ⑧ アップルロード西武横 |
| ④ 駅前電車通り南側 | ⑨ 北の庄通り |
| ⑤ 駅前電車通りハニー前 | ⑩ 駅前アーケード |

《分析》

- ・旧福井市中心市街地活性化基本計画の策定時（H11）と比較して、中心市街地における商店数、年間販売額、売場面積、歩行者・自転車通行量が減少し、空き店舗数が増加するなど商業を取り巻く環境が悪化している。一方で、福井市全体の売場面積は増加するなど商業施設の伸張がみられ、これが中心市街地に影響を与えているとも想定される。
- ・福井市全体の年間販売額が減少し、大規模商業施設の閉店がみられる。
- ・響のホールやA O S S A、プリズム福井など拠点となる施設がオープンし、一時的に歩行者通行量が増加したものの、その効果は持続的ではなく、第1期計画期間中に大規模施設が完成しなかったことから、減少傾向が止まらない。
- ・今後、個店の魅力向上・出店機会の創出など商業の魅力向上に取り組むことにより商業の活性化につなげていく必要がある。

(4) 低未利用地の状況

○低未利用地は増加していたが、近年減少に転じた。

- ・低未利用地は、平成8年の7.5haから平成20年には12.3haまで増加していたが、平成24年には10.3haに減少した。(図1-4-1)

※低未利用地：平面駐車場、建物跡地、改変工事中の土地

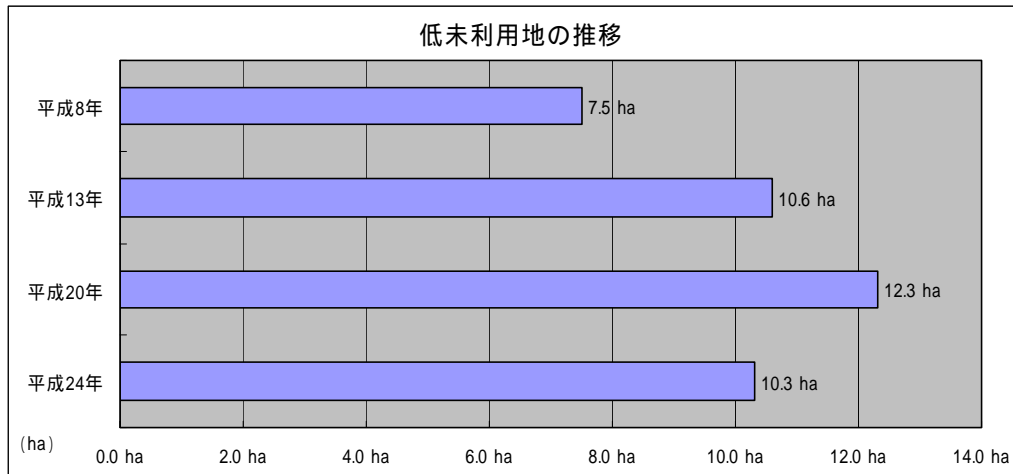


図1-4-1 低未利用地推移 資料：都市計画基礎調査

- ・平面駐車場の箇所数は、平成4年から平成14年にかけて増加したが、平成20年には減少に転じ、平成24年でも減少した。その結果、最も多い平成14年には434箇所であったものが、平成24年には350箇所となり、84箇所(19.4%)減少した。
- ・平成14年から24年にかけては、規模が小さい200㎡未満の駐車場が大きく減少し、規模が大きい(200㎡以上)駐車場は増加している。(図1-4-2)

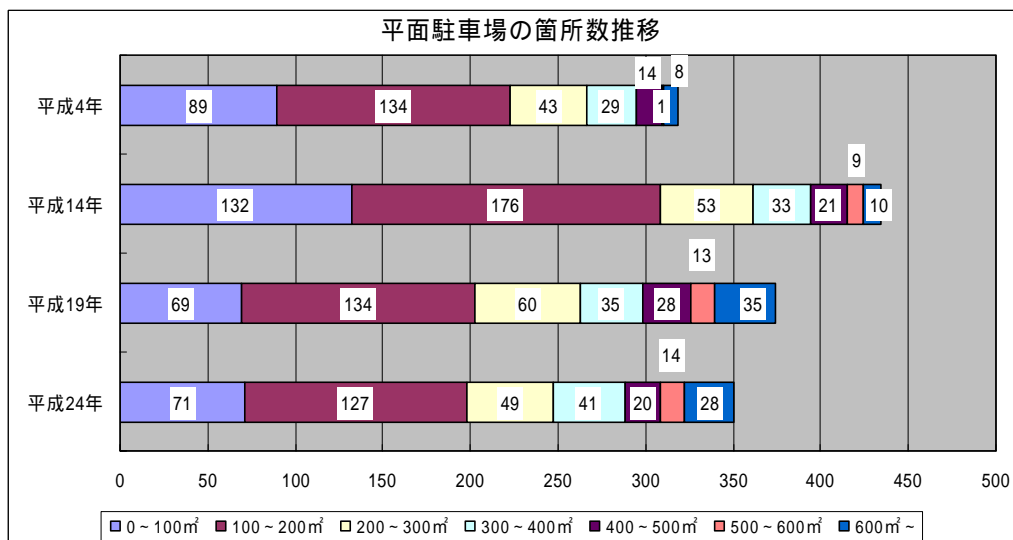


図1-4-2 平面駐車場の推移 資料：福井市都心居住に関する研究報告書(H4, 14) 福井市(H19, 24)

《分析》

- ・低未利用地の面積、平面駐車場の箇所数ともに、近年減少に転じた。しかし、一部の地域では、コインパーキングが増えている様子が伺えることから、今後も注視していく必要がある。

(5) 公共交通等の状況

○鉄道の乗車人員は、基本計画認定時の基準値(H18)5,672千人/年より178千人多い5,850千人/年、1.03倍となっている。

- ・鉄道全体の利用状況をみると、基本計画認定(H19)後増加していたが、平成21年度一旦減少し、その後徐々に増加傾向を示している。平成23年度には、平成11年の水準の99.1%まで回復してきている。(図1-5-1)

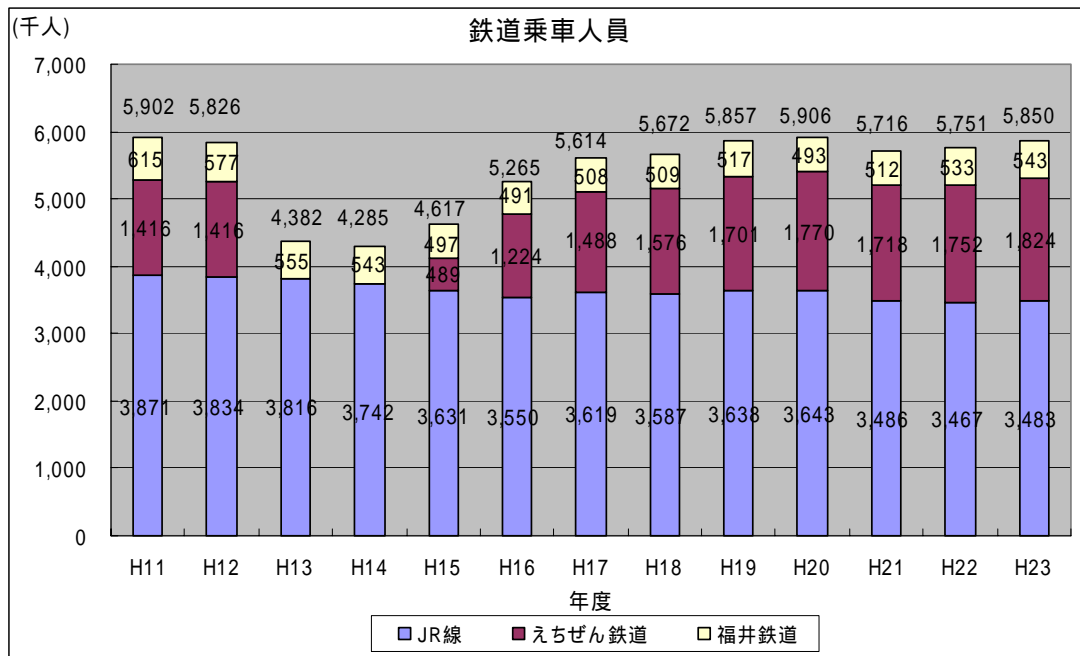


図1-5-1 鉄道乗車人員の推移 資料：福井市

○JRの乗車人員は、減少傾向にあり、基本計画認定の基準値(H18)より104千人/年少ない97%の水準となっている。

- ・近年、定期利用者は横ばいとなっているが、定期外利用者は平成21年度以降大幅に減少している。(図1-5-2)

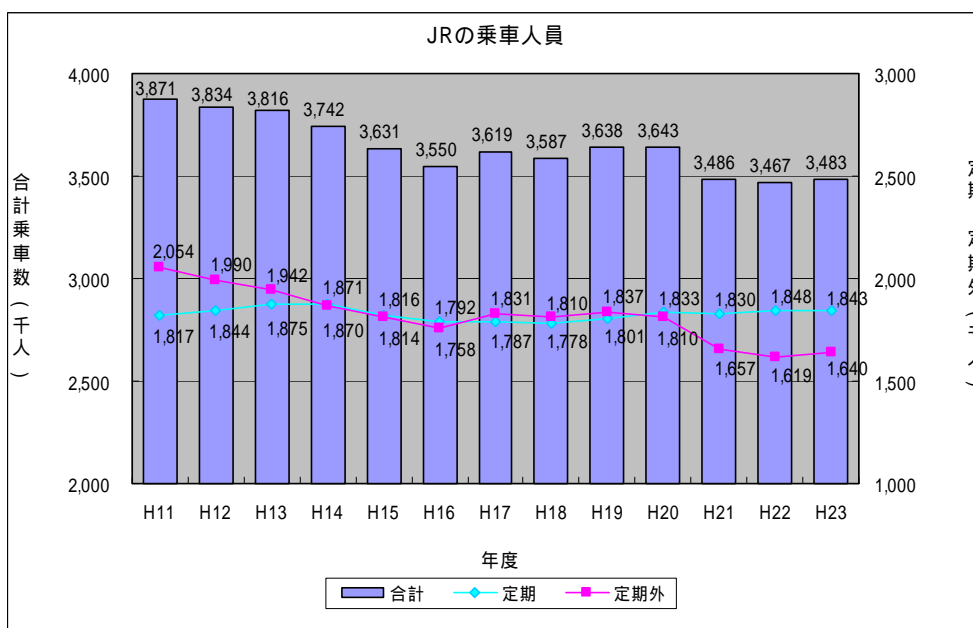


図1-5-2 JRの乗車人員の推移 資料：JR西日本

○えちぜん鉄道の乗車人員は、基本計画認定時の基準値(H18)より 182 千人/年多い 1,643 千人/年、1.12 倍となっている。

- ・えちぜん鉄道の乗車人員の合計は、平成 15 年度以降回復してきており、平成 18 年度には平成 11 年度の乗車数を上回り、その後も増加傾向にある。(図 1-5-3)

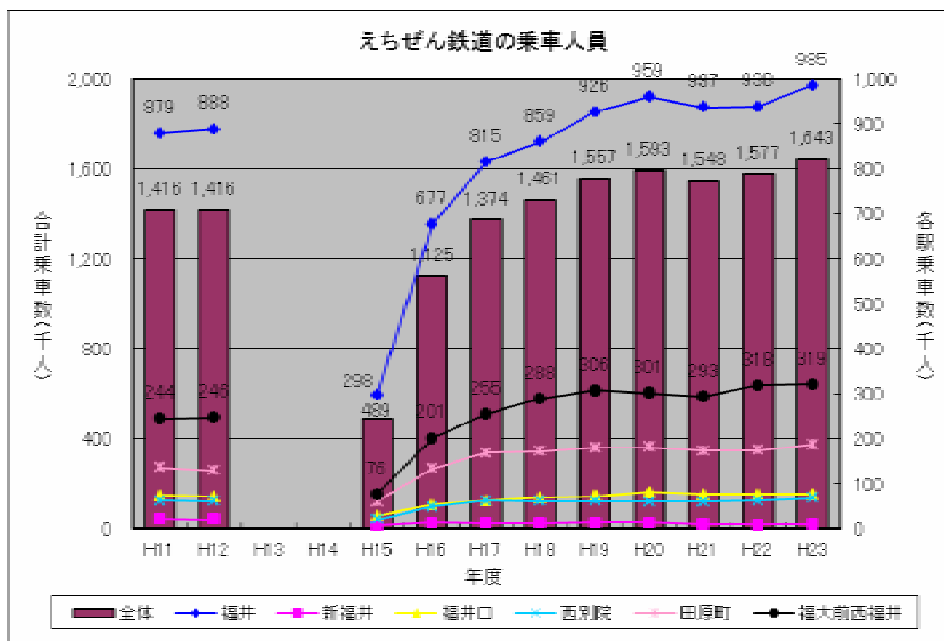


図 1-5-3 えちぜん鉄道の乗車人員の推移 資料：えちぜん鉄道
 ※：H11, 12 京福電気鉄道、H13, 14 事故による運行停止、H15 以降えちぜん鉄道

○福井鉄道福武線の乗車人員は、基本計画認定時の基準値(H18)より 34 千人/年多い 543 千人/年、1.07 倍となっている。

- ・福井鉄道福武線の乗車人員(市内路面区間)は、平成 11 年度以降減少していたが、平成 17 年度以降は増加傾向にある。(図 1-5-4)

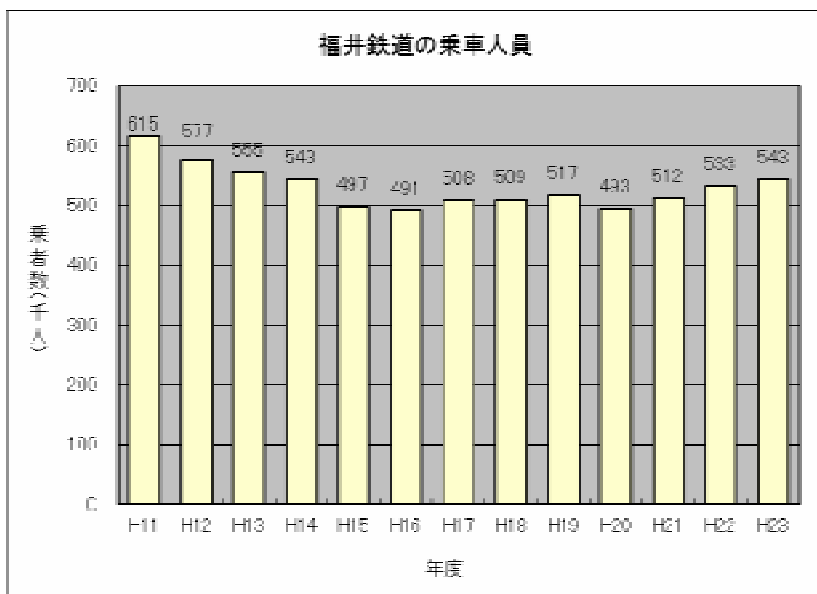


図 1-5-4 福井鉄道乗車人員の推移 資料：福井鉄道

○コミュニティバス（すまいるバス）の乗車数は、近年減少傾向にある。

- ・すまいるバスの乗車数は、平成12年度の運行開始以来、平成19年度までは各方面で総じて増加傾向にあったが、平成20年度以降は減少傾向に転じている。（図1-5-5）

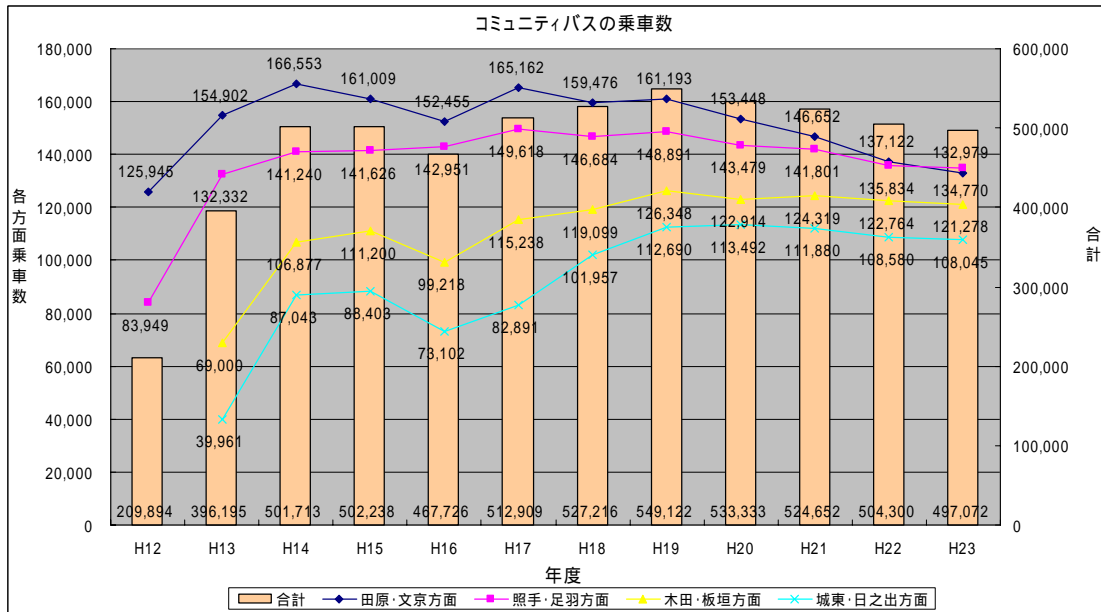


図 1-5-5 コミュニティバスの乗車数の推移 資料：まちづくり福井

○京福バスの乗車数は、近年減少傾向にある。

- ・中心市街地内でのバス停の利用者は、減少傾向にあり、平成23年には2,347人で、3年間で10%減少した。

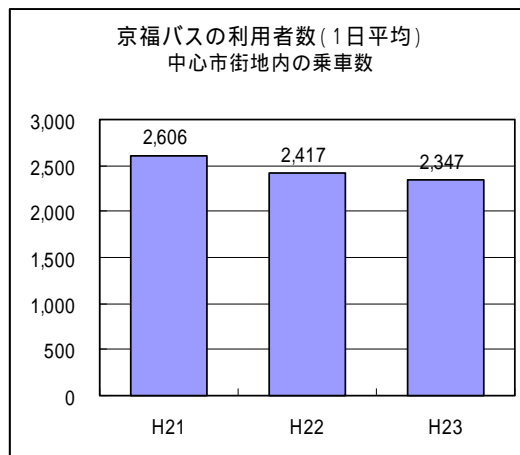


図 1-5-6 京福バス中心市街地内の乗車数の推移 資料：京福バス

《分析》

- ・鉄道の乗車人員は、基本計画認定時と比較して150人/日増加し、1.03倍となっている。近年の推移を公共機関別に見ると、JR、すまいるバス、京福バスは減少傾向、えちぜん鉄道と福井鉄道福武線は増加傾向にある。
- ・今後は、福井駅を中心とした交通結節機能の強化を図り、公共交通の利用者を増やしていくことが必要である。

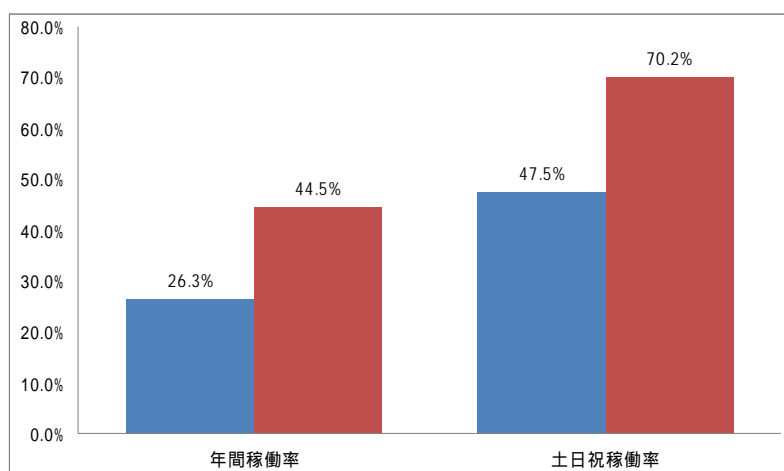
(6) JR福井駅西口におけるイベントの開催状況

○アクティブスペースの整備により、市民の文化活動が活発化している。

- ・ JR福井駅西口には暫定的に整備されている広場があり、多くのイベントが開催されている。イベントが開催された日数は、平成 22 年度は 96 日であったが、平成 23 年度は 113 日開催され、前年度を上回っている。
- ・ イベントの種類（使用目的）をみると、パフォーマンスやライブなど市民の発表の場としての利用が最も多く、次いでイルミネーション等の展示、物産市など商店街が主催するマーケット利用、ワークショップ・体験の場、駅前マルシェ等飲食を伴う利用が多くなっている。（図 1-6-1）
- ・ 曜日別にみると、土日祝日の稼働率が 70.2%と高くなっており、平成 22 年度の 47.5%から大きく伸びている。（図 1-6-2）



図 1-6-1 イベントの種類 資料：福井市



■ 平成 22 年度 ■ 平成 23 年度（注：稼働率にイルミネーションは含まない）

図 1-6-2 西口広場の稼働率 資料：福井市

(7) 駐車場の利用状況

○福井市営駐車場（大手、大手第二、本町地下）の利用者は減少傾向にあり、県営西口地下駐車場は増加傾向にある。

- ・福井市営駐車場（大手、大手第二、本町地下）の駐車台数（一日平均）は、県営西口地下駐車場がオープンした平成19年以降概ね減少傾向にある。（図1-7-1）
- ・県営西口地下駐車場の駐車台数は、オープン以降増加傾向にある。
- ・また、合計の駐車台数は概ね横ばいである。
- ・大手駐車場の平成20年度の減少は、工事により利用できない期間があったことから減少している。

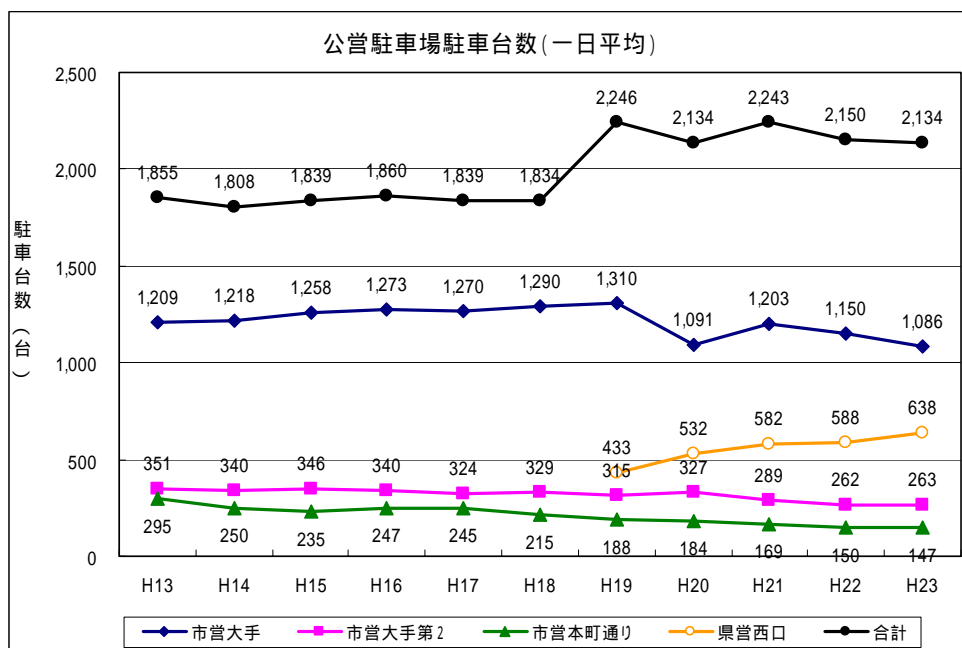


図1-7-1 福井市営駐車場の駐車台数の推移 資料：福井市、福井県

表 福井市営駐車場駐車台数（一日平均）

	市営大手	市営大手第2	市営本町通り	県営西口	合計
駐車台数	266台	122台	354台	200台	
H13	1,209	351	295		1,855
H14	1,218	340	250		1,808
H15	1,258	346	235		1,839
H16	1,273	340	247		1,860
H17	1,270	324	245		1,839
H18	1,290	329	215		1,834
H19	1,310	315	188	433	2,246
H20	1,091	327	184	532	2,134
H21	1,203	289	169	582	2,243
H22	1,150	262	150	588	2,150
H23	1,086	263	147	638	2,134

資料：福井市、福井県

(8) 平均地価の状況

○中心市街地の平均地価は下落し続けている。

- ・平均地価は下落し続けており、歯止めがかかっていない状況である。
- ・平均地価を第1期基本計画が認定された平成19年度と比較すると、17%下落し、83%の水準となっている。(図1-8-1)

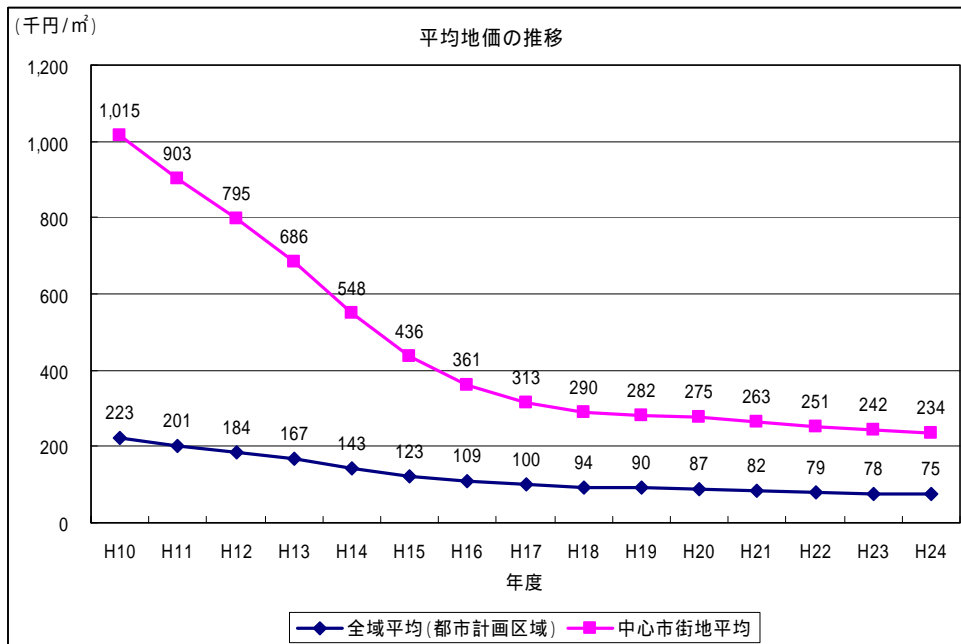


図1-8-1 平均地価の推移

資料：福井市

[4] 地域住民のニーズ等の把握

(1) 都市計画マスタープラン策定に伴うアンケート調査

◆調査の概要

調査機関：福井市

調査期間：平成 20 年 1 月 25 日 ～ 2 月 12 日

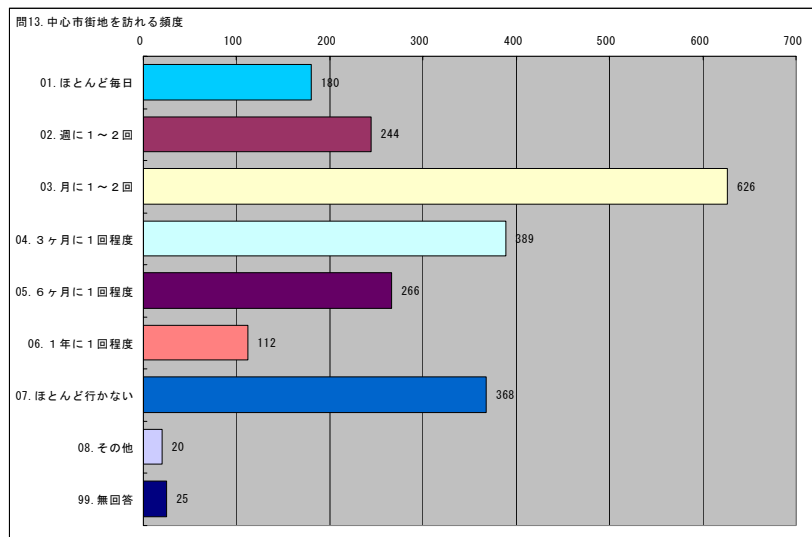
調査方法：郵送による調査

調査対象者数：市内在住の 18 歳以上の人

回収数／配布数：2,230 名／5,000 名（回収率 44.6%）

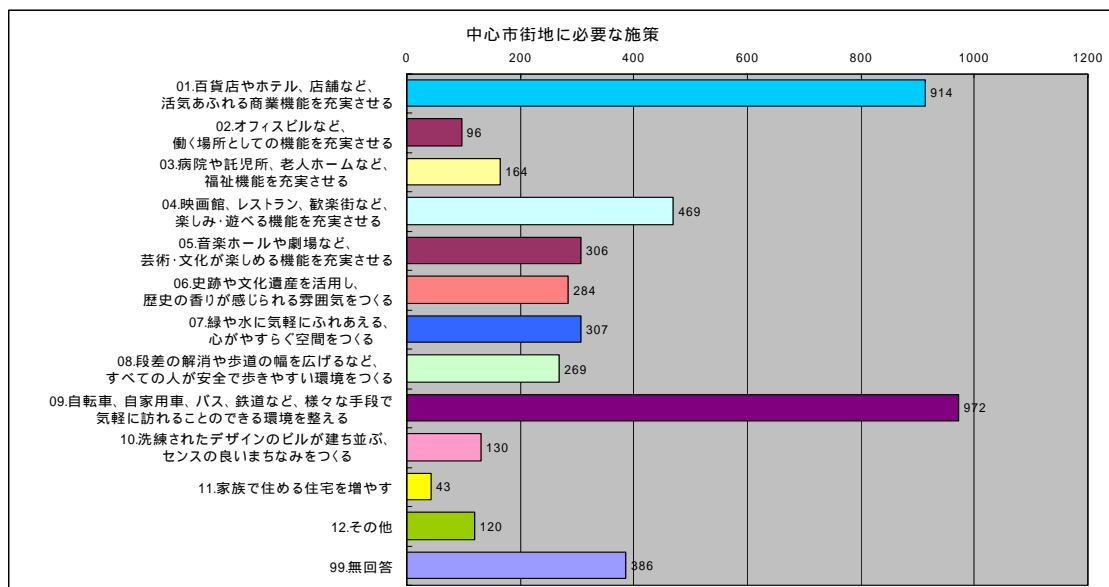
《 中心市街地に訪れる頻度 》

- ・ 中心市街地を訪れる頻度は、「03. 月に 1 ～ 2 回」を選択する方が最も多く、約 3 割を占めている。次いで、「04. 3 ヶ月に 1 回程度」となっているが、「07. ほとんど行かない」を選択する方も同程度となっている。
- ・ 年齢別に見ると、10 歳代では「01. ほとんど毎日」、「02. 週に 1 ～ 2 回」を合わせると 47.1%の方が訪れている。20 歳代になると両方合わせて約 15%にまで少なくなり、高齢になるに従い、約 20%にまで高くなる。



《 中心市街地に必要な施策 》

- ・ 中心市街地で取り組むべき施策については、「01. 百貨店やホテル、店舗など、活気あふれる商業機能を充実させる」、「09. 自転車、自家用車、バス、鉄道など、様々な手段で気軽に訪れることのできる環境を整える」を選択する方が多く、いずれも 4 割を超えている。
- ・ 次いで、「04. 映画館、レストラン、歓楽街など、楽しみ・遊べる機能を充実させる」、「07. 緑や水に気軽にふれあえる、心がやすらぐ空間をつくる」、「05. 音楽ホールや劇場など、芸術・文化が楽しめる機能を充実させる」の順で多くなっている。



(2) ウララまちなか住まい事業に関するアンケート調査

◆調査の概要

調査機関：福井市

調査期間：平成20年9月2日 ～ 16日

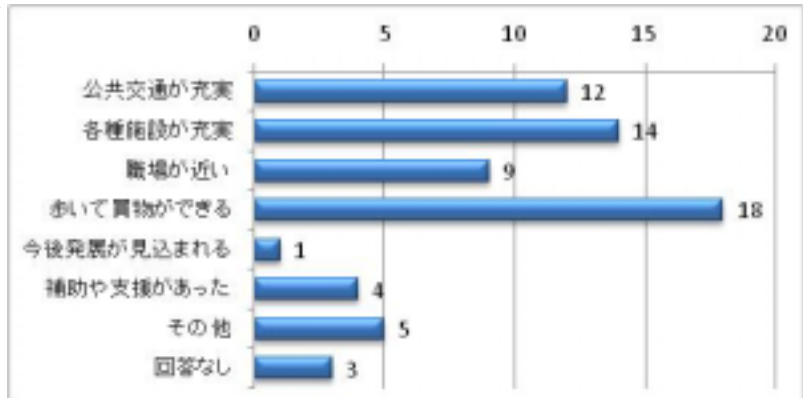
調査方法：郵送による調査

調査対象者数：ウララまちなか住まい事業の支援の対象物件に住む世帯

回収数／配布数：40名／100名（回収率40%）

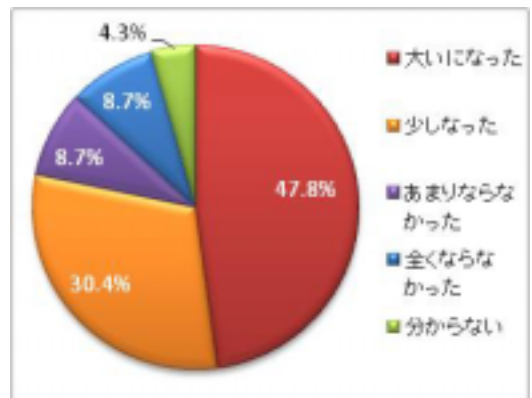
《まちなか居住を選んだ理由》

- ・「歩いて買物ができる」が18名で最も多く、次いで「各種施設が充実している」が14名、「公共交通が充実」が12名、「職場が近い」9名となった。



《ウララ事業が購入等のきっかけになったか》

- ・きっかけに「大いになった」と考える人は47.8%で、「少しなった」を含めると、全体の78.2%が住宅購入や入居、リフォームのきっかけになったことになる。



《まちなか住まいでの住宅環境の満足度》

- ・住宅環境に関して、「満足」と「やや満足」を合わせると全体的に満足度は高くなっているが、「家賃・購入価格」と「駐輪場の整備」に対しては満足度が低くなっている。一方で「バリアフリー」に関しては不満と答える人はいなかった。



(3) 福井駅周辺動態調査

◆調査の概要

調査機関：福井市

調査期間：平成 21 年 9 月 4 日 ～ 17 日

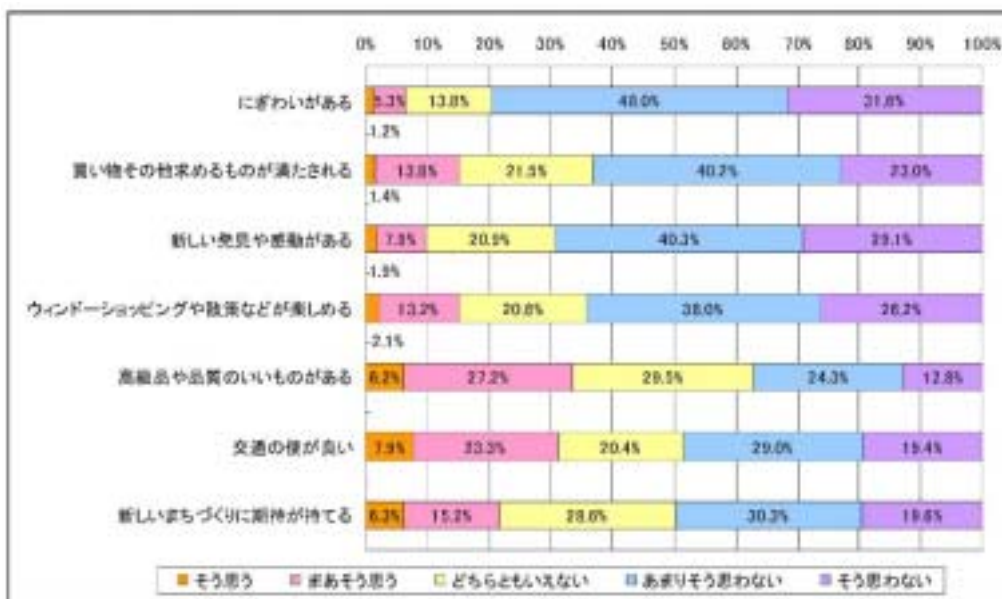
調査方法：郵送による配布・回収

調査対象者：福井市在住女性 2,000 人（18 歳以上 80 歳未満）

回収数／調査対象者数：935 名／2,000 名（回収率 46.8%）

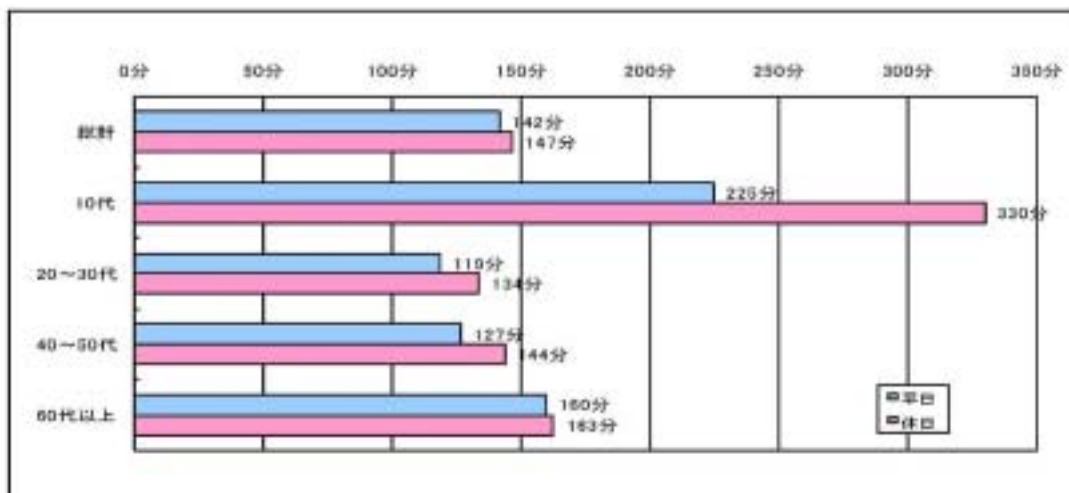
《福井駅周辺エリアの印象》

- ・「そう思う」と「まあそう思う」の合計が最も高かったのは「高級品や品質のいいものがある」で、次いで「交通の便が良い」であった。最も評価が低かったのは「にぎわいがある」であった。
- ・全体として、「そう思う」と「まあそう思う」の合計が多く好印象とする回答は 3 割程度にとどまった。特に、「新しいまちづくりに期待が持てる」の回答は 2 割程度だった。この傾向は平成 19 年度消費者購買動向調査と変わらない。



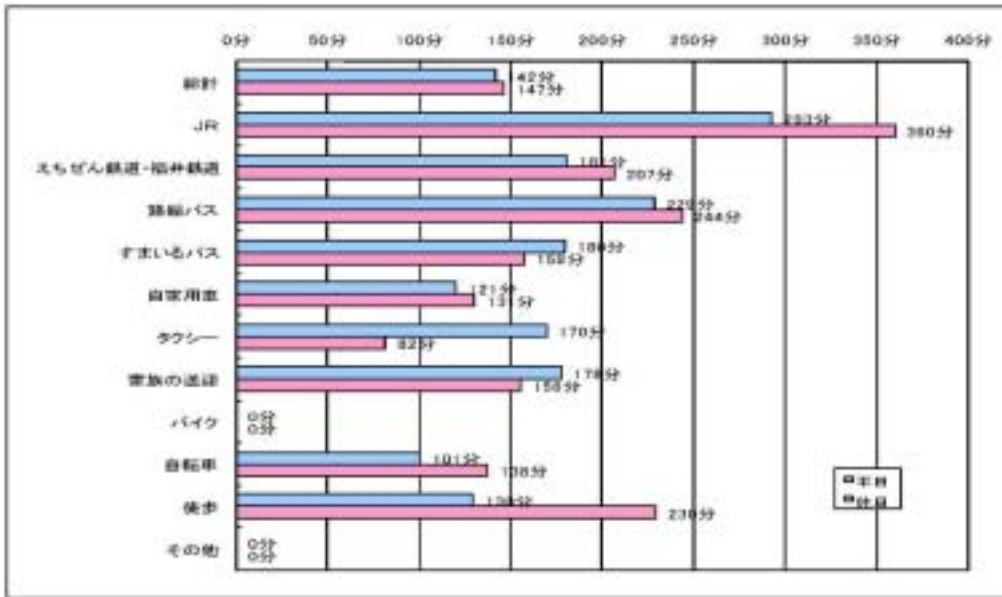
《福井駅周辺での滞在時間（年代別）》

- ・年代別に見ると、20代～30代では約 125 分、40～50代では約 135 分、60代以上では約 160 分であり、年代が上がるにつれて滞在時間が長くなる傾向が見られる。
- ※10代はサンプル数が少ないため参考値とする



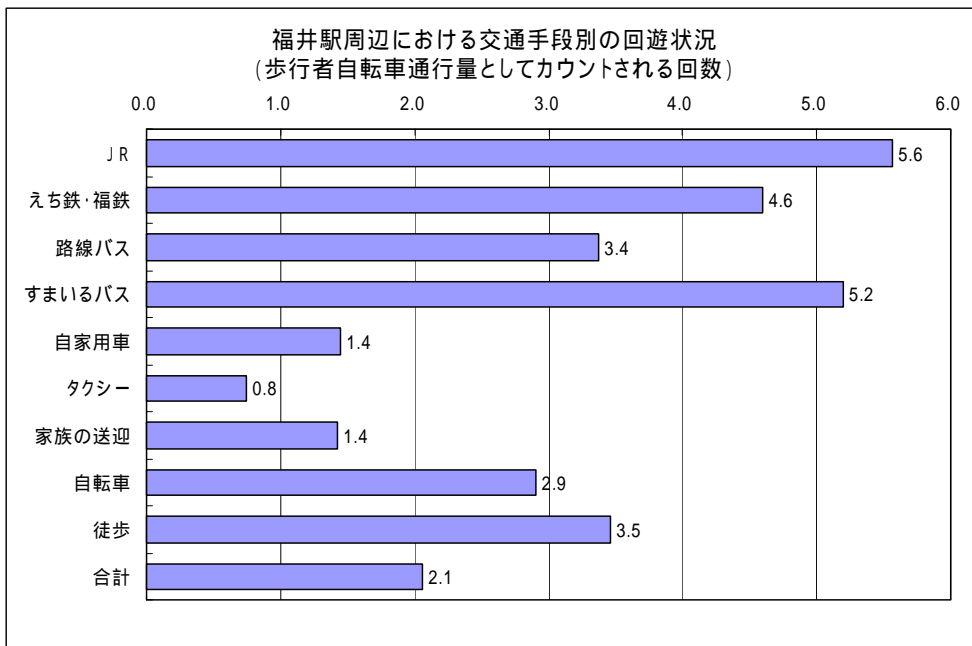
《福井駅周辺での滞在時間（交通手段別）》

- 交通手段別に平均滞在時間を見ると、自家用車利用者は公共交通利用者に比べ滞在時間が短い傾向が見られる。



《福井駅周辺における交通手段別の回遊状況》

- 交通手段別に見ると、JR 7 件、えちぜん鉄道・福井鉄道 15 件、路線バス 27 件、すまいるバス 10 件、自家用車 249 件、タクシー 4 件、家族の送迎 21 件、自転車 30 件、徒歩 13 件となっており、自家用車が最も多くなっている
- この調査結果を自転車・歩行者通行量の調査地点 10 地点と重ね、歩行者・自転車通行量として何回カウントされるか集計した結果、JR で来街した者が最も多く 5.6 回、次いですまいるバス 5.2 回、えち鉄・福鉄 4.6 回の順で、公共交通機関等での来街者が広く回遊している状況が伺える。
- 自家用車で来街者は 1.4 回であり低く、目的地志向が強くなっている。



(4) 市民意識調査

①平成 23 年度調査

◆調査の概要

調査機関：福井市
 調査実施期間：平成 23 年 8 月 10 日 ～ 24 日
 対象者：市内に居住する 18 歳以上の男女 2,500 人
 回収数：1,251 (配布数 2,500 回収率 50.0%)
 調査方法：アンケート方式

- ・ 19 の施策について、その満足度及び重要度に関する調査を実施している。重要度の調査で「賑わいのある中心市街地をつくる」は常に上位にランク付けされ、平成 22 年以後は最も多くなっている。また、その割合は徐々に多くなってきており、平成 23 年には 30.1% であり、市民のほぼ 3 割が重要な施策であるとの評価となっている。
- ・ 平成 23 年の満足度と重要度の関係をみると、「賑わいのある中心市街地をつくる」は満足度が最も低く、重要度が最も高くなっている。

表 特に重点的に取り組むべき施策

	上位 1 位	上位 2 位	上位 3 位
H23 年	賑わいのある中心市街地をつくる (30.1%)	安心して子どもを産み育てられる環境をつくる (26.1%)	全ての人が安心して暮らせる地域社会をつくる (23.5%)
H22 年	賑わいのある中心市街地をつくる (28.8%)	安心して子どもを産み育てられる環境をつくる (26.5%)	全ての人が安心して暮らせる地域社会をつくる (23.6%)
H21 年	安心して子どもを産み育てられる環境をつくる (26.0%)	賑わいのある中心市街地をつくる (24.7%)	全ての人が安心して暮らせる地域社会をつくる (23.6%)
H20 年	安心して子どもを産み育てられる環境をつくる (28.1%)	賑わいのある中心市街地をつくる (26.1%)	子どもたちの生きる力を育てる (23.0%)

資料：福井市民意識調査

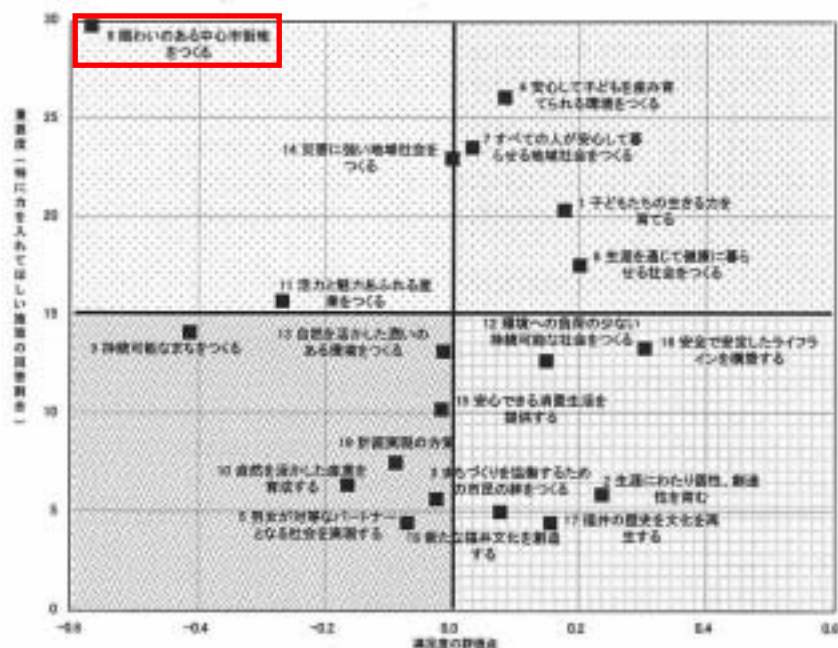


図 19 の施策の満足度と重要度の関係 (H23)

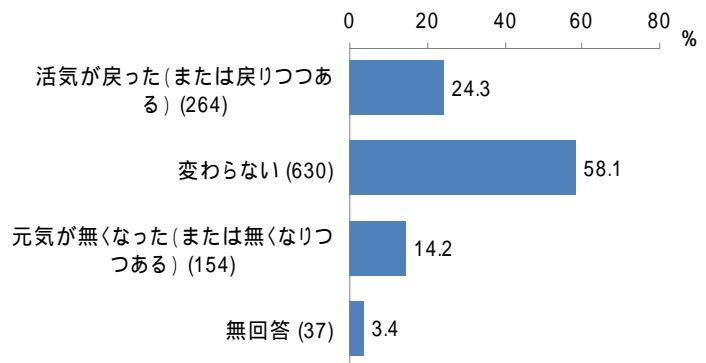
②平成 24 年度調査

◆調査の概要

調査機関：福井市
 調査実施期間：平成 24 年 6 月 28 日 ～ 7 月 12 日
 対象者：市内に居住する 18 歳以上の男女 2,500 人
 回収数：1,085 件（配布数 2,500 回収率 43.4%）
 調査方法：アンケート方式

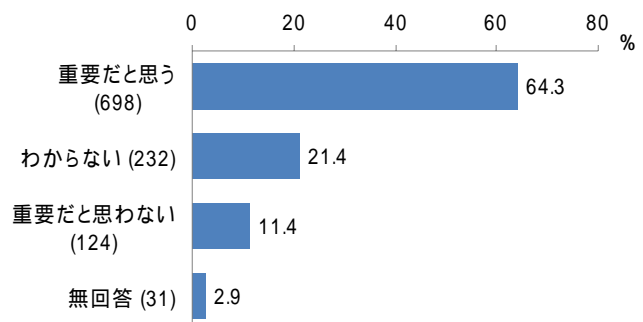
《中心市街地の印象の変化》

・平成 18 年ごろ（JR 福井駅高架化、プリズム福井・アオッサ開業前後）の中心市街地と比べて、「変わらない」と回答した人が最も多く 58.1%。「活気が戻った（または戻りつつある）」と回答した人 24.3%となっており、あまり変化を感じていない。



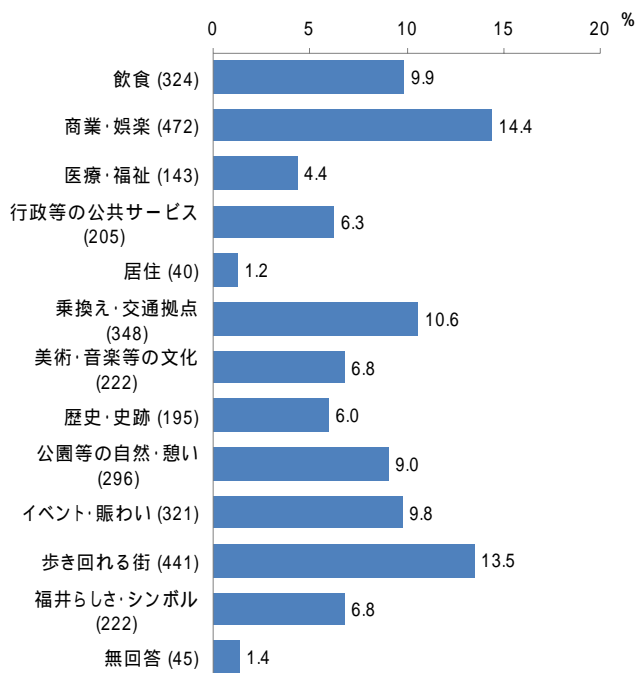
《中心市街地活性化の必要性》

・引き続き中心市街地の活性化に取り組むことの必要性については、64.3%の人が「重要だと思う」と回答しており、6割以上の人が重要性を感じている。



《中心市街地に期待する機能》

・中心市街地に期待する機能として「商業・娯楽」と回答した人が最も多く 14.4%、次いで「歩き回れる街」と回答した人が 13.5%、「乗換え・交通拠点」と回答した人が 10.6%となっている。



(5) 福井市中心市街地活性化に関する意識調査

◆調査の概要

調査機関：福井商工会議所

調査実施期間：平成 24 年 7 月 20 日 ～ 8 月 3 日

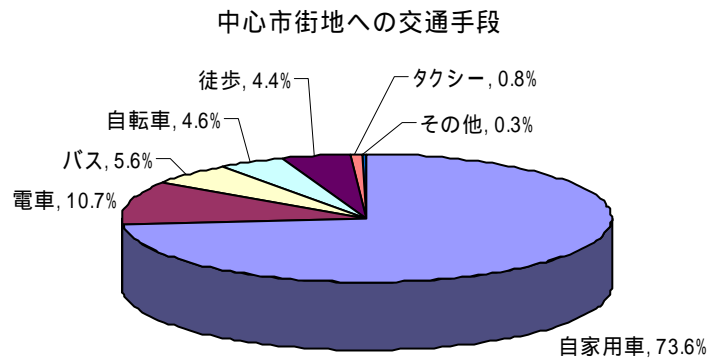
対象者：福井県民など

回収数：2,436 件

調査方法：街頭聞き取り調査と企業従業員への調査

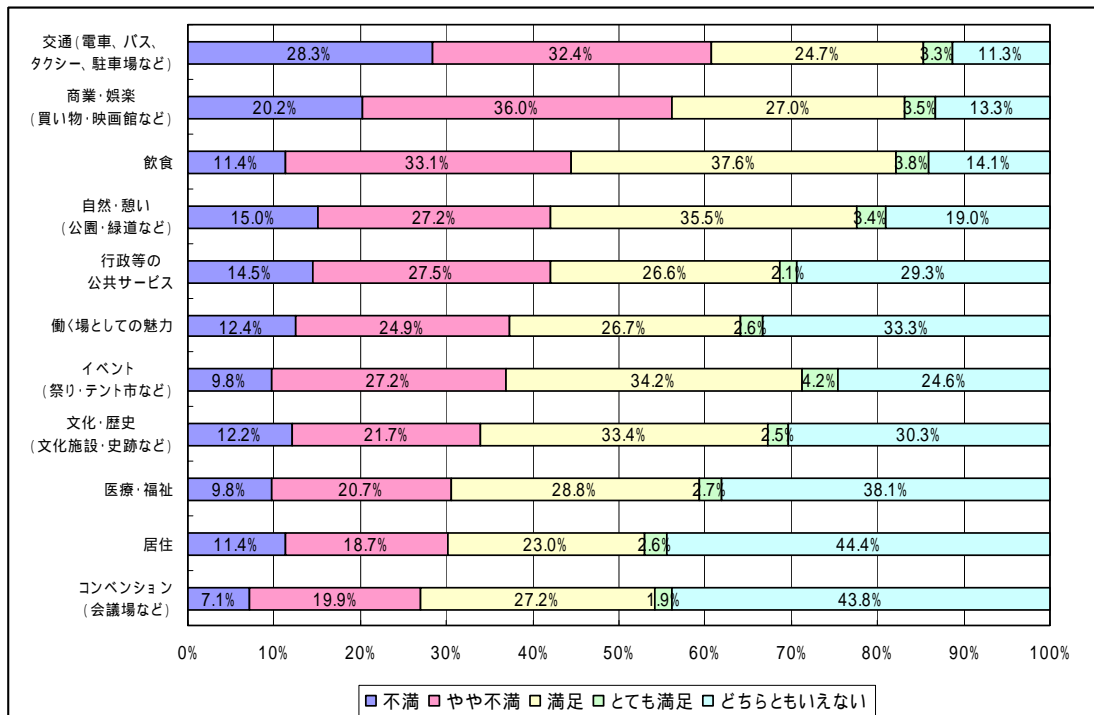
《中心市街地への交通手段》

- ・最も多いのは、「自家用車」73.6%、次いで「電車」10.7%、「バス」5.6%の順となっている。



《中心市街地への満足度（不満足度が高い順）》

- ・不満足度（「不満」と「やや不満」の合計）については、「交通（電車、バス、タクシー、駐車場など）」が 60.7%、「商業・娯楽（買い物・映画館など）」が 56.2%と高くなっている。



[5] 中心市街地活性化に向けたこれまでの取組と評価

(1) 第1期計画の概要

- ・計画期間：平成19年11月～平成25年3月（平成19年11月30日認定）
- ・区域面積：105.4ha
- ・基本的な方針
 - 多様な手段で行動ができる交通体系の維持・強化を図る
 - まちなか居住を愉しむ定住を促進する
 - にぎわい交流空間の形成を図る
 - 福井駅を玄関口とする自然と歴史が調和した魅力ある都市環境を創出する
- ・目標と評価指標

目 標	目標指標	基準値 (H18)	目標値 (H24)
目標① 訪れやすい環境をつくる	公共交通機関乗車数 (鉄道一日平均)	13,592 人/日	15,300 人/日
目標② 居住する人を増やす	居住人口	4,474 人	5,200 人
目標③ 歩いてみたくなる魅力を高める	歩行者・自転車通行量 (休日)	43,440 人/日	52,500 人/日



(2) 第1期計画の評価

本市の中心市街地では、北陸新幹線の福井延伸を見据え、東西市街地の一体化を目指した連続立体交差事業や土地区画整理事業など長期的な視点に立った大規模な市街地の改造に取り組んできた。JR北陸線の高架化に伴い、平成17年には、新JR福井駅の開業と同時に、食料品スーパーや土産物、飲食店等が入った駅に併設するプリズム福井のオープン、平成19年4月にはJR福井駅東口に隣接する再開発ビルAOS SAのオープンなど、徐々に県都玄関口が生まれ変わりつつあった。

このような状況の中での人口減少・少子高齢社会の到来に対し、業務・商業など多様な都市機能がコンパクトに集積され、過度に自動車に依存しない持続可能な都市へと転換を図るため、平成19年11月に「福井市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、中心市街地の活性化に取り組んできた。

その結果、評価できることとして、

- ・平成21年5月に福井駅西口・東口交通広場が暫定整備（西口広場には自家用車やタクシーの乗降場、東口広場には高速バスやタクシー、自家用車の乗降場と短時間駐車場が整備）され、JRや高速バスなどの乗継が便利になったこと。
- ・福井駅周辺土地区画整理事業により、駅東側の都心環状線沿いの建物更新が進みJR福井駅周辺の景観も一新したこと。
- ・JR福井駅周辺に暫定的に整備されたアクティブスペース（福井駅西口芝生広場、JR高架下8ブロック、新幹線高架下5ブロック、えきまえKOOCAN、ギャラリーポケット）では、「夢アート」の開催など市民が主体となった文化活動や、イベントやライブ活動などでの利用が増えるなど、市民が文化活動の場として中心市街地を利用している状況が見られるようになってきたこと。
- ・再開発事業により移転整備された病院跡地に大手予備校が開校したことや、優良建築物等整備事業が事業化されるなど、基本計画策定当初は想定していなかった民間投資がみられたこと。

などが挙げられる。さらに、市民意識調査から市民意識の変化についてみると、「賑わいのある中心市街地をつくる」ことが重要な施策であると回答している人が最も多く、近年、その割合も徐々に高まりつつあることから、中心市街地の重要性は高まっている。

また、反省すべき点としては、

- ・県都の玄関口にふさわしい賑わい交流の拠点が整備できなかったこと。
- ・住宅の成約率が伸びていないこと。
- ・西口中央地区第一種市街地再開発事業の遅れや西口広場が整備できなかったこと。
- ・えちぜん鉄道の高架化の前提条件が整わず着工できなかったこと。

などが挙げられる。

このような状況を踏まえ、第1期計画に掲げた各目標についてみると、

目標① 『訪れやすい環境をつくる』の目標指標である『公共交通機関乗車数（鉄道一日平均）』は、目標値15,300人/日に対し13,742人/日にとどまり、目標値の90%の水準であり、目標達成は困難な状況である。

目標達成を困難にした原因としては、北陸新幹線の福井延伸の認可が遅れたことにより、えちぜん鉄道のLRT化の前提条件が整わず着手できなかったこと、市街地再

開発事業の遅れから J R 福井駅西口広場の整備ができず交通結節機能の強化が図れなかったこと、広域交流の拠点が未整備なこと、事業所数が伸びていない状況から就業場所が不足していること、中心市街地に関する意識調査（商工会議所）でも中心市街地への交通手段として自家用車利用が 73.6%と最も高く、自動車交通に依存している状況が続いていること、各種のアンケート調査で指摘されている J R 福井駅前の福井らしさ（アイデンティティ）の欠如などが考えられる。

一方、えちぜん鉄道の乗車数は、新駅の開業等により、基準値の 1.14 倍（329 人増）に増加した。特に、新駅開業の効果は、当初予想（100 人）を上回る 121 人と見込まれる。また、福井鉄道の乗車数は、パークアンドライド駐車場等の設置により、基準値の 1.06 倍（90 人増）となるなど、地方鉄道の中心市街地における乗車数が増加した。

目標② 『居住する人を増やす』の目標指標である『居住人口』は、目標値 5,200 人に対し 4,330 人にとどまり、目標値の 83%の水準となったことから、目標達成はできなかった。

目標達成できなかった原因としては、高齢化率が高く自然減の傾向が顕著であることや、リーマンショック後の景気低迷により分譲住宅の成約率が伸びなかったこと、生活利便施設の不足、まちなか住まい支援事業等居住促進策の PR 不足から目標戸数に達しなかったことなどが考えられる。

ただし、平成 16 年以降中心市街地の人口は減少を続けてきたが、平成 23 年にはじめて増加に転じた。自然減は続いているものの、優良建築物等整備事業等による 195 戸の住宅を含む 250 戸を超える住宅が供給され、平成 23 年に 140 人の社会増となるなど居住する人が増えつつある。

目標③ 『歩いてみたくなる魅力を高める』の目標指標である『歩行者・自転車通行量（休日）』は、目標値 52,500 人/日に対し、38,634 人/日にとどまり、目標値の 74%の水準となったことから、目標達成はできなかった。

目標達成できなかった原因としては、主要な事業として位置付けていた「西口中央地区第一種市街地再開発事業」、「えちぜん鉄道三国芦原線の L R T 化」等の遅れ、他の目標指標としていた「公共交通機関乗車数（鉄道一日平均）」の目標達成が困難なこと、「居住人口」が目標値を達成しなかったことなどが考えられる。

一方、アクティブスペースを整備したことにより、中心市街地において市民を主体とする文化イベントやライブ活動等での利用が増加してきていることや、大手専門学校が開校し、中心市街地内で若者の回遊が見られるようになってきていることなど効果もみられる。

しかし、年間を通してみた場合、冬季のイベントが少ないことや天候に左右されやすいこと、平日・休日を併せた日常的な賑わいが必要なことなど今後の課題も残されている。

「出会い」「暮らし」「遊び」をキーワードに事業展開を図ってきた結果、一定の効果は現れているが、少子高齢化による人口減少、リーマンショック後の景気の低迷、東日

本大震災の影響による買い控えや外出の自粛ムードなど、厳しい社会経済情勢による影響が大きく響く結果となった。その根底には、市民活動の力を十分に活かせなかったことと官民協働の不足によって、中心市街地に来街の目的となるような施設やイベントが不足し、それらによる交流人口の伸び悩みがあると考えられる。

(3) 目標・目標指標の達成状況

① 目標① 訪れやすい環境をつくる（出会い）

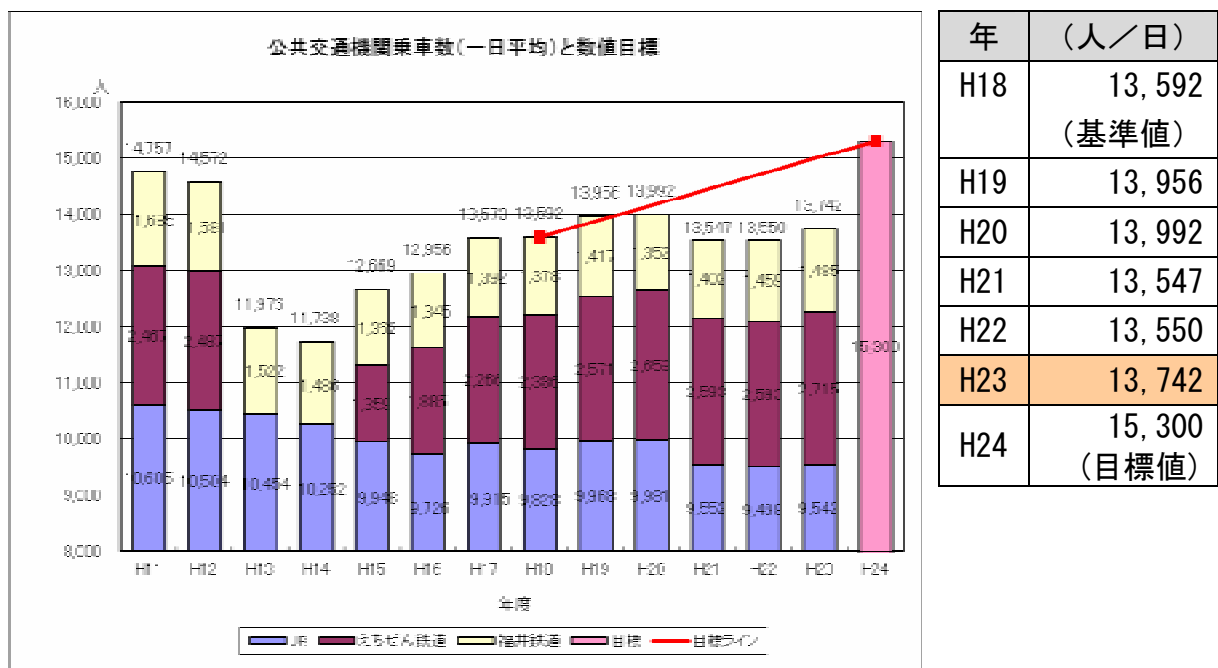
1) 目標に基づく目標指標の設定及び達成に向けた考え方

- ・誰もが訪れやすい環境をつくるための目標指標として、公共交通機関乗車数（鉄道一日平均）を設定した。
- ・目標値は、目標年次とする平成 24 年に旧基本計画策定時（平成 11 年）の公共交通機関乗車数 14,757 人/日を超える 15,300 人/日とした。
- ・訪れやすい環境をつくるため、えちぜん鉄道の新駅の設置（八ツ島駅、日華化学前駅）やえちぜん鉄道三国芦原線の L R T 化など、鉄道利用の利便性を向上することにより直接的に乗車数を増やすための事業と、福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業や福井駅高架下の利用促進など、J R 福井駅周辺に施設整備を行うことにより間接的に乗車数を増やすための事業を実施した。
- ・その他商業活性化のための事業など乗車数の増加を誘発する事業も行った。
- ・認定基本計画に記載された事業ではないものの、平成 19 年 4 月に開業した A O S S A の開業による公共交通機関乗車数の増加も目標指標の根拠として見込んだ。

■ 目標指標 公共交通機関乗車数（鉄道一日平均）

基準値（H18年）	目標値（H24年）
13,592人/日	15,300人/日

2) 目標指標の達成状況



資料：J R 西日本、えちぜん鉄道、福井鉄道

- ・訪れやすい環境をつくるの目標指標である公共交通機関乗車数（鉄道一日平均）は、目標値 15,300 人/日に対し 13,742 人/日にとどまり、目標値の 90%の水準であり、目標達成は困難な状況である。
- ・目標達成を困難にした原因としては、えちぜん鉄道の L R T 化の前提条件が整わなかったことにより J R 福井駅西口における交通結節機能の強化が図れなかったこと、福井駅西口再開発事業の遅れにより観光情報発信機能が欠如したままであること、事業所数が伸びていないなど就労場所の不足、各種の市民意識調査でいわれている J R 福井駅前の福井らしさ（アイデンティティ）の欠如などが挙げられる。
- ・一方、えちぜん鉄道の乗車数は、新駅の開業等により、基準値の 1.14 倍（329 人増）に増加した。特に、新駅開業の効果は、当初予想（100 人）を上回る 121 人と見込まれる。また、福井鉄道の乗車数は、パークアンドライド駐車場等の設置により、基準値の 1.06 倍（90 人増）となるなど、地方鉄道の中心市街地における乗車数が増加してきた。

3) 取組の進捗状況及び現時点の評価

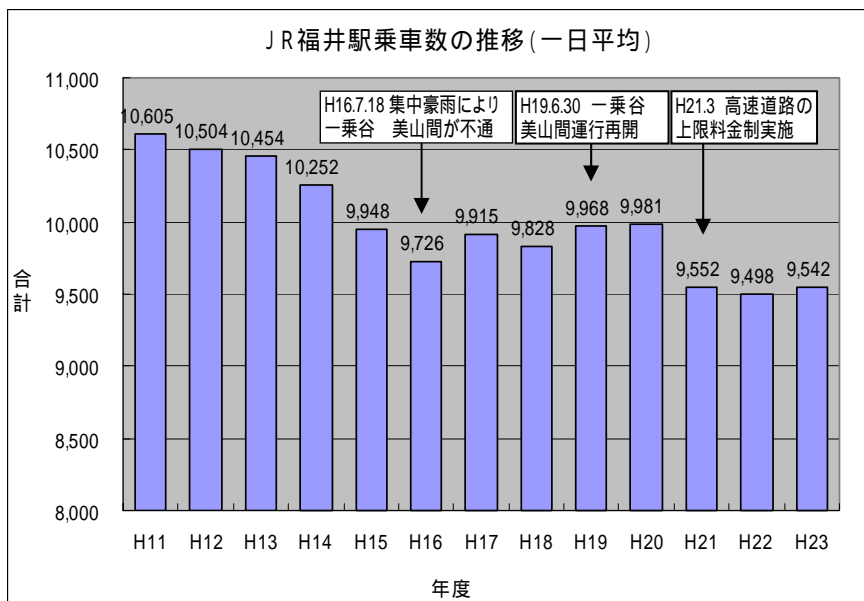
(イ) 取組の進捗状況及び現時点での評価（まとめ）

- ・公共交通機関乗車数（鉄道一日平均）は、平成 14 年から平成 20 年まで増加傾向を示していたが、平成 21 年に減少に転じた。その後再び増加し、平成 23 年には基準値（平成 18 年 13,592 人）より 150 人多い 13,742 人、目標値（平成 24 年 15,300 人）の 90%の水準となった。
- ・鉄道会社別にみると、J R の乗車数が基準値より減少し、えちぜん鉄道、福井鉄道の乗車数は増加している。
- ・えちぜん鉄道の乗車数は、平成 23 年には 2,715 人であり、基準値（平成 18 年 2,386 人）を 329 人上回り、基準値の 1.14 倍となった。また、福井鉄道の乗車数は、平成 23 年には 1,485 人であり、基準値（平成 18 年 1,395 人）を 90 人上回り、基準値の 1.06 倍となった。
- ・J R の乗車数は、平成 23 年には 9,542 人であり、基準値（平成 18 年 9,828 人）より 286 人少なく、基準値の 97%の水準となった。これは、平成 21 年 3 月より実施された高速道路の上限料金制の実施により定期外（出張、観光、買物など）の利用が減少したことが要因として挙げられる。
- ・目標達成に寄与する主要事業として位置付けていた「えちぜん鉄道の新駅整備事業」の効果を見ると、想定乗車数（100 人/日）を上回る乗車数（121 人/日）が見込まれること、パークアンドライド駐車場の設置等により福井鉄道の乗車数の増加が（基準値の 1.06 倍、90 人増）が見込まれること、A O S S A の開業による乗車数の増加 539 人/日（想定乗車数 620 人/日）が見込まれることなど、訪れやすい環境を整備するための事業効果は、着実に現れている。
- ・しかしながら、数値目標達成のための主要な事業として位置付けていた、「えちぜん鉄道三国芦原線の L R T 化」は、北陸新幹線の福井延伸の認可が見送られていたため、地域の鉄道網全体計画との整合性の観点から事業が進められなかったことや、「西口中央地区第一種市街地再開発事業」については、予定企業の事業参画が困難となったことから事業再構築の必要性が生じ、事業進捗に影響が出るなど、数値目標達成に向けた主要な事業の遅れが目標達成に影響を与えた。

(ロ) 事業者別の現状分析

○ JR

- ・ JRの乗車数は平成11年度以降減少し続け、福井豪雨により越美北線の一部区間が不通となった平成16年には9,726人にまで減少した。以後9,000人台後半で推移してきたが、平成21年に再び9,552人まで減少し、平成23年には9,542人となった。
- ・ 基準値（平成18年9,828人）より287人少なく、基準値の97%の水準となった。
- ・ 定期と定期外の内訳からみると、基準値に比べ、定期は179人増加（4%）、定期外は465人減少（9%）しており、定期外の減少幅が大きく、結果として全体の乗車数が減少した。
- ・ 要因としては、休日の高速道路上限料金1,000円が平成21年3月から始まったことが、観光や買物等を目的とする定期外の乗車数の減少に影響を与えている。



資料：JR西日本

表 JR福井駅乗車数（一日平均）（単位：人）

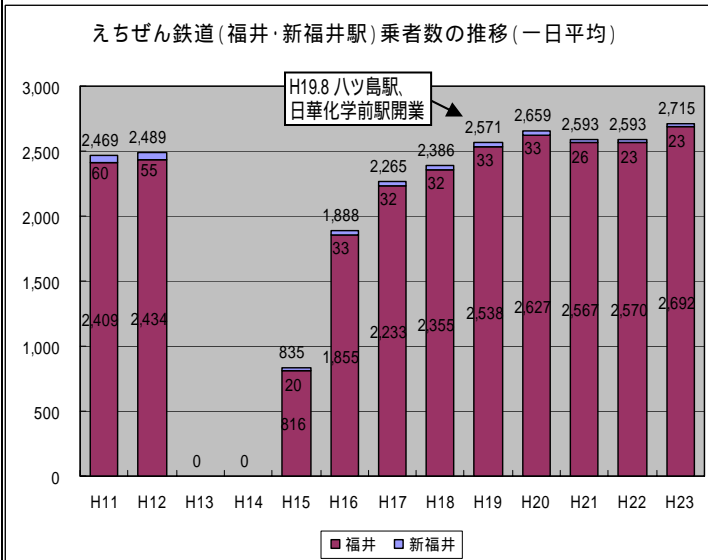
年度	合計	定期		定期外	
H11	10,605	4,979	(46.9%)	5,626	(53.1%)
H12	10,504	5,051	(48.1%)	5,453	(51.9%)
H13	10,454	5,135	(49.1%)	5,319	(50.9%)
H14	10,252	5,127	(50.0%)	5,125	(50.0%)
H15	9,948	4,977	(50.0%)	4,971	(50.0%)
H16	9,726	4,910	(50.5%)	4,816	(49.5%)
H17	9,915	4,897	(49.4%)	5,018	(50.6%)
H18	9,828	4,870	(49.6%)	4,958	(50.4%)
H19	9,968	4,935	(49.5%)	5,033	(50.5%)
H20	9,981	5,022	(50.3%)	4,959	(49.7%)
H21	9,552	5,014	(52.5%)	4,538	(47.5%)
H22	9,498	5,062	(53.3%)	4,436	(46.7%)
H23	9,542	5,049	(52.9%)	4,493	(47.1%)
H23-H18	-287	+179		-465	
H23/H18	97%	104%		91%	

資料：JR西日本

○ えちぜん鉄道

- ・えちぜん鉄道福井駅、新福井駅での乗車数は、鉄道事故による運行停止後平成 20 年度まで増加し続けていたが、平成 21 年度に一旦減少し、平成 23 年度に再び上昇し 2,715 人となっており、基準値（平成 18 年 2,386 人）より 329 人多く、基準値の 1.14 倍となった。
- ・えちぜん鉄道の新駅（八ツ島駅、日華化学前駅）が平成 19 年 8 月に開業したことにより、えちぜん鉄道福井駅・新福井駅の乗車数は開業前（H18）と比較して伸びていることから、駅開業の効果がみられる。
- ・券種別利用状況から乗客の内訳をみると、通学定期が伸びているものの、定期外（回数券、非日常型）は近年伸び悩んでいる。

表 えちぜん鉄道福井駅、新福井駅の乗車数の推移（単位：人/日）



	福井	新福井	計	備考
H11	2,409	60	2,469	京福電鉄
H12	2,434	55	2,489	
H13	鉄道事故による運行停止			えちぜん 鉄道
H14	鉄道事故による運行停止			
H15	815	20	835	
H16	1,857	33	1,890	
H17	2,233	32	2,265	
H18	2,354	32	2,386	
H19	2,538	33	2,571	
H20	2,627	33	2,660	
H21	2,567	26	2,593	
H22	2,570	23	2,593	
H23	2,692	23	2,715	
H23-H18	+338	-9	+329	
H23/H18	+114%	72%	+114%	

資料：えちぜん鉄道

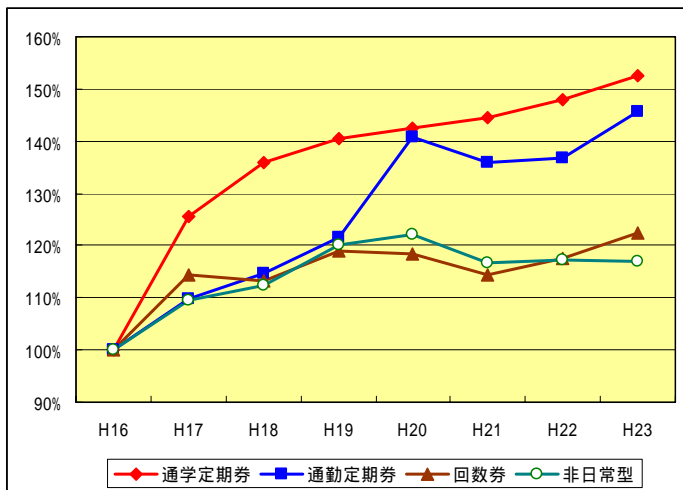
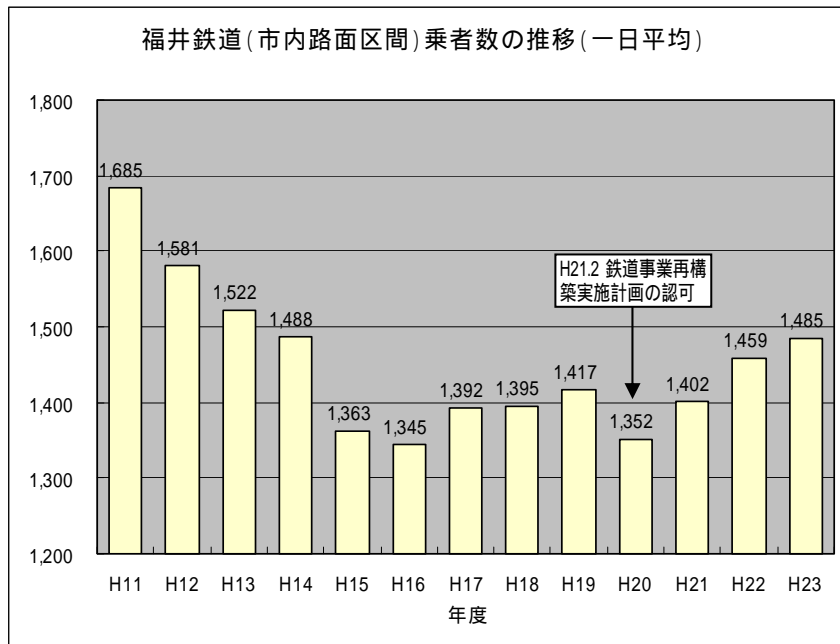


図 券種別利用の推移 平成 16 年との比較 資料：えちぜん鉄道

○ 福井鉄道

- ・福井鉄道市内路面区間の乗車数は、平成 11 年以降平成 16 年まで減少し続け、その後概ね 1,300 人台で推移していたが、平成 21 年度に増加し、平成 23 年度には 1,485 人となった。
- ・基準値（平成 18 年 1,395 人）より 90 人多く、基準値の 1.06 倍となっている。
- ・福井鉄道の「鉄道事業再構築実施計画」が認定されたのは平成 21 年 2 月のことであり、それ以後、パークアンドライドの利用促進事業として、鉄道利用者のための駐車場設置（花堂・江端・三十八社駅）及び駐輪場設置（泰澄の里・清明駅）などハード整備を行ったこと、高齢者割引制度の導入、地域イベントとの連携強化などソフト面での利便性向上を図ったことが増加につながった。



資料：福井鉄道

表 福井鉄道（市内路面区間）乗者数の推移（単位：人/日）

年度	福井鉄道
H11	1,685
H12	1,581
H13	1,522
H14	1,488
H15	1,363
H16	1,345
H17	1,392
H18	1,395
H19	1,417
H20	1,352
H21	1,402
H22	1,459
H23	1,485
H23-H18	+90
H23/H18	106%

(ハ) 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

○ えちぜん鉄道新駅整備事業（えちぜん鉄道株）

事業完了時期	【済】平成19年8月
事業概要	えちぜん鉄道三国芦原線の福大前西福井―新田塚駅間に、新駅2箇所を整備（八ツ島駅、日華化学前駅）
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の乗車数見込み：100人/日</u> 2駅の乗車数は256人/日（平成23年度）であり、当初の見込み323人/日より67人/日少ない。しかし、これに来街確率（47.3%：八ツ島駅、日華化学前駅から福井駅・福井新駅の利用者の割合）を乗じると、乗車数は121人/日となり、福井駅・新福井駅利用者は当初の見込みより21人/日多い。

○ えちぜん鉄道三国芦原線のLRT化（公共交通事業者、福井県、福井市）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	えちぜん鉄道三国芦原線を福井鉄道の路面軌道区間へ乗り入れLRT化する。また、福井鉄道をえちぜん鉄道三国芦原線へ乗り入れ、相互直通運行とする。そのために必要な交通結節機能の強化を図るため周辺整備を行う。
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の乗車数見込み：420人/日（内訳：えちぜん鉄道福井駅・新福井駅の見込み乗車数：210人/日、福井鉄道市内路面区間の見込み乗車数：210人/日）</u> 平成20年度に福井市都市交通戦略を策定し、LRT化や交通結節機能の強化などの施策を位置づけた。しかしながら、えちぜん鉄道三国芦原線については、東側単独高架で、福井駅に結節することになった。このため、えちぜん鉄道三国芦原線のLRT化については、関係者間で再検証を行う。

○ 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業

（福井駅西口中央地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	周辺地区との連携機能、駅前広場の補完機能、まちなか居住機能等の整備を市街地再開発事業で行う。
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の乗車数見込み：410人/日</u> 予定企業の事業参画が困難になったことから事業の再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめ、再開発組合の設立認可申請を行い、平成24年6月に再開発組合が設立された。

○ A O S S Aの見込み

事業完了時期	【済】平成18年度
事業概要	福井駅東口において、商業・業務施設と、生涯学習機能を持った公共公益施設の複合施設を官民一体となって整備した。
事業効果又は進捗状況	<p>認定時の乗車数見込み：620人/日</p> <p>認定時の乗車数見込みは、A O S S Aの入館者数 5,827人/日にパーソントリップ調査を参考とする公共交通機関で中心市街地に来街する人の割合10.7%を乗じて620人/日と見込んだ。平成19年度の「A O S S A来館者アンケート調査」によると、A O S S A利用者884人のうち、A O S S Aのみの利用者475人、その他の場所1箇所利用者289人、2箇所利用者99人、3箇所利用者18人、4箇所利用者3人であった。その他の場所1箇所利用者の1/2、2箇所利用者の1/3、3箇所利用者の1/4、4箇所利用者の1/5がA O S S Aを主に利用する者とする、その人数は661.6人(74.8%)となる。また、鉄道での来館割合16.8%(鉄道利用者85人)となっている。</p> <p>平成23年度のA O S S Aの入館者数は4,262人/日であり、これにA O S S Aを主とした利用者の割合、鉄道での来館割合を乗じることにより乗車数の見込みを算定すると、$4,262人/日 \times 74.8\% \times 16.8\% = 536人/日$となる。このため、当初の見込みより84人/日少ない。</p>

○ 福井駅高架下利用促進事業(福井市)

事業完了時期	【済】平成21年11月
事業概要	高架下を利用して商業拠点を整備する。
事業効果又は進捗状況	<p>認定時の乗車数見込み：40人/日</p> <p>新幹線の延伸が見込めない状況の中で商業施設を整備しても事業が成り立たないので、平成13年度に策定した当初の高架下利用計画にある駐車場として暫定的に整備した。</p>

○ その他の商業活性化事業等の取組による効果

事業完了時期	【実施中】継続して実施
事業概要	響のホールの利用促進や福井駅前南通り商店街アーケード整備事業、賑わい創出事業、賑わいづくり支援事業などにより歩行者動線軸を中心に魅力の向上を図る。また、さくらの小径・浜町通り界隈の整備や浜町おもてなし空間づくり事業により歩きたくなる魅力を高める。
事業効果又は進捗状況	<p>認定時の乗車数見込み：90人/日</p> <p>響のホールの利用促進など目標③歩いてみたくなる魅力を高めるための事業(①～⑤)の実施による事業効果として、公共交通機関利用者が増加するものとした。</p> <p>目標③の事業①～⑤の実施により2,277人/日の効果があることから、想定される効果は24人/日($2,277人/日 \times 10\% \times 10.7\% = 24$)となる。このため数字が、当初の見込みより66人/日程度少ない。</p>

② 目標② 居住する人を増やす（暮らし）

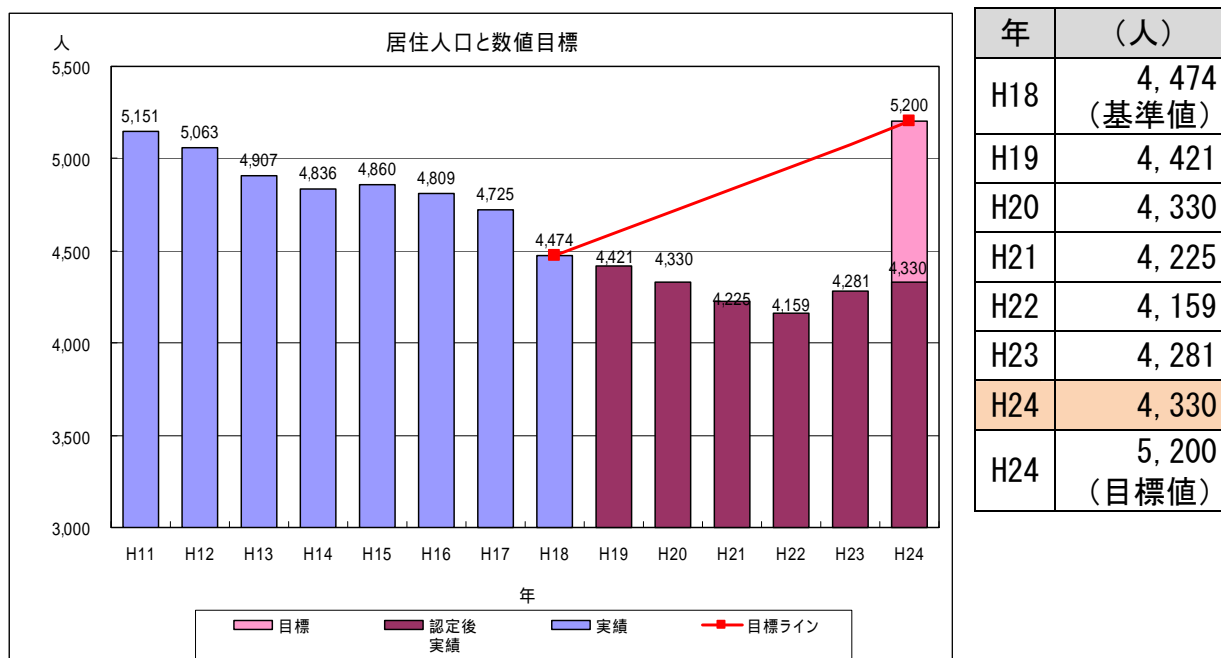
1) 目標に基づく目標指標の設定及び達成に向けた考え方

- ・ 居住する人を増やす目標指標として、居住人口を設定した。目標値は、目標年次とする平成 24 年に旧計画策定時（平成 11 年）の 5,151 人を超える 5,200 人とした。
- ・ 西口中央地区第一種市街地再開発事業、優良建築物等整備事業による住宅供給等を行うこととした。

■ 目標指標 居住人口

基準値（H18年）	目標値（H24年）
4,474人	5,200人

2) 目標指標の達成状況



資料：福井市住民基本台帳（各年10月1日）

- ・ 居住する人を増やすの目標指標である居住人口は、目標値 5,200 人に対し 4,330 人にとどまり、目標値の 83% の水準となり、目標達成できなかった
- ・ 目標達成できなかった原因としては、高齢化率が高く自然減の傾向が顕著であることや、生活利便施設の不足などが考えられる。
- ・ 平成 16 年以降中心市街地の人口は減少を続けてきたが、平成 23 年にはじめて増加に転じた。自然減は続いているものの、優良建築物等整備事業等による 195 戸の住宅を含む 250 戸を超える住宅の供給により、140 人の社会増となるなど居住する人は増えている。

3) 取組の進捗状況の分析及び現時点の評価

(イ) 取組の進捗状況の分析及び現時点の評価 (まとめ)

- ・ 中心市街地の人口は減少し続けていたものの、平成 23 年に人口増加に転じた。優良建築物等整備事業が行われた地区（中央 3 丁目、大手 2 丁目）や新規にマンションが供給された地区（中央 2 丁目）で増加し、その他の地区では減少していることから、中心市街地において居住人口を増やすための事業に取り組んできたことで、一定の成果が表れた。
- ・ 年齢階層別の傾向をみると、高齢者の割合が高まる一方で、地域の担い手となるべき若年世代の減少が続いている。
- ・ 高齢者の割合が高いという中心市街地の人口構成を踏まえると、今後も自然減による人口減少の傾向が続くと予想される。
- ・ 目標達成に寄与する主要事業として位置付けていた事業の効果をみると、実施された事業で 250 戸を超える住宅が供給されたものの、リーマンショック後の景気低迷の影響により成約率が上がらず、販売戸数が 203 戸にとどまり、居住人口は 449 人の増加となり、当初想定していた事業効果が発現しなかったことが要因として挙げられる。
- ・ 主要な事業の一つに位置づけられている「福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業」の遅れも目標達成に深刻な影響を与えた。

(ロ) 居住人口に関する現状分析

○ 人口動態

- ・ 社会動態は、平成 21 年度までマイナス傾向が続いていたが、平成 22 年度以降は社会増（転入超過）に転じ、人口動態もプラスに転じている。
- ・ 自然動態は、死亡数が出生数を上回る自然減の傾向が続いており、大きな変化はみられない。

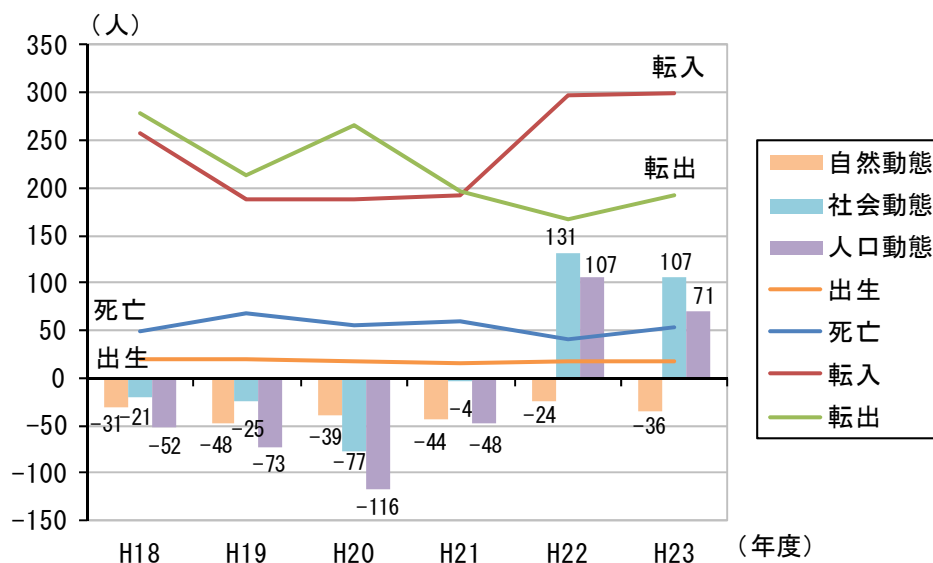


図 中心市街地（順化地区）の人口動態 資料：住民基本台帳

○ 人口・世帯数

- ・ 中心市街地の人口は、基準年と比較して144人減少（基準年比3.2%減少）、世帯数は115世帯増加（基準年比6.4%増加）した。
- ・ 町丁目別人口は、基準年と比較して中央2・3丁目、大手2丁目で増加、その他の地区で減少した。
- ・ 町丁目別世帯数は、基準年と比較して中央1～3丁目、大手2丁目、日之出1丁目で増加、その他の地区で減少した。
- ・ 前年度との比較では、中央1・3丁目、大手2丁目、順化2丁目、日之出1丁目で人口増加となった。
- ・ 大手3丁目、手寄1丁目では、人口・世帯数ともに減少が続いている。

表 町丁目別人口・世帯数の増減

町名	基準年 (H18.10)		前年 (H23.10)		現況 (H24.10)		基準年比増減		基準年比増減率		前年比増減		前年比増減率	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
中央1丁目	563	197	511	212	524	219	▲ 39	22	▲ 6.9%	11.2%	13	7	2.5%	3.3%
中央2丁目	595	243	640	283	637	283	42	40	7.1%	16.5%	▲ 3	0	▲ 0.5%	0.0%
中央3丁目	293	125	334	164	340	172	47	47	16.0%	37.6%	6	8	1.8%	4.9%
大手1丁目	248	89	211	76	207	77	▲ 41	▲ 12	▲ 16.5%	▲ 13.5%	▲ 4	1	▲ 1.9%	1.3%
大手2丁目	656	278	702	315	746	338	90	60	13.7%	21.6%	44	23	6.3%	7.3%
大手3丁目	144	42	134	42	131	40	▲ 13	▲ 2	▲ 9.0%	▲ 4.8%	▲ 3	▲ 2	▲ 2.2%	▲ 4.8%
順化1丁目	544	222	507	214	505	214	▲ 39	▲ 8	▲ 7.2%	▲ 3.6%	▲ 2	0	▲ 0.4%	0.0%
順化2丁目	841	324	727	298	728	298	▲ 113	▲ 26	▲ 13.4%	▲ 8.0%	1	0	0.1%	0.0%
日之出1丁目	324	156	282	152	289	159	▲ 35	3	▲ 10.8%	1.9%	7	7	2.5%	4.6%
手寄1丁目	266	111	233	108	223	102	▲ 43	▲ 9	▲ 16.2%	▲ 8.1%	▲ 10	▲ 6	▲ 4.3%	▲ 5.6%
計	4,474	1,787	4,281	1,864	4,330	1,902	▲ 144	115	▲ 3.2%	6.4%	49	38	1.1%	2.0%

資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

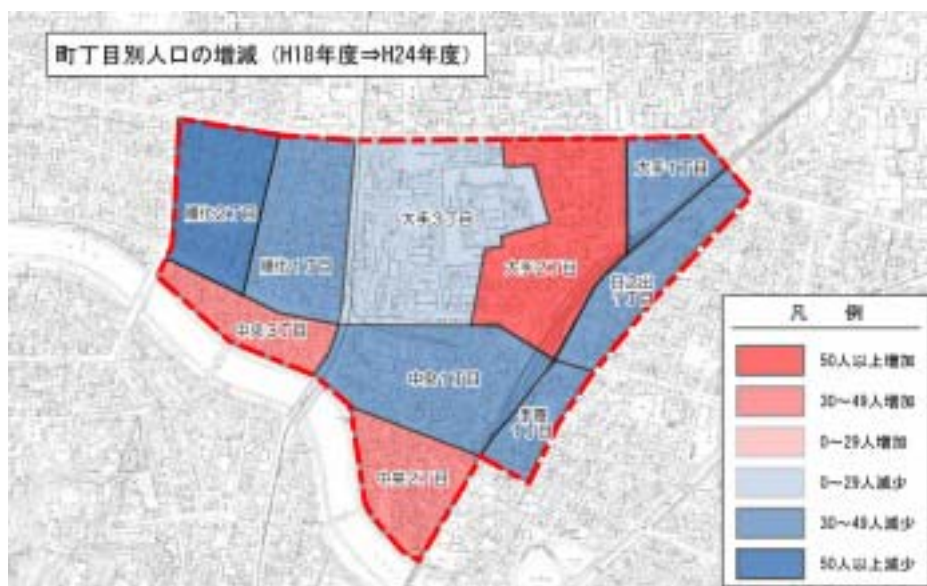


図 町丁目別人口の増減 資料：住民基本台帳

○ 年齢階層別人口

- ・中心市街地の高齢化率は、33.0%（平成24年時点）となっており、本市平均（24.4%）を大きく上回っている。
- ・平成18年と平成23年を比較すると、高齢人口（65歳以上）が増加している一方で、年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）が減少していることから、地域の担い手となるべき若年世代の転出が進んでいる様子が伺える。

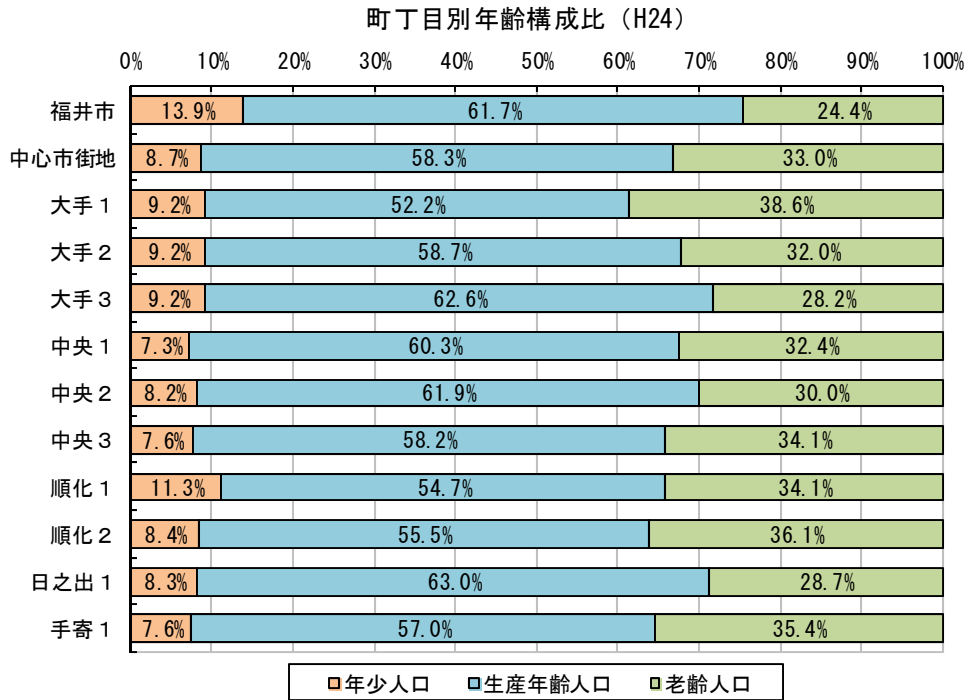


図 町丁目別年齢構成比（平成23年） 資料：住民基本台帳

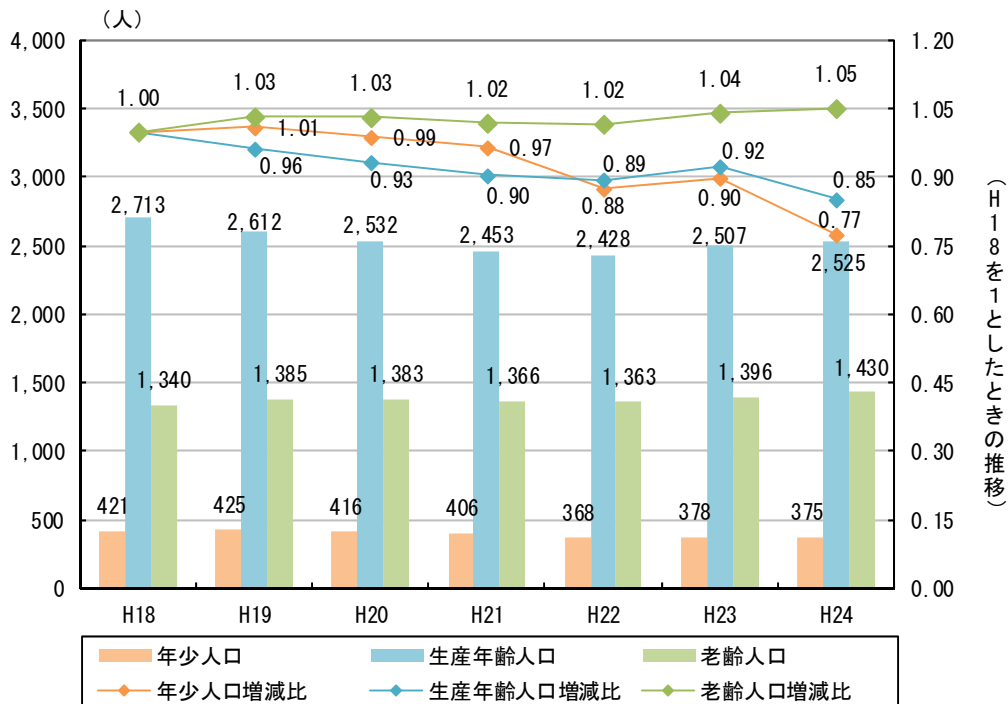


図 年齢階層別人口の推移 資料：住民基本台帳

(ハ) 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

○ 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業【再掲】
(福井駅西口中央地区市街地再開発組合)

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	前掲
事業効果又は進捗状況	認定時の住宅戸数見込み：130 戸 予定企業の事業参画が困難になったことから、事業の再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめた。再開発組合設立認可申請を行い、平成 24 年 6 月に再開発組合が設立された。

○ 中央 1 丁目 (駅前南通り) 地区優良建築物等整備事業 (合同開発株)

事業完了時期	【済】平成 22 年 1 月
事業概要	延床面積：約 10,000 m ² 、構造・階数：SRC 造・地上 14 階、居住施設、商業施設、駐車場
事業効果又は進捗状況	認定時の住宅戸数見込み：69 戸 施設建築物の工事が完了し、75 戸の住宅が供給された。

○ 中央 3 丁目地区優良建築物等整備事業 (日本システムバンク株)

事業完了時期	【済】平成 21 年 12 月
事業概要	延床面積：約 4,000 m ² 、構造・階数：SRC 造・地下 1 階地上 12 階、居住施設、コミュニティルーム、駐車場
事業効果又は進捗状況	認定時の住宅戸数見込み：30 戸 施設建築物の工事が完了し、33 戸の住宅が供給された。

○ ウララまちなか住まい事業 (福井市)

事業完了時期	【済】平成 21 年 3 月
事業概要	都心居住推進区域内【中心市街地の区域 (105ha) 及び市街地中心部 (630ha)】での良質な住宅の供給を支援する (共同住宅建設補助、共同住宅リフォーム補助、戸建て住宅補助、若年・子育て世帯定住支援)。
事業効果又は進捗状況	認定時の住宅戸数見込み：22 戸 ウララまちなか住まい支援事業が完了し、53 戸 (平成 19 年度) に対して補助を行なった。

- これまでの推移から想定される住宅着工戸数、中心市街地共同住宅誘導事業による住宅建設支援、福井市再開発専門家派遣事業、まちなか居住推進事業による住宅建設促進や福井空き家情報バンクの活用による住宅供給の推進、県都活性化税制による住宅開発の民間投資の誘導

事業完了時期	<p>I. 大手2丁目地区優良建築物等整備事業（大和ハウス工業㈱） 【済】平成23年3月</p> <p>II. 城の橋通り地区優良建築物等整備事業（合同開発㈱） 【未】平成24年度</p>
事業概要	<p>I. 延床面積：約11,000㎡、構造・階数：RC造・地上14階、居住施設、診療所、駐車場</p> <p>II. 延床面積：約4,000㎡、構造・階数：SRC造・地上10階、居住施設、店舗、事務所、駐車場</p>
事業効果又は進捗状況	<p>認定時の住宅戸数見込み：145戸</p> <p>I. 施設建築物の工事が完了し、87戸の住宅が供給された。</p> <p>II. 施行者代表である民間事業者が、平成24年2月に自己破産し、施設建設の見通しが立たない。</p>

③ 目標③ 歩きたくなる魅力を高める（遊び）

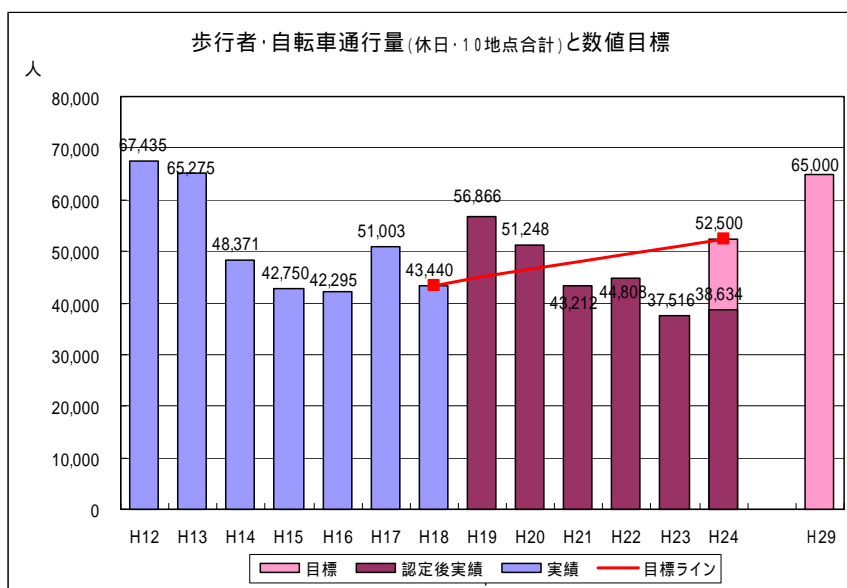
1) 目標に基づく目標指標の設定及び達成に向けた考え方

- 歩きたくなる魅力を高める数値目標として、歩行者・自転車通行量（休日）を設定した。目標値の設定に当たっては、認定基本計画策定時（平成19年）に10年後（平成29年）までに生活創庫が閉店する前の年次（平成13年）の65,000人まで回復することを目指すこととし、目標年次とする平成24年においては、52,500人とした。
- 歩きたくなる魅力を高めるため、西口中央地区第一種市街地再開発事業、福井駅高架下の利用促進、公共交通機関利用者の増加による来街者の増加、居住者の増加による来街者の増加、その他のソフト事業を行うこととした。
- 認定基本計画に記載された事業ではないものの、平成19年4月に開業したAOSAの開業による公共交通機関乗車数の増加も目標指標の根拠として見込んでいた。

■ 目標指標 歩行者・自転車通行量

基準値（H18年）	目標値（H24年）
43,440人/日	52,500人/日

2) 数値目標の達成状況



年	(人/日)
H18	43,440 (基準値)
H19	56,866
H20	51,248
H21	43,212
H22	44,808
H23	37,516
H24	38,634
H24	52,500 (目標値)

- 歩いてみたくなる魅力を高めるの目標指標である歩行者・自転車通行量（休日）は、目標値 52,500 人/日に対し、38,634 人/日にとどまり、目標値の 74% の水準となり、達成できなかった。

3) 取組の進捗状況の分析及び現時点の評価

(イ) 取組の進捗状況の分析及び現時点の評価（まとめ）

- 歩行者・自転車通行量（休日）は、基本計画認定後も減少傾向が続いている。
- 中心市街地内での主な取組と歩行者・自転車通行量（休日）の関係をみると、平成17年のJR福井駅及びプリズム福井のオープンや平成19年のAOSAのオープン時には歩行者・自転車通行量が増加していることから、ハード事業による

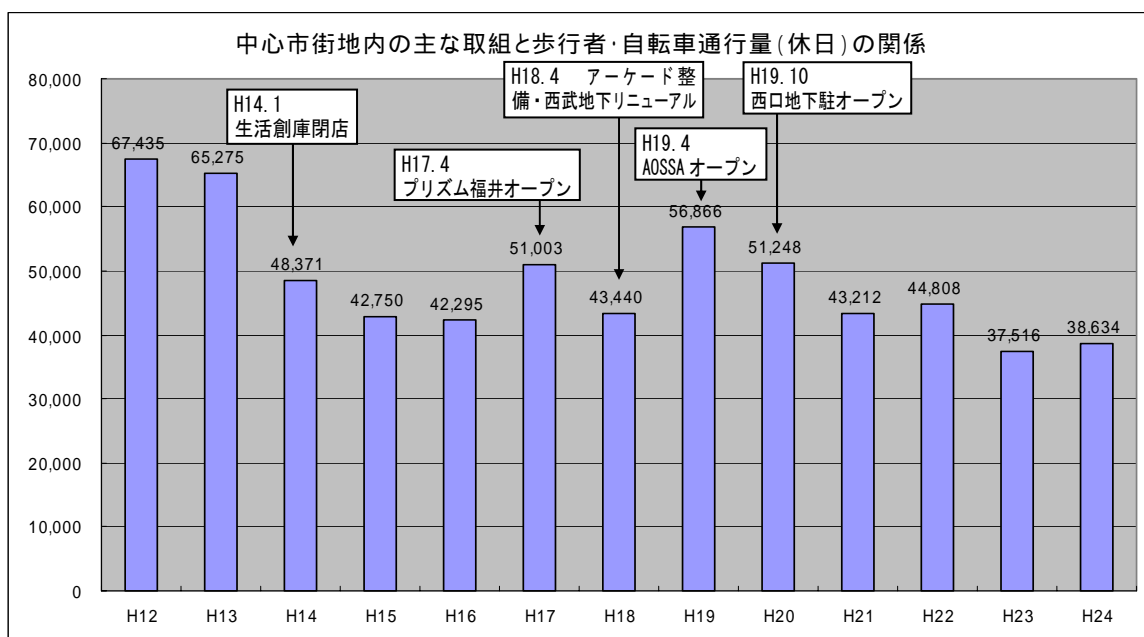
事業効果は発現している。

- ・活性化のための多くの取組が最も集中している福井駅周辺の代表地点である駅前アーケードについてみると、まちづくり活動推進事業や中心市街地商業コーディネート事業などによる取組の効果が現れている。
- ・目標値達成のための主要な事業として位置付けていた、「西口中央地区第一種市街地再開発事業」、「えちぜん鉄道三国芦原線のLRT化」等の事業の遅れが数値目標達成に影響を与えた。
- ・目標指標としていた公共交通機関乗車数や居住人口が目標値を達成していないこと、すまいるバスの利用者数が平成19年をピークに減少に転じていることの影響もあわせて受けているものと思われる。
- ・JR福井駅及びプリズム福井のオープンや、AOSSAのオープンにより、一時的に歩行者・自転車通行量は増加したものの、総じて減少傾向にあることから、継続して対策を講じていく必要がある。
- ・アクティブスペースを整備したことにより、中心市街地において市民を主体とする文化イベントやライブ活動等が数多く実施されたこと、AOSSAがオープンしたこと、さらには第1期計画に位置付けている事業の推進等により大手専門学校が開校したことにより、中心市街地内で若者の回遊が見られるようになってきた。
- ・年間を通してみた場合、冬季のイベントが少ないことや平日・休日を併せた日常的な賑わいが必要なことなどが挙げられる。

(ロ) 歩行者自転車通行量に関する現状分析

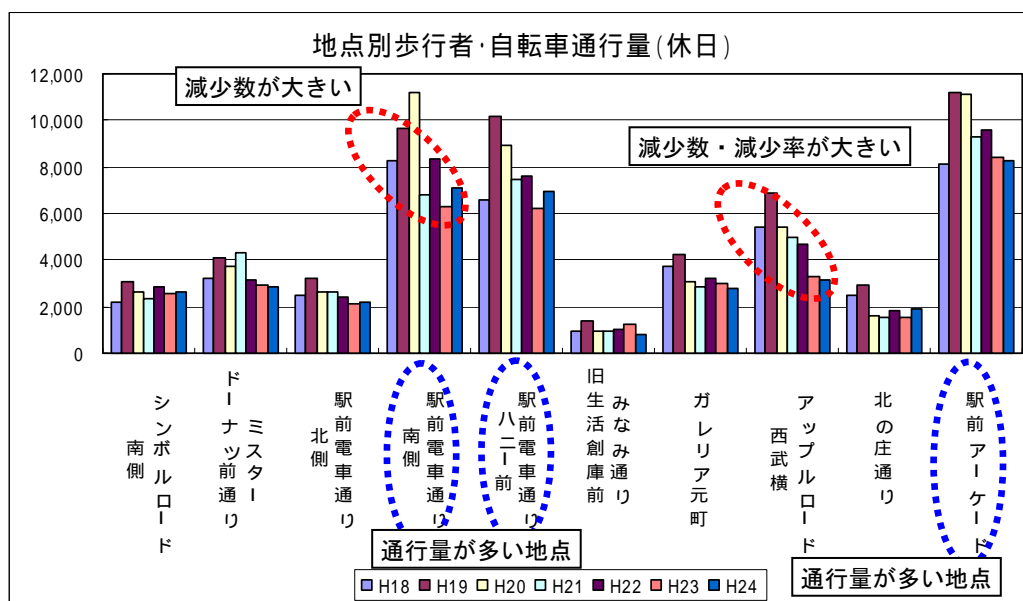
○ 中心市街地内の主な取組との関係

- ・平成17年のJR福井駅及びプリズム福井のオープン後や平成19年のAOSSAのオープン後には歩行者・自転車通行量が増加していることから、これらの事業効果はあるといえる。
- ・ハード整備の事業効果発現後は再び徐々に減少する傾向がみられることから、継続して対策を講じていかなければ、減少に歯止めがかからないと考えられる。



○ 地点別

- ・ 歩行者・自転車通行量（休日）を地点別にみると、最も通行量が多い地点は、⑩駅前アーケードで8,253人、次いで④駅前電車通り南側7,106人、⑤駅前電車通りハニー前6,928人となっており、いずれの地点もAOSSA～プリズム福井～響のホール～西武福井店を結ぶ歩行者動線軸上の地点である。
- ・ 基準年（平成18年）と比較して交通量が増加した地点は、①シンボルロード南側501人増（ $H24/H18=1.23$ ）、⑤駅前電車通りハニー前376人増（ $H24/H18=1.06$ ）、⑩駅前アーケード153人増（ $H24/H18=1.02$ ）の3箇所で、減少が大きい地点は、⑧アップルロード西武横1,839人減（ $H24/H18=0.52$ ）、④駅前電車通り南側1,138人減（ $H24/H18=0.84$ ）で、⑧アップルロード西武横は減少率が最も大きく通行量がほぼ半減した。
- ・ 活性化のための多くの取組が最も集中している福井駅周辺の代表地点である駅前アーケードについてみると、平成19年以降減少傾向にあるものの、平成24年は8,253人であり、平成18年の8,100人を153人上回った。まちづくり活動推進事業や中心市街地商業コーディネート事業などによる取組の効果によると考えられる。しかしながら、減少傾向に歯止めがかかっておらず、継続して対策を講じていく必要がある。



※歩行者動線軸と歩行者・自転車通行量の観測地点



○ 休日・平日別

- ・平日の自転車・歩行者通行量をみると、最も通行量が多い地点は休日と同じ駅前アーケードで7,458人となった。
- ・基準年（平成18年）と比較して交通量が増加した地点は、シンボルロード南側161人増で、それ以外の地点はすべて減少した。最も減少数が多い地点はアップルロード西武横で、1,839人減となった。
- ・平成24年の休日平日比についてみると、休日の通行量が多い1.0を超える地点は6地点で、平成18年より1地点増加した。

表 地点別歩行者・自転車通行量（平日）

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H24-H18	H24/H18
シンボルロード南側	3,453	3,123	3,292	3,147	3,677	3,624	3,614	+161	1.05
ミスターーナツ前通り	4,620	3,979	4,733	4,780	3,986	3,882	3,965	-655	0.86
駅前電車通り北側	2,945	2,331	2,663	2,176	2,316	2,335	2,210	-735	0.75
駅前電車通り南側	7,209	5,412	6,450	4,547	6,498	5,321	6,071	-1,138	0.84
駅前電車通りハニー前	6,411	6,122	6,554	5,959	6,199	6,307	6,257	-154	0.98
みなみ通り旧生活創庫前	1,253	1,016	1,280	1,003	1,086	1,201	960	-293	0.77
ギャラリー元町	3,702	3,338	3,138	3,004	3,162	2,765	2,823	-879	0.76
アップルロード西武横	3,817	2,877	3,344	3,601	2,773	3,505	1,978	-1,839	0.52
北の庄通り	1,849	1,334	1,428	1,238	1,309	1,248	1,362	-487	0.74
駅前アーケード	8,130	7,451	8,985	7,981	8,440	7,479	7,458	-672	0.92
合計	43,389	36,983	41,867	37,436	39,446	37,667	36,698	-6,691	0.85
(参考)休日交通量	43,440	56,866	51,248	43,212	44,808	37,516	38,634	-4,806	0.89

※薄緑の網掛けは、歩行者動線軸上の観測地点

表 地点別休日／平日比

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
シンボルロード南側	0.63	0.98	0.80	0.73	0.79	0.72	0.74
ミスターーナツ前通り	0.70	1.03	0.79	0.90	0.78	0.75	0.72
駅前電車通り北側	0.85	1.38	0.98	1.21	1.03	0.91	1.00
駅前電車通り南側	1.15	1.79	1.74	1.50	1.29	1.18	1.17
駅前電車通りハニー前	1.02	1.66	1.36	1.26	1.22	0.98	1.11
みなみ通り旧生活創庫前	0.74	1.35	0.72	0.97	0.97	1.01	0.82
ギャラリー元町	1.01	1.28	0.98	0.94	1.03	1.08	0.99
アップルロード西武横	1.41	2.40	1.62	1.39	1.69	0.93	1.61
北の庄通り	1.36	2.17	1.14	1.23	1.41	1.23	1.37
駅前アーケード	1.00	1.50	1.24	1.17	1.14	1.13	1.11
合計	1.00	1.54	1.22	1.15	1.14	1.00	1.05

※薄緑の網掛けは、歩行者動線軸上の観測地点

(ハ) 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

○ 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業【再掲】

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	前掲
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の歩行者・自転車通行量見込み：2,710 人/日</u> 予定企業の事業参画が困難になったことから事業の再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめた。再開発組合の設立認可申請を行い、平成 24 年 6 月に再開発組合が設立された。

○ 福井駅高架下利用促進事業【再掲】

事業完了時期	【済】平成 21 年 11 月
事業概要	前掲
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の歩行者・自転車通行量見込み：390 人/日</u> 現時点では商業施設を整備しても事業が成り立たないので、平成 13 年度に策定した当初の高架下利用計画にある駐車場として暫定的に整備した。

○ えちぜん鉄道新駅整備事業【再掲】

事業完了時期	【済】平成 19 年 8 月
事業概要	前掲
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の歩行者・自転車通行量見込み：400 人/日</u> 2 駅による中心市街地来街者数は 121 人/日であることから、歩行者自転車通行量は 484 人/日となり、当初見込みより 84 人/日多い。

○ えちぜん鉄道三国芦原線の L R T 化【再掲】

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	前掲
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の乗車数見込み：420 人/日（内訳：えちぜん鉄道福井駅・新福井駅の見込み乗車数：210 人/日、福井鉄道市内路面区間の見込み乗車数：210 人/日）</u> 平成 20 年度に福井市都市交通戦略を策定し、L R T 化や交通結節機能の強化などの施策を位置づけた。しかしながら、えちぜん鉄道三国芦原線については、東側単独高架で、福井駅に結節することになった。このため、えちぜん鉄道三国芦原線の L R T 化については、関係者間で再検証を行う。

○ 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業【再掲】

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	前掲
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の歩行者・自転車通行量見込み：490人/日</u> 予定企業の事業参画が困難になったことから、事業の再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめ、再開発組合設立認可申請を行った。

○ 中央1丁目（駅前南通り）地区優良建築物等整備事業【再掲】

事業完了時期	【済】平成22年1月
事業概要	前掲
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の歩行者・自転車通行量見込み：281人/日</u> 施設建築物の工事が完了して、75戸のうち成約戸数は47戸である。歩行者・自転車通行量は、162人/日となり、当初の見込みより119人/日少ない。

○ 中央3丁目地区優良建築物等整備事業【再掲】

事業完了時期	【済】平成21年12月
事業概要	前掲
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の歩行者・自転車通行量見込み：124人/日</u> 施設建築物の工事が完了して33戸のうち成約戸数は22戸である。歩行者・自転車通行量は76人/日となり、当初の見込みより48人/日少ない。

○ ウララまちなか住まい事業【再掲】

事業完了時期	【済】平成21年3月
事業概要	前掲
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の歩行者・自転車通行量見込み：55人/日</u> 優良建築物等整備事業を除く物件について、53戸に対して補助を行ったので、歩行者・自転車通行量は122人/日となり、当初の見込みより67人/日多い。

○ 大手2丁目地区優良建築物等整備事業【再掲】

事業完了時期	【済】平成23年3月
事業概要	前掲
事業効果又は進捗状況	<u>認定時の歩行者・自転車通行量見込み：218人/日</u> 施設建築物の工事が完了して87戸のうち成約戸数は73戸である。歩行者・自転車通行量は168人/日となり、当初の見込みより50人/日少ない。

○ 城の橋通り地区優良建築物等整備事業【再掲】

事業完了時期	【未】平成23年度
事業概要	前掲
事業効果又は進捗状況	<p>認定時の歩行者・自転車通行量見込み：90人/日</p> <p>施行者代表である民間事業者が自己破産し施設建設の見通しが立たない。</p>

○ AOSSAの見込分

事業効果又は進捗状況	<p>認定時の歩行者・自転車通行量の見込み：1,730人/日</p> <p>平成19年5月の歩行者・自転車通行量（AOSSAオープン後）は、平成18年7月の歩行者・自転車通行量（AOSSAオープン前）と比較して、約1,730人/日増加していることから、これをAOSSAオープンによる歩行者・自転車通行量増分の見込み分とした。</p> <p>AOSSAの来館者が減少していることから、現在の増加見込み分を算定すると、$1,730 \text{人} \times \text{平成23年度の来館者数} (4,262 \text{人/日}) \div \text{想定来館者数} (5,827 \text{人/日}) = 1,265 \text{人/日}$</p>
------------	--

○ その他の商業活性化等の取組による効果

事業効果又は進捗状況	<p>認定時の歩行者・自転車通行量の見込み：820人/日</p> <p>響のホールの利用促進や賑わい創出事業、賑わいづくり支援事業など商業活性化等の取組や、さくらの小径・浜町通り界隈の整備、浜町おもてなし空間づくり事業により歩きたくなる魅力を高める事業の実施により①～⑤までの合計の10%増を見込んだ。</p> <p>①～⑤の合計（2,277人/日）$\times 10\% = 228 \text{人/日}$</p>
------------	--

[6] 課題の整理

中心市街地の現状分析及びこれまでの取組と評価等を踏まえ、第2期計画策定にあたっての課題を以下のように整理する。

課題① 来街者の目的となり、交流が生まれる環境整備

- ・ 県都の玄関口として福井の魅力を発信・創造し、人が交流する場の整備
- ・ アクティブスペースをはじめ、活発な交流が繰り広げられるようなイベント空間の充実
- ・ 中心商業地にふさわしい商業環境の魅力向上
- ・ まちなか居住の環境向上のための生活利便施設の充実
- ・ 中心市街地における就労場所の充実
- ・ 中心市街地の歴史や文化を生かした景観整備の推進

課題② 官民が連携して、それぞれの役割を果たすことによる活性化の推進

- ・ 中心市街地活性化の進行管理
- ・ 市民活動の育成
- ・ 中心市街地の魅力的な情報発信

課題③ 第1期計画に掲げた事業のさらなる推進

- ・ 交通結節機能強化のためのJR福井駅周辺整備（西口駅前広場の整備、えちぜん鉄道の高架化）
- ・ 賑わい交流の拠点整備のための福井駅西口中央地区市街地再開発事業の推進
- ・ まちなか居住施策の充実

[7] 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

(1) 中心市街地のまちづくりの目指す方向の整理

① 第六次福井市総合計画（平成 24 年度～平成 28 年度）

本市は、平成 28 年度を目標年次として「第六次福井市総合計画」を策定し、将来都市像『自然・活気・誇りにみちた 人が輝く かえりたくなるまち ふくい』の実現に向けて、「社会基盤」「市民生活・福祉」「産業」「教育」の 4 つの分野の面から具体的に取り組む方向性を基本目標として定め、取り組んでいる。

将来都市像

『自然・活気・誇りにみちた 人が輝く かえりたくなるまち ふくい』

基本目標

- みんなが快適に暮らすまち
- みんながつくる住みよいまち
- みんなが生き生きと働くまち
- みんなが学び成長するまち

政策 1 県都としての魅力を高め交流しやすいまちをつくる

県都の顔となる中心市街地や北陸新幹線の整備促進に積極的に取り組むとともに、地域の特色や個性を大切にしたい人にやさしいまちづくり推進します。また、誰もが利用しやすい全域交通ネットワークの構築を図ります。

施策

・賑わいのある中心市街地をつくる

公共交通の利便性の向上や商店街等との連携による商業の振興、居住人口の拡大に取り組み、中心市街地の活性化を図り、にぎわいを創出します。

- ・良好な景観を形成する
- ・快適で秩序ある市街地を形成する
- ・誰もが使いやすい公共交通ネットワークを構築する
- ・北陸新幹線の整備をすすめる

② 福井市都市計画マスタープラン（目標年次：平成42年）

都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を示すもので、都市づくりの目標となる都市の将来像などの全体方針や都市利用などの分野別の方針、地域別のまちづくりの方針などを明らかにし、都市づくりを進めるための総合的な指針である。

その中で、中心市街地に関する事項について、次のように整理している。

□ 都市づくりの課題

・ 県都の顔の再生（中心市街地活性化）

中心市街地は、県都の中心として全県民共有の財産であることを再認識し、これまでの中心市街地活性化への取組を発展的に継続するとともに、既存の都市機能の集積を活かしながら市民と行政がともに創意工夫しながら質の高い魅力的な県都の顔づくりを進める必要があります。

□ 都市づくりの理念

福井市が今後も住みよいまちであり続けるために、過度に自動車に依存した生活から脱却し、人の行動の基本である「歩く」視点から暮らしの豊かさを実感できる都市づくりに取り組みます。

暮らしの豊かさを実感できる「歩きたくなる」まち

□ 目指すべき都市の将来像

1 自然環境との共生・調和を基本とした水と緑あふれる都市

- ・ 市街地の拡散抑制と緑豊かな潤い空間の確保
- ・ 農山漁村部の自然環境の保全と活用

2 中心市街地と地域拠点が公共交通ネットワークにより有機的に結ばれた都市

- ・ にぎわい・観光・交流の拠点となる中心市街地の形成
- ・ 日常生活に必要な機能を集約した地域拠点の形成
- ・ 公共交通幹線軸の強化と幹線軸沿いへの都市機能の集積

□ 4つの視点ごとの推進方針

・ 魅力や活力を高める「多様な拠点づくり」

- ・ 安全に安心して快適に過ごせる「身近な生活空間づくり」
- ・ 誰もが自由に行動できる「移動の骨格づくり」
- ・ 誇りと愛着を育む「水と緑の空間づくり」

□ にぎわい交流拠点づくり

JR福井駅を中心とした中心市街地を県都の活力を支えるための「にぎわい交流拠点」として位置づけます。その上で、多くの人に関われる環境と回遊性、アクセスの利便性を向上させるとともに、市民・県民だけでなく、県外からの来訪者・観光客にとっても魅力のある空間づくりを、足羽川や福井城址などの地域資源を活かしながら進めます。

(2) 中心市街地活性化の意義

上位計画である「第六次福井市総合計画」、「福井市都市計画マスタープラン」では、中心市街地の活性化を最重要課題として位置付けている。

本市の中心市街地は、北の庄築城（1575年）から始まり、400年以上の歳月を掛けて都市の基盤を構築してきた。その結果、現在も歴史・文化の集積地として、また、多様な都市機能（住宅、事務所、商業等）の集積地として、さらにJR福井駅を中心に交通結節点であることから、市内、県内及び県外どこからも誰もが利用しやすい場所といえる。また、中心市街地は、本市の面積536.19k㎡の0.2%という狭い範囲で、土地の固定資産税の5.0%を占めており、まさに、中心というべき場所である。

しかし、過去に経験のない人口減少・超高齢社会の到来を迎え、このまま放置すると、更なる人口の郊外への移動により購買力が市街地周辺部に分散し、中心市街地の商業基盤としての商圈が縮小する。そのことによって、商店の閉鎖等商業環境の魅力が低下し、その結果、都市機能の更新に向けた投資が行われないことで、都市空間、居住空間としての魅力が低下し、来街者や居住人口が更に減少するという悪循環が懸念される。

また、モータリゼーションの過度な進展は、環境負荷を増大させるほか、公共交通機関の利用者を減少させ、便数削減や廃線を招くことで、中心市街地への来街手段の減少と周辺住民の移動に関する利便性を低下させている。

さらに、公共施設をはじめ、都市機能が分散化することにより、施設間のアクセシビリティが悪化し、結果的に全体としての公共サービスの質を低下させている。

本市の中心市街地は、福井県、福井市及び市街地の中心であり、「県都の顔」といえる。中心市街地の活性化は、県民・市民が誇りを持ち、便利で豊かな暮らしを実現するためには欠かせないことである。

人口が本格的に減少する時期に入った今、先人達により数百年の歳月をかけて蓄積された投資と現在行われている中心市街地内での投資を活かすことが必要である。さらに、北陸新幹線の整備等将来への対応を見据えて、市内外、県内外、国内外から多くの方々を誇りを持ってあたたかく迎える場、「県都の顔」として次世代に引き継いでいくことが必要である。

今あるものをよりよい形として残し、過度に都市経営コストのかからない持続可能な都市として、都市間競争に勝ち残り、効率的かつ効果的に福井市を運営していくためにも、これまでに多くの投資によるストックが蓄積された中心市街地の活性化をさらに強力で推進していく。

中心市街地の持つ機能と機能を満たす可能性

【機能】

■ 交通ネットワーク拠点

将来の北陸新幹線の開業により、現在の交通結節機能がより強化される。新幹線、電車、バス、徒歩などの交通ネットワーク拠点である。

■ 県都の顔

「県都の顔」として、「福井の玄関口」として、市内外から多くの方々をお迎えする大切な場所である。誇りを持って迎えたい場所である。

■ 福井市全体の活力を維持する機能

本市全体が発展し、活力を維持していくためには、住む人を選ばず、誰にもやさしく住みやすい都市である必要がある。交通弱者にとっても、中心市街地はアクセスしやすい場所であり、中心市街地が存在することにより、誰もが住みやすい都市となる。

■ 公共公益性の視点から求められる機能

防災拠点、広場や公園、公開空地などのオープンスペース、情報の拠点としての機能が求められている。

■ 市民・県民ニーズから求められる機能

職住近接を含む都市型居住機能の充実が求められている。

■ 社会的潮流や目指すべき将来像から求められる機能

少子高齢化が進む中で、子育て支援機能や高齢者が生きがいを持って過すことができる機能の充実が求められている。

【機能を満たす可能性】

■ 都市基盤の蓄積

中心市街地には、過去数百年に亘り築かれた都市基盤（道路、公園、広場、上下水道、電車、バス等）や民間資本など多くの既存ストックがある。

■ 福井固有の歴史文化の蓄積

中心市街地には、福井固有の歴史や文化が蓄積されている。将来へ継承していく必要がある。

■ 持続可能な都市の実現

人口減少社会、超高齢社会の到来を迎え、都市全体が経営コストを抑えたコンパクトで持続可能な都市として、中心市街地は都市機能が最もコンパクトに集まっている場所である。

■ 福井都市圏の中心

情報、交流などのグローバル化を迎え、生活ニーズの多様化に対応した情報、交流の受発信の拠点として、また、福井都市圏及び嶺北地域一円の産業、商業、地域経済の活性化を牽引する拠点としての役割を担っている地域である。

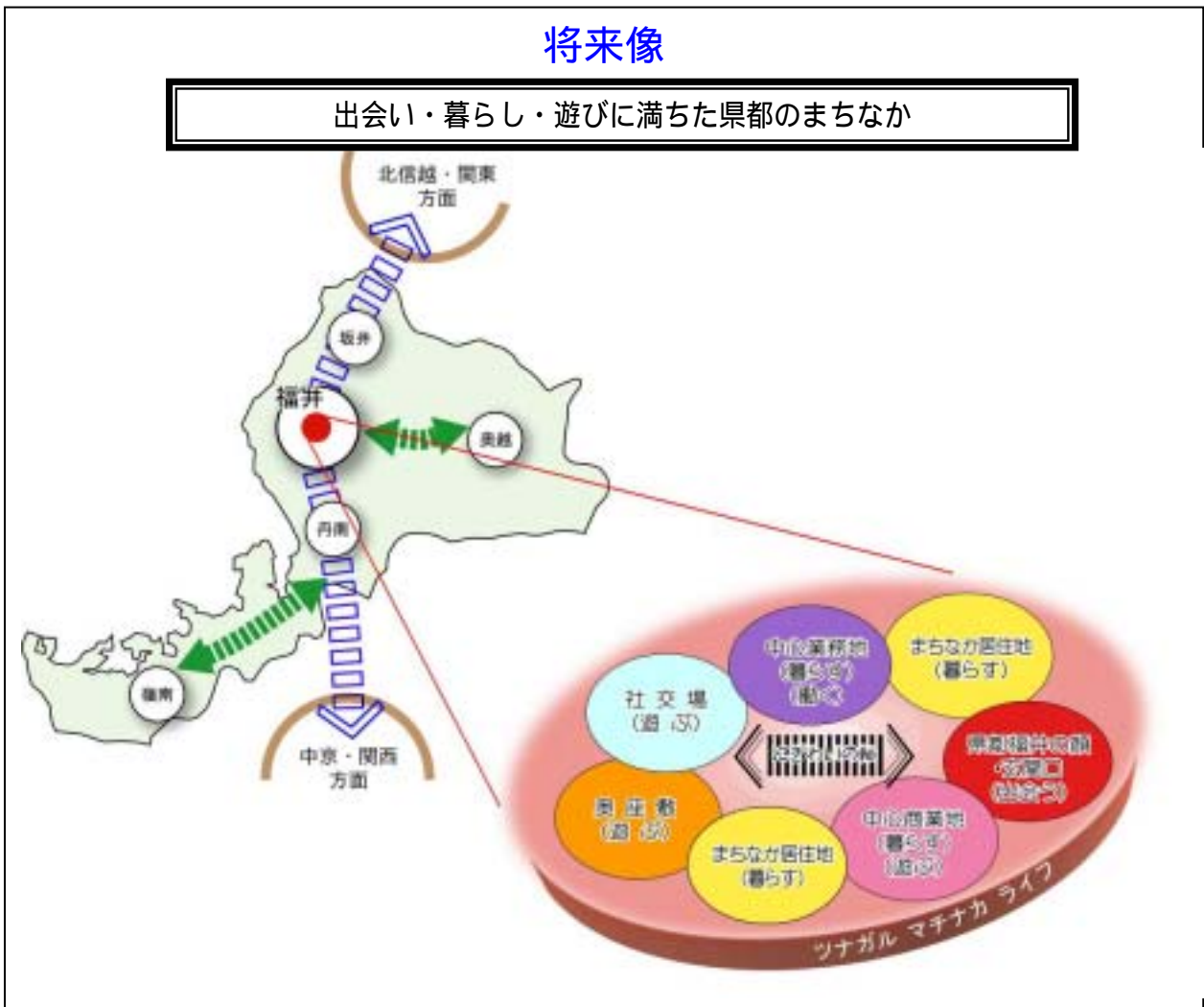
(3) 中心市街地が目指すべき将来像

「第六次福井市総合計画」や「福井市都市計画マスタープラン」の上位計画をはじめ、北陸新幹線福井開業を見据えた福井駅周辺の整備、さらには県・市共同で検討を進めている長期的なビジョン「県都デザイン戦略」を踏まえて、中心市街地が目指すべき将来像を整理する。

将来像としては、にぎわいの軸を中心に、県都福井の顔・玄関口（出会う）、まちなか居住地（暮らす）、中心業務地（暮らす・働く）、中心商業地（暮らす・遊ぶ）、奥座敷（遊ぶ）、社交場（遊ぶ）がバランスよく配置されている必要がある。

その上で、出会い（人）とツナガル（交流、観光、交通）、暮らし（生活）とツナガル（居住、ライフスタイル）、遊び（文化）とツナガル（食、歴史、自然）、まち（地域）とツナガル（エキマエ⇄片町⇄呉服町、市内の生活圈、県内の他市町、北信越等其他の地域）ことが重要である。

これらの要素が相まって、「出会い・暮らし・遊びに満ちた県都のまちなか」を中心市街地の将来像とする。



中心市街地の将来像を踏まえ、中心市街地の目指すべき姿（将来構想図）は、都市計画マスタープランとの整合を図りつつ、次のとおりとする。



【将来構想図】

区分	2つの軸、1つの拠点、7つのエリアの考え方
にぎわいの軸 (歩行者動線軸)	<ul style="list-style-type: none"> ・AOSA、プリズム福井、西口再開発ビル、響のホール、西武福井店を結ぶ線をにぎわいの軸（歩行者動線軸）と位置づけ、この軸の歩行環境の充実と、より一層の店舗等の魅力向上を図る。 ・この軸上の賑わいの効果を周辺商業地に波及させる。
賑わい交流の拠点 (西口再開発ビル)	<ul style="list-style-type: none"> ・県都の玄関口にふさわしいシンボル空間を創出し、「賑わい交流の拠点」として位置付ける。また、観光、情報発信、生活支援、文化機能の充実を図る。
都市軸	<ul style="list-style-type: none"> ・県都福井市として嶺北地域一円の各市町との連携を維持・強化し、県都としての役割をより一層高める。また、魅力ある都市景観を創出する。
公共交通結節機能 エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・JR福井駅を中心として多様な交通手段により来街できる環境の整備や、交通機関相互の乗換えの利便性向上を図るなど交通結節機能強化を図る。また、県内外からの来街者をもてなす県都の顔として、機能強化を図る。
にぎわい創出 エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・大型店や専門店、飲食店など多様な業態の商業機能の集積を推進し、中心市街地内外からの来街を促す。また、響のホールを中心に文化機能の集積を推進する。
まちなかの潤い機能 エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・福井城址や中央公園など都市内の緑地空間として、まちなかの潤い機能を強化する。また、福井市の歴史とふれあうことのできる空間整備を推進する。
おもてなし交流 エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・福井を訪れた人をもてなし、交流を深めることができる機能の維持・向上や、魅力ある景観の形成を図る。
業務機能 エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・県都福井市の業務機能の中心地として、更なる集積を推進する。また、まちなかの潤い空間と調和しつつ、都市軸沿いは、洗練された街並みの形成を図る。
界隈を楽しむ エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・商業・業務・娯楽機能の誘導を推進し、昼夜を問わない都市の賑わいを感じられる空間の演出を図る。
都市型住宅 エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・商業・業務機能などと調和した良好な居住環境を創出する。また、職住近接の受け皿として、住宅の供給を促進する。

(4) 第2期基本計画の必要性と位置付け

① 第2期計画の必要性

第1期計画では、人口減少・少子高齢社会の到来を迎え、多様な都市機能がコンパクトに集積され、過度に自動車に依存しない持続可能な都市へと転換し、交通弱者を含む誰にとっても住みやすく、住みたくなる環境にやさしいまちづくりをすすめるため、「社会基盤」「居住」「交流」「福井らしさ」をキーワードとした。また、「多様な手段で行動ができる交通体系の維持・強化を図る」「まちなか居住を愉しむ定住を促進する」「にぎわい交流空間の形成を図る」「福井駅を玄関口とする自然と歴史が調和した魅力ある都市環境を創出する」の4つを基本的な方針とするとともに、「訪れやすい環境をつくる」「居住する人を増やす」「歩いてみたくなる魅力を高める」の3つを中心市街地活性化の目標と掲げ、目標を達成するための76事業を推進してきた。

その結果、大変厳しい社会・経済情勢を反映して、中心市街地の地価の下落傾向や年間商品販売額の減少傾向が継続しているという状況ではあるものの、北陸新幹線の金沢敦賀間の工事認可、福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業の事業計画認可など、明るい兆しも見え始めている。

平成30年の福井国体、平成37年の北陸新幹線の開業など、福井市にとってのビッグイベントが控えていることや、2年後（平成26年度末）の北陸新幹線金沢開業を見据え、これまで蓄積した中心市街地の活性化に向けた取組を途切れさせることなく継続し、活性化の効果をより確実なものとしていくためにも、次の段階にステップアップを図るための第2期計画を策定し、引き続き中心市街地の活性化に取り組んでいくことが必要である。

② 第2期計画の方向性

本市の都市づくりを進めるための総合的な指針である福井市都市計画マスタープランでは、商業施設や業務施設をはじめとした都市機能の集積を活かしながら、中心市街地をにぎわい交流拠点として位置づけ、にぎわい交流拠点づくりを先導するのが中心市街地の活性化であるとしている。つまり、にぎわい交流拠点づくりに中心市街地の活性化は欠かせない。

したがって、第2期計画では、にぎわい交流拠点づくりを重視して中心市街地活性化に取り組んでいくこととする。

そのため、市民が文化活動の発表の場を中心市街地に求めている状況を踏まえ、市民活動の力を活かしていくような、来街者の目的となりうる施設やイベントの開催により、中心市街地にさまざまなジャンルの人が集うことを目指していく。

さらに、第1期計画が道半ばという状況を踏まえ、第1期計画で取り組んできた多くの事業をベースとして、民間の活力や創意工夫をまちづくりに積極的に取り込む。活発な交流が生まれるような市民や民間事業者の活動に対して、行政の支援体制を整えるという方向性も加えて、市民（市民、市民組織、まちづくり会社、事業者）と行政が力を合せて中心市街地の活性化に取り組んでいくこととする。

③ 第2期計画の位置付け

第2期計画は、上位計画である「第六次福井市総合計画」「福井市都市計画マスタープラン」と整合性を図りながら、中心市街地が目指すべき将来像を達成するため、今後5年間における具体的な取組の方向性を示すアクションプログラムとして位置付ける。

(5) 中心市街地活性化に関する基本的な方針

目指すべき中心市街地の将来像の実現に向けて、基本的な方針及び協働して取り組むための活動のテーマを設定する。

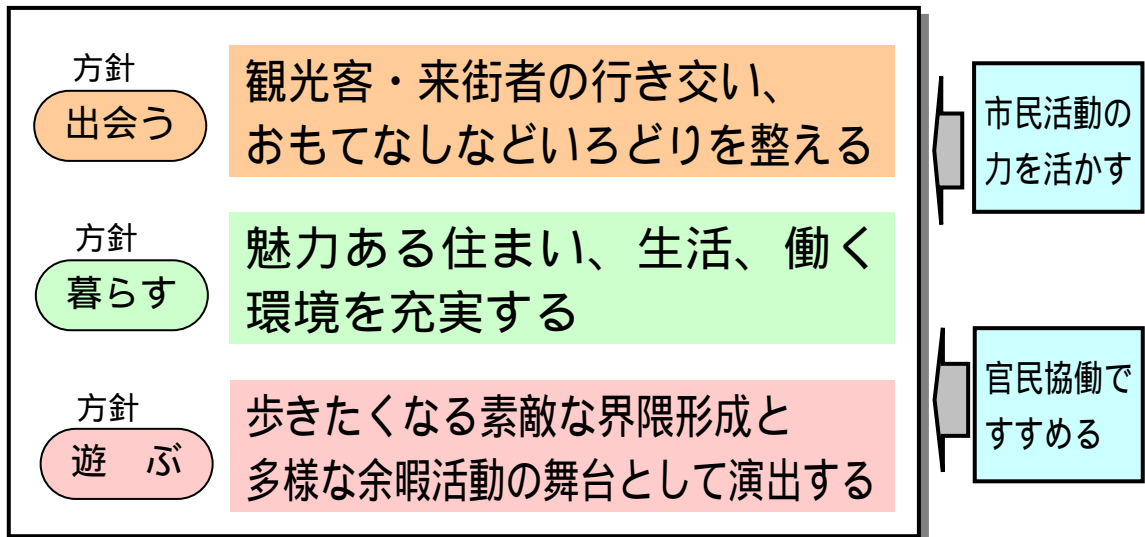
第2期計画では、旧基本計画の理念『出会い・暮らし・遊びが彩るまちづくり』の方向性である「出会い」「暮らし」「遊び」は維持しつつも、行動へと転換を図る。そのため、キーワードを名詞から動詞へと発展させ、方針① 出会う「観光客・来街者の行き交い、おもてなし等のいろどりを整える」、方針② 暮らす「魅力ある住まい、生活、働く環境を充実する」、方針③ 遊ぶ「歩きたくなる素敵な界限形成と多様な余暇活動の舞台として演出する」の3つを基本方針とする。

さらに、これらの3つの方針の根底の考え方として、第1期計画の評価や中心市街地活性化協議会での議論を踏まえ、「市民活動の力を活かす」と「官民協働で進める」の2つを据える。

その上で、中心市街地を市民活動が繰り広げられる舞台として、官民協働で創り上げていくことを表すものとして、本計画のテーマを「官民協働のまちなかにぎわいステージづくり」とする。

また、目指すべきまちのイメージとしては、市民がまちなかに訪れたときに、時めきや煌めきを感じることでできるまちであり、市民参加の下、ともに進める方向性を表すものとして、「～時めきと煌めきに満ちた持続性のあるまちをともに作り育てる～」をサブテーマとする。

■ 第2期基本計画の基本的な方針

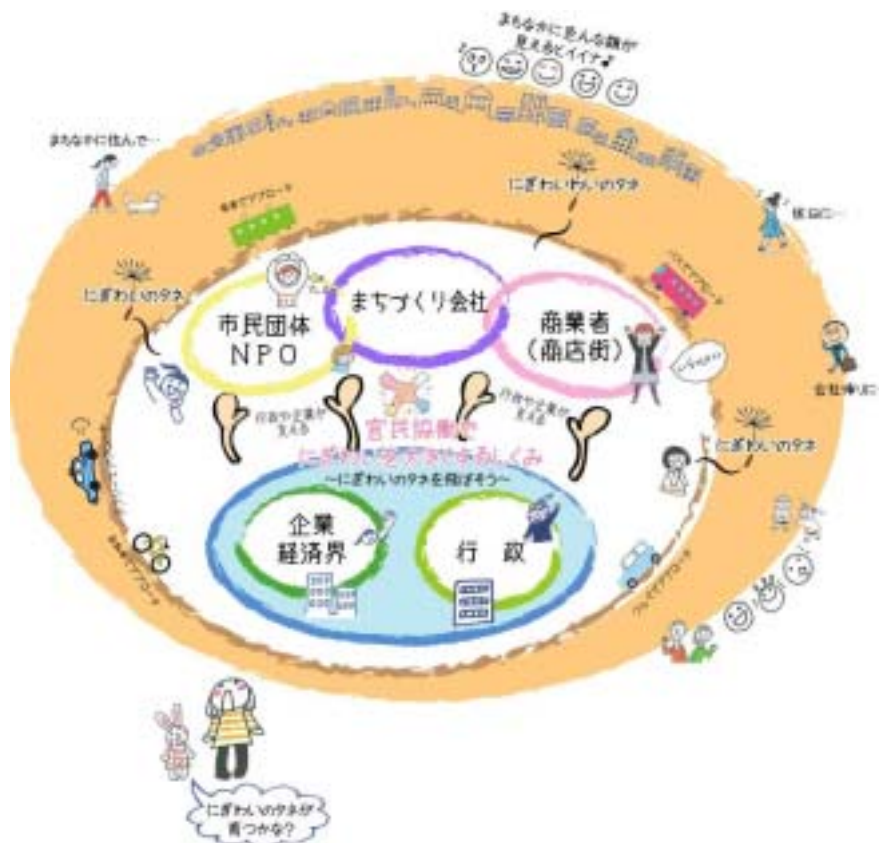


■ 第2期基本計画のテーマ

官民協働のまちなかにぎわいステージづくり

～ 時めきと煌めきに満ちた持続性のあるまちをともにつくり育てる～

「時めき（時勢に合い栄えること）と煌めき（美しく光かがやく、大いにもてなす様）に満ちたまち」を「持続性を持つようにつくり育てる」をサブテーマとする。



(6) 基本的な方針に基づく事業展開

方針① 出会う「観光客・来街者の行き交い、おもてなしなどいろどりを整える」

JR福井駅を中心とする中心市街地は、北陸新幹線の福井延伸が決まり、福井県嶺北地域一円からだけでなく、関東や信越方面からも直接来ることができる立地特性を有することになり、県都の玄関口として、ますます重要な位置づけを持つことになる。このことを踏まえ、以下のように展開する。

【行き交いのいろどりを整える事業の展開】

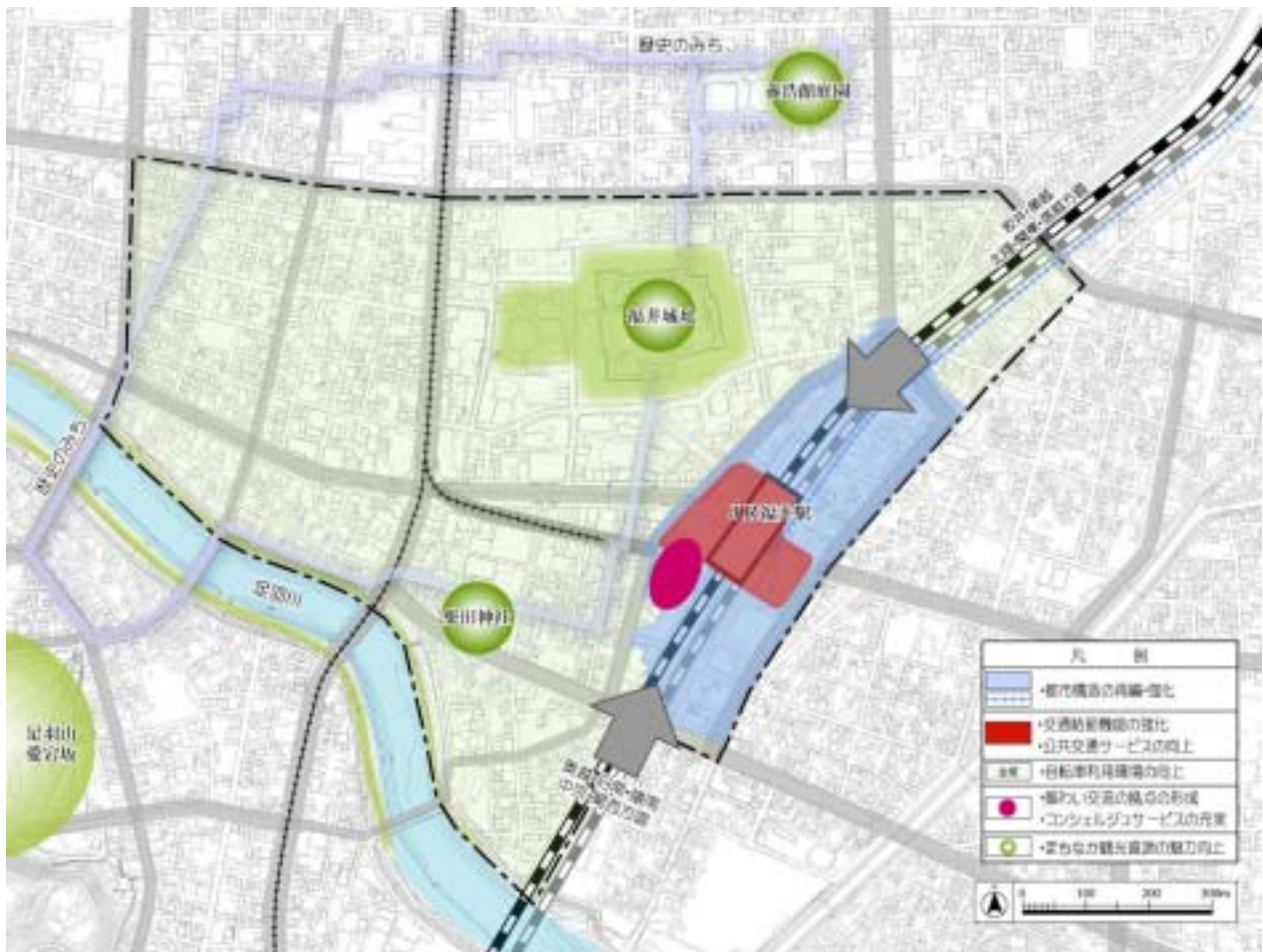
誰もが移動・行動しやすい中心市街地の交通環境を確保し、行き交いのいろどりを整えるため、以下の事業を展開する。

- ・東西市街地の一体化や骨格道路のネットワークの強化など都市構造の再編・強化
- ・鉄道やバス等相互乗り換えの利便性向上に向けた交通結節機能の強化
- ・利用促進に向けた公共交通サービスの向上
- ・まちなかで気軽に移動できる自転車利用環境の向上

【おもてなしのいろどりを整える事業の展開】

おもてなしのいろどりを整えるため、以下の事業を展開する。

- ・福井らしさを創造・発信・体感できる賑わい交流の拠点の形成
- ・福井の魅力を発見できるまちなか観光資源の魅力向上
- ・来街者をもてなすコンシェルジュサービスの充実



■方針①事業方針図

方針① 出会う「観光客・来街者の行き交い、おもてなしなどいろどりを整える」ための主な事業

	展開の方向性	第1期からの継続事業	第2期の新規事業
行き交いのいろどりを整える	都市構造の再編・強化	◇えちぜん鉄道の高架化 ◇福井駅周辺土地区画整理事業での道路整備	
	交通結節機能の強化	◇福井駅周辺土地区画整理事業での西口広場整備	◇バスターミナル旅客案内・待合施設整備 ◇西口広場発着のバス路線再編成 ◇西口広場でのバスロケーションシステム整備
	公共交通サービスの向上	◇すまいるバスの利用促進 ◇公共交通に利用可能なICカードの導入(バス・電車) ◇パーク&ライドの利用促進	◇福井鉄道の軌道・電停等整備 ◇まちなかフリー切符の導入
	自転車利用環境の向上	◇JR福井駅南側での自転車駐車場整備	◇分散型駐輪場の整備 ◇サイクルシェア事業(社会実験)
おもてなしのいろどりを整える	賑わい交流の拠点の形成	◇西口中央地区再開発★	◇西口再開発での観光関連施設整備
	まちなか観光資源の魅力向上	◇福井市観光キャンペーン事業	◇お堀のライトアップに合わせたイベントの開催 ◇福井城址周辺の環境整備
	コンシェルジュサービスの充実		◇回遊性の向上に向けた案内サインの設置 ◇観光おもてなし力向上研修の実施

★：強化・発展する事業

方針② 暮らす「魅力ある住まい、生活、働く環境を充実する」

中心市街地における居住・生活環境の維持・増強や就業環境の充実、地域コミュニティの維持はもちろん、中心商業地の機能存続や魅力の再生を図る上でも重要な要素である。そのため、以下のように展開する。

【魅力ある住まいの環境を充実する事業の展開】

魅力ある住まい環境の充実に向けて、以下の事業を展開する。

- ・居住ニーズに柔軟に対応するための既存ストックの有効活用
- ・居住環境の改善に向けた建替え居住の促進
- ・コミュニティの維持、強化に向けたまちなか居住に対するPRの強化

【魅力ある生活の環境を充実する事業の展開】

中心市街地での魅力ある生活環境を充実するため、以下の事業を展開する。

- ・生活利便性の向上をはじめとした中心商業地の機能の充実
- ・住み続けたいと思えるような暮らしやすさを支える基盤施設の充実

【魅力ある働く環境を充実する事業の展開】

中心市街地での就業環境を充実し、魅力ある働く環境を充実するため、以下の事業を展開する。

- ・企業立地を促進し、働く場としての受け皿の充実や魅力向上



■方針②事業方針図

方針② 暮らす「魅力ある住まい、生活、働く環境を充実する」ための主な事業

	展開の方向性	第1期からの継続事業	第2期の新規事業
魅力ある住まいの環境を充実する	既存ストックの有効活用の促進		◇（仮称）戸建て住宅等リフォーム補助 ◇（仮称）共同住宅のリフォーム補助
	建替え居住の促進	◇中心市街地共同住宅誘導事業 ◇西口中央地区再開発での住居整備	◇隣地土地の購入支援 ◇（仮称）二世帯型戸建て住宅建設補助 ◇（仮称）共同建て住宅建設補助 ◇（仮称）優良な賃貸住宅の建設・家賃補助
	まちなか居住に対するPRの強化	◇まちなか居住を推進するためのイベント活動によるPR	
魅力ある生活の環境を充実する	中心商業地の機能の充実		◇個店が連携して行う共同販売の促進 ◇ご当地グルメの発信 ◇ふくいの事業者魅力アップの支援
	暮らしやすさを支える基盤施設の充実	◇いきいき長寿「よろず茶屋」の運営	◇日之出公園の整備 ◇ビル等の熱環境改善対策助成
魅力ある働く環境を充実する	働く場としての受け皿の充実や魅力の向上		◇オフィス等立地促進

★：強化・発展する事業

方針③ 遊ぶ「歩きたくなる素敵な界隈形成と多様な余暇活動の舞台として演出する」

本市の中心市街地は、鉄道駅に近接し、自動車や自転車、公共交通機関などの多様な交通手段で、人が集まることができる立地特性を有している。

この特性を活かしながら、歩きたくなる魅力的な空間づくりと、市民を主体とした様々な活動を支援し、中心市街地におけるにぎわいを創出するために、以下のように展開する。

【歩きたくなる素敵な界隈形成を推進する事業の展開】

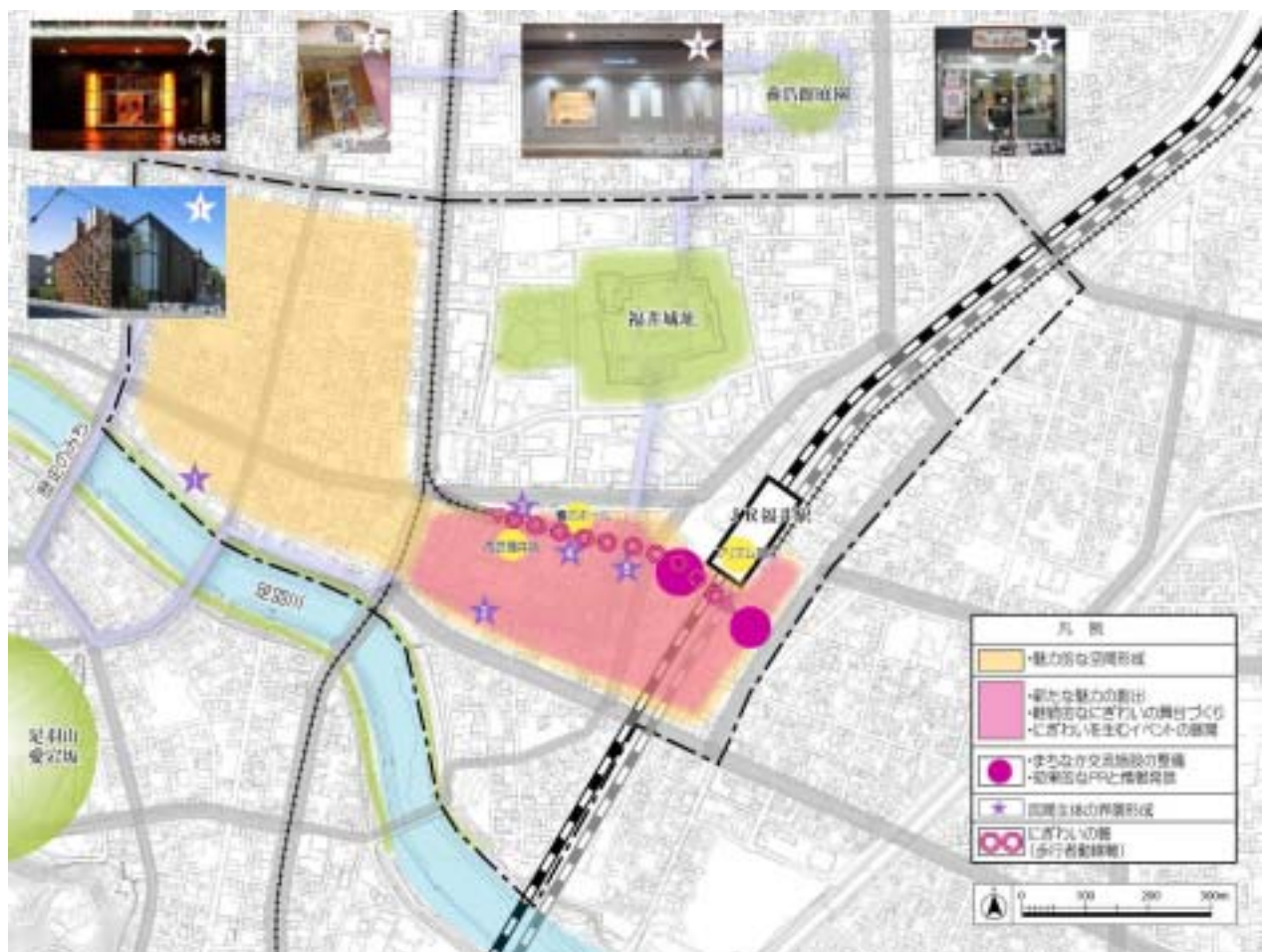
にぎわいの軸や浜町界隈をはじめ、中心市街地全体を歩きたくなる素敵な界隈形成を推進するため、以下の事業を展開する。

- ・ 歩行空間と沿道の店舗等が一体となった洗練された魅力的な空間形成
- ・ 若者によるまちなかへの出店、積極的な起業支援による新たな魅力の創造
- ・ 継続的ににぎわいの舞台づくりの推進

【多様な余暇活動の舞台として演出する事業の展開】

長い時間楽しむことができる多様な余暇活動の舞台を演出するため、以下の事業を展開する。

- ・ 市民や来訪者による多様な交流を育むまちなか交流施設の整備
- ・ 既存イベントの活性化や、新たなイベントの開催など、にぎわいを生むイベントの展開
- ・ 官民が連携した効果的なPRと情報発信



■方針③事業方針図

方針③ 遊ぶ「歩きたくなる素敵な界隈形成と多様な余暇活動の舞台として演出する」
ための主な事業

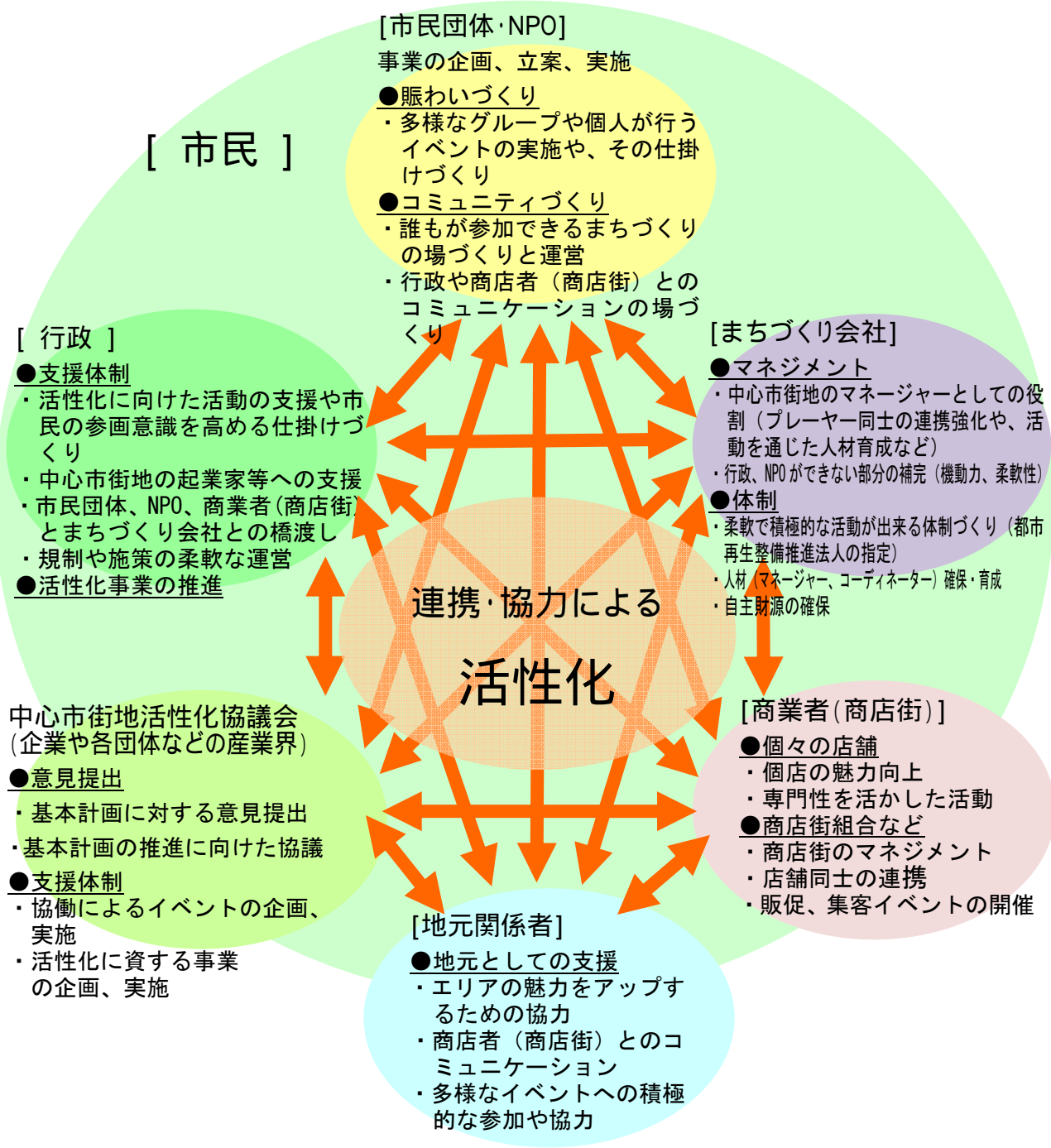
	展開の方向性	第1期からの継続事業	第2期の新規事業
歩きたくなる素敵な界隈形成を推進する	魅力的な空間形成	◇福井駅前北大通り商店街アーケード整備事業（2期） ◇福井駅前南通り商店街アーケード整備事業（2期） ◇浜町おもてなし空間づくり ◇景観形成の支援★ ◇夜景を活かした魅力あるまちづくり事業	◇花いっぱい運動推進事業 ◇西口広場での大庇（おおひさし）・モニュメント設置 ◇駅周辺の道路整備 ◇順化地区融雪設備の更新
	新たな魅力の創出	◇中心市街地チャレンジ開業支援事業 ◇商店街等地域密着サービスづくり支援事業★ ◇起業家支援セットメニュー	
	継続的なにぎわいの舞台づくり		◇県都づくり推進事業
多様な余暇活動の舞台として演出する	まちなか交流施設の整備	◇コンベンション開催の促進 ◇NPO支援センターの運営	◇西口再開発でのボランティアセンター、屋根付き広場、プラネタリウム（ドームシアター）整備 ◇郷土歴史博物館の魅力向上
	にぎわいを生むイベントの展開	◇まちなか活性化交流イベントの実施 ◇賑わい創出事業★ ◇アクティブスペースの利用促進 ◇中心市街地文化活動推進	◇福井市夏休み子ども文化祭開催事業 ◇出張！ボランティアセンター
	効果的なPRと情報発信	◇情報化推進事業★ ◇アートでまちなか文化発信事業★ ◇快適なまちづくりを推進するためのアドバイザー派遣	◇まちづくりセンター整備運営事業 ◇文化情報発信事業 ◇越前・若狭のさかな販売力強化支援事業（ふくいのでいけ情報発信事業） ◇中心市街地活性化基本計画プロモーション事業

★：強化・発展する事業

(7) 中心市街地の活性化を図るための推進体制

中心市街地の活性化の推進にあたり、多様な主体が協働で行うための体制を整える。

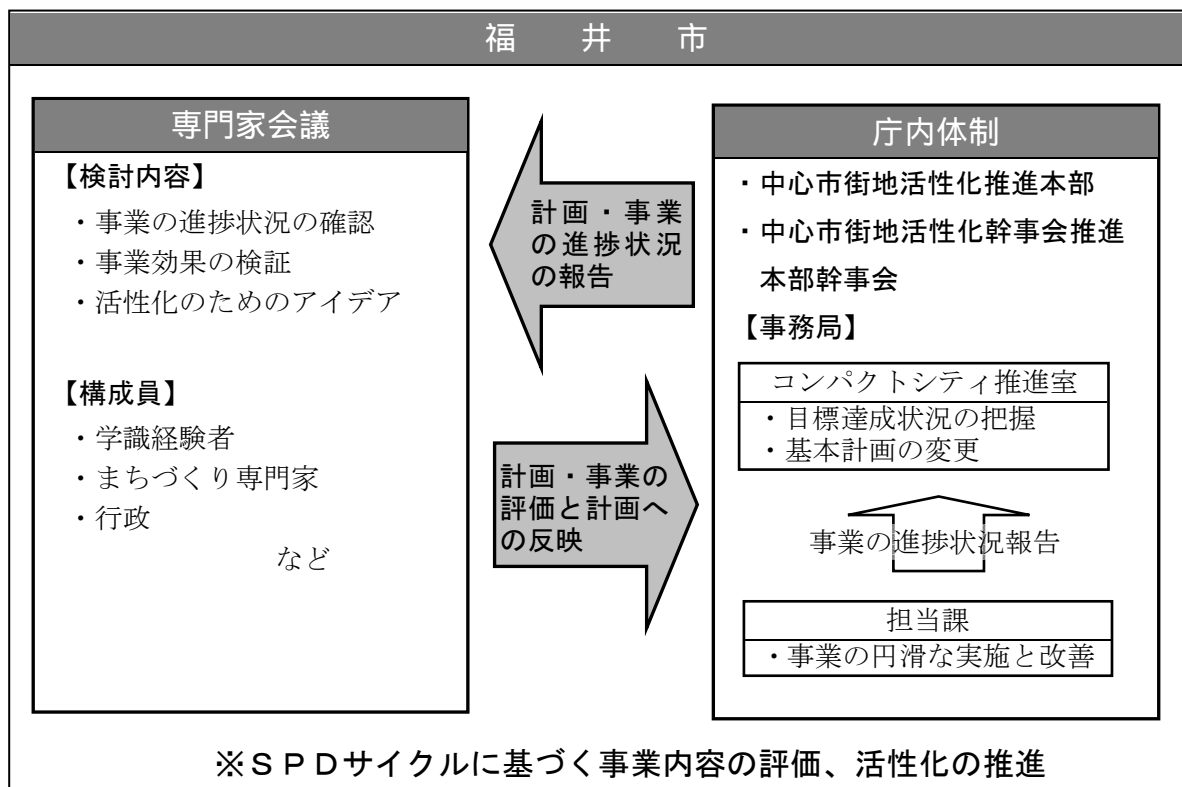
推進体制 事業者（商店街）、まちづくり会社、市民団体・NPO、行政、中心市街地活性化協議会（企業・経済界）、地元関係者すべての組織と市民が連携協力しながら中心市街地の活性化を推進



【第2期基本計画推進体制】

第2期福井市中心市街地活性化の推進及び基本計画の評価にあたり、第2期基本計画策定に際し設置した原案作成ワーキングを発展させた専門家会議を設置する。

専門家会議は、中心市街地活性化に造詣の深い専門家と市が協働で、中心市街地活性化のための総合的な協議やSPDサイクルに基づく事業内容の評価を毎年行う。



※：SPDサイクルは、評価・改善（See）、計画（Plan）、実行（Do）のマネジメントサイクルを表しています。

2. 中心市街地の位置及び区域

[1] 位置

位置設定の考え方

J R福井駅周辺に広がる市街地は、安土桃山時代に北ノ庄城の築城により城下町として形成され、その後鉄道の開通や織物産業の興隆によって、政治・経済・文化の中心として発展してきた。しかし、過去の戦災や震災、水害などによって壊滅的な打撃を受けたものの、戦災復興土地区画整理事業をはじめとした都市基盤整備を推進した結果、広域的な圏域を対象とする行政機能や商業・業務機能が集積し、本市の中心的な市街地として復興・発展してきた。

今日では、市街地の復興を記念して始まったフェニックス祭りや、勇壮な時代絵巻を繰り広げるふくい春まつりの会場であり、音楽や演劇鑑賞、市民活動の発表の場など、文化活動の場として県民、市民に活用されている。

さらに、福井駅付近連続立体交差事業による東西市街地の一体化や北陸新幹線開業に向けた工事など次世代につながる都市基盤整備が行われており、グローバル化時代の県都の玄関口として期待されている。

このようにJ R福井駅周辺に広がる市街地は、福井県の県都としての重要な役割を担ってきた地域であり、今後とも重要な地域として期待されている地域である。

そこで、今回の基本計画においても中心市街地として位置付ける。

(位置図)



[2] 区域

区域設定の考え方

《区域》

J R 福井駅周辺の市街地を中心に、多様な都市機能が集積する、商業地域を中心とした区域を中心市街地として設定する。

《区域設定の考え方》

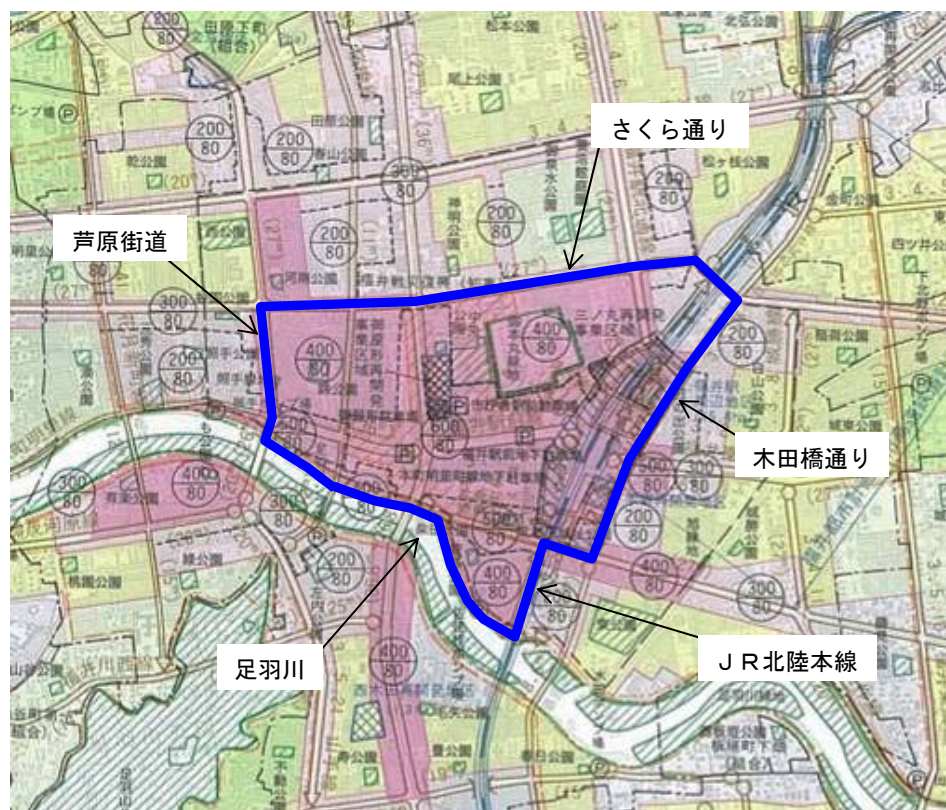
平成 11 年策定の福井市中心市街地活性化基本計画で設定された中心市街地であり、これまで展開してきた活性化事業により社会基盤等のストックが蓄積してきている。また、主要な事業として福井駅周辺の事業(福井駅周辺土地区画整理事業、西口中央地区第一種市街地再開発事業)を継続して行っている。これらの事業により J R 福井駅を中心に交通結節機能を活かし、商業、業務、文化などの様々な都市機能を集約させることで、来街者の増加など本市及び福井県全体に大きな効果をもたらす。

以上から、旧中心市街地の範囲を引き続き本計画における中心市街地の範囲と定め、今後もここを中心に事業を集中的に取り組むことにより、中心市街地を活性化していく。

《中心市街地の境界となる部分》

- ・ 東側の境界は、木田橋通り ((都) 東口都心環状線、(都) 日之出比志口線)、J R 北陸本線
- ・ 南側の境界は、足羽川
- ・ 西側の境界は、芦原街道 ((主) 福井加賀線)
- ・ 北側の境界は、さくら通り ((県) 吉野福井線、(県) 殿下福井線)

(区域図)



中心市街地面積：105.4ha

[3] 中心市街地要件に適合していることの説明

要 件	説 明																						
<p>第1号要件</p> <p>当該市街地に、相当数の小売商業者が集積し、及び都市機能が相当程度集積しており、その存在している市町村の中心としての役割を果たしている市街地であること</p>	<p>・小売商業について、店舗数においては、本市全体の10.9%、売場面積については10.2%、年間販売額については8.8%が集積している。</p>																						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">中心市街地</th> <th style="text-align: center;">福井市</th> <th style="text-align: center;">福井市内シェア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>店舗数</td> <td style="text-align: center;">352</td> <td style="text-align: center;">3,237</td> <td style="text-align: center;">10.9%</td> </tr> <tr> <td>売場面積(m²)</td> <td style="text-align: center;">49,456</td> <td style="text-align: center;">482,567</td> <td style="text-align: center;">10.2%</td> </tr> <tr> <td>年間販売額(億円)</td> <td style="text-align: center;">338.0</td> <td style="text-align: center;">3,860.5</td> <td style="text-align: center;">8.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">資料：平成19年商業統計調査</p>				中心市街地	福井市	福井市内シェア	店舗数	352	3,237	10.9%	売場面積(m ²)	49,456	482,567	10.2%	年間販売額(億円)	338.0	3,860.5	8.8%				
	中心市街地	福井市	福井市内シェア																				
店舗数	352	3,237	10.9%																				
売場面積(m ²)	49,456	482,567	10.2%																				
年間販売額(億円)	338.0	3,860.5	8.8%																				
	<p>・事業所については本市全体の12.8%が集積し、従業員数については11.6%が集積している。特に、金融・保険業については、市全体の事業所の27.9%が集積し、また従業員数は49.3%が集積しており、本市における経済・金融の中心地といえる。</p>																						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">中心市街地</th> <th style="text-align: center;">福井市</th> <th style="text-align: center;">福井市内シェア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業所数(全体)</td> <td style="text-align: center;">2,226</td> <td style="text-align: center;">17,365</td> <td style="text-align: center;">12.8%</td> </tr> <tr> <td>従業者数(全体)</td> <td style="text-align: center;">17,782</td> <td style="text-align: center;">153,830</td> <td style="text-align: center;">11.6%</td> </tr> <tr> <td>事業所数(金融・保険業)</td> <td style="text-align: center;">116</td> <td style="text-align: center;">416</td> <td style="text-align: center;">27.9%</td> </tr> <tr> <td>従業員数(金融・保険業)</td> <td style="text-align: center;">2,862</td> <td style="text-align: center;">5,801</td> <td style="text-align: center;">49.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">平成21年経済センサス</p>				中心市街地	福井市	福井市内シェア	事業所数(全体)	2,226	17,365	12.8%	従業者数(全体)	17,782	153,830	11.6%	事業所数(金融・保険業)	116	416	27.9%	従業員数(金融・保険業)	2,862	5,801	49.3%
	中心市街地	福井市	福井市内シェア																				
事業所数(全体)	2,226	17,365	12.8%																				
従業者数(全体)	17,782	153,830	11.6%																				
事業所数(金融・保険業)	116	416	27.9%																				
従業員数(金融・保険業)	2,862	5,801	49.3%																				
	<p>・福井市役所、福井県庁、響のホール、A O S S A、病院・医院など公共公益施設が中心市街地に立地している。</p> <p>・福井城址や柴田公園など福井の歴史資源が集積している。</p> <p>・福井市は嶺北北部を中心とした広い商圈を有しており、その中で中心市街地がその核として形成されている。</p> <p>以上のとおり、本市の中心市街地は、一定の小売商業、各種事業所、公共公益施設が、市街化区域の約2%という限られた区域の中に密度高く集積し、様々な都市活動が展開されている。</p> <p>また、中心市街地を核として本市における商圈、及び通勤圏が形成されていることから、本市における中心としての役割を果たしている市街地といえる。</p>																						

第2号要件

当該市街地の土地利用及び商業活動の状況等からみて、機能的な都市活動の確保又は経済活力の維持に支障を生じ、又は生ずるおそれがあると認められる市街地であること

- ・小売商業について、平成19年は平成3年と比較して、商店数は44.4%、年間販売額は51.0%、売場面積は31.1%減少している。

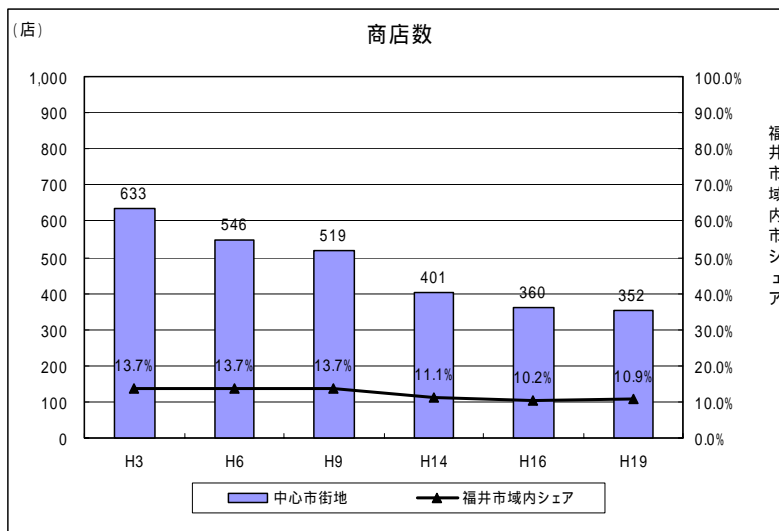


図 商店数の推移 資料：商業統計調査

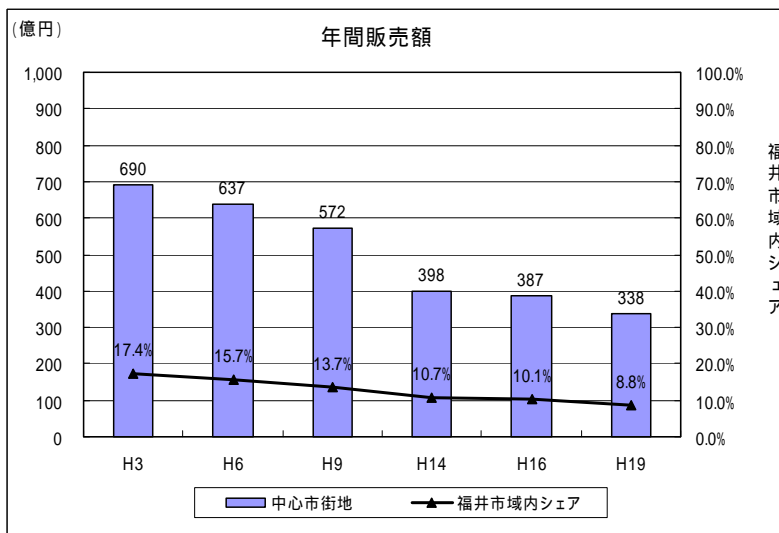


図 年間販売額の推移 資料：商業統計調査

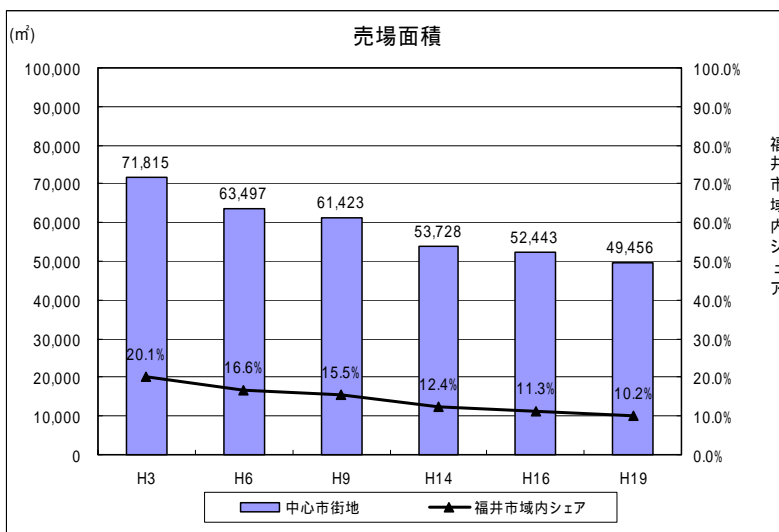


図 売場面積の推移 資料：商業統計調査

- ・事業所数について、平成21年は平成3年と比較して、33.1%減少している。

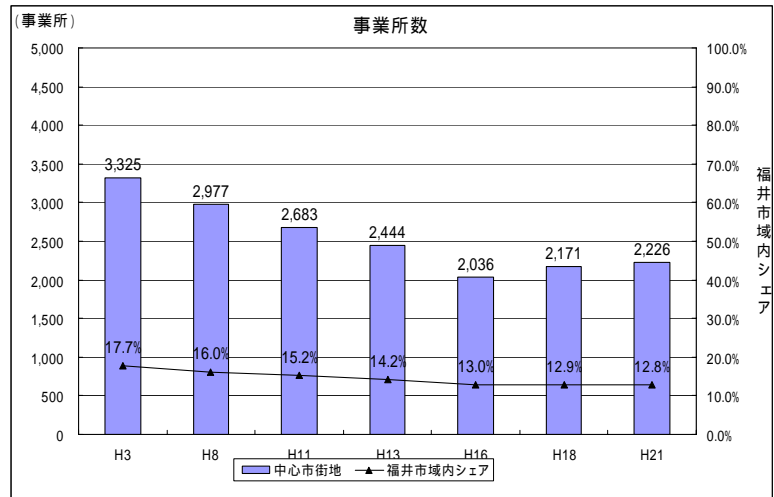


図 事業所数の推移 資料：事業所・企業統計調査(H3~18)、経済センサス(H21)

- ・空き店舗数(中央1丁目)は26店舗(H13.12)から75店舗(H24.8)に増加している。

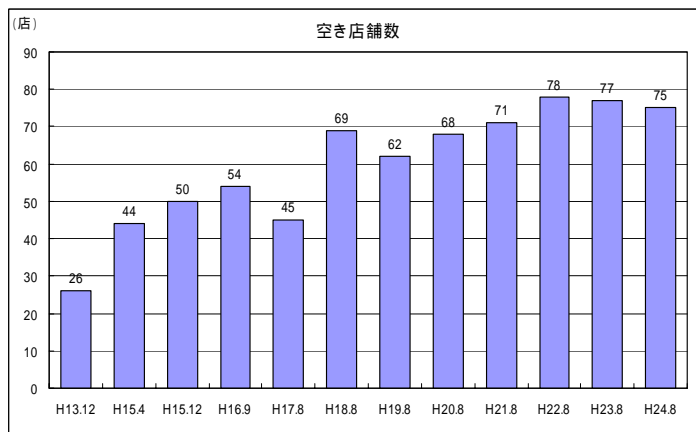


図 空き店舗数の推移 資料：まちづくり福井調査

- ・低未利用地については、平成24年には中心市街地に10.3haあり、中心市街地面積に対して9.8%を占めている。
- ・平成8年と比較すると2.8ha増加している。

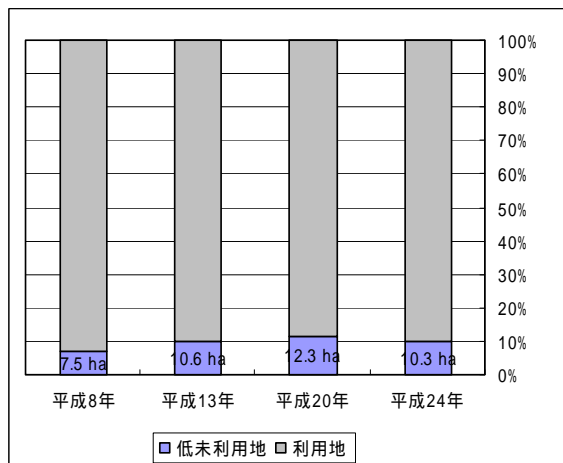


図 低未利用地の推移 資料：都市計画基礎調査

	<p>以上のとおり、福井市中心市街地は商業等の都市活動の面で衰退が見られ、今後のこの傾向が続いた場合、本市の機能的な都市活動の確保、経済活力の維持に支障が生じるおそれがある。</p>
<p>第3号要件 当該市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上と総合的かつ一体的に推進することが、当該市街地の存在する市町村及びその周辺の地域の発展にとって有効かつ適切であると認められること</p>	<p>○当該地域を中心市街地に設定するにあたり、以下のように位置付けられている。</p> <p>①第六次福井市総合計画（平成24年策定） 居住人口、商店数、従業者数、純小売額の割合が低下するなど、まちの活力が失われつつある。そのため、公共交通の利便性向上や商店街等との連携による商業の振興、居住人口の拡大に取り組み、中心市街地の活性化を図り、賑わいを創出することとしている。</p> <p>②福井市都市計画マスタープラン（平成22年改訂） 中心市街地は市民・県民の共有の財産として、福井市全体や福井都市圏の発展にも繋がる賑わいと活力あるまちづくりを進めるため、既存の都市基盤や集積している各種都市機能を活かしながら居住を推進し、まちなかの再生を目指すとともに、福井固有の資源を活かしながら、自然や歴史に触れあえる回遊性の高いまちづくりを進めることとしている。</p> <p>○当該中心市街地は、本市及び周辺市町の中心として形成され、都市機能の集積と公共交通の利便性が高いことの効果を周辺へ波及させ地域全体の活力向上につなげていく。</p> <p>本市の周辺市町の住民は、当該中心市街地を含む本市での買い物機会が高く、本市は、地域経済の活性化を牽引する重要な役割を担っている。</p> <p>当該中心市街地は、古くから道路、公園、交通機関等の都市基盤が整備され、県下有数の商業、業務機能の集積があり行政機関が集中している。響のホール、県民ホール、図書館など文化機能も整備され、都市機能の集積がさらに進んでいる状況である。</p> <p>また、フェニックスまつりや時代行列など、福井を代表する祭りや福井城址、足羽川など県内有数の歴史、文化資源を有しており、これらを目的に市内外から多くの人々が中心市街地へ来街している。</p> <p>来街する手段として、JR福井駅を中心に多くの公共交通機関があり、多様な手段によるアクセスが可能な利便性の高い地域である。</p> <p>都市機能の集積と公共交通の利便性が高い中心市街地をさらに活性化することで、その効果を周辺へ波及させ地域全体の活力向上につなげることができる。</p>

3. 中心市街地の活性化の目標

[1] 福井市中心市街地活性化の目標

本計画における中心市街地活性化のテーマ『官民協働のまちなかにぎわいステージづくり』、サブテーマ『時めきと煌きに満ちた永続性のあるまちをともに作り育てる』を実現するため、方針① 出会う「観光客・来街者の行き交い、おもてなし等のいろどりを整える」、方針② 暮らす「魅力ある住まい、生活、働く環境を充実する」、方針③ 遊ぶ「歩きたくなる素敵な境界形成と多様な余暇活動の舞台として演出する」を設定した。その方針を踏まえ、それぞれの方針の下に目標を次のとおり設定する。

方針① 出会う「観光客・来街者の行き交い、おもてなし等のいろどりを整える」

目標1：出会う人を増やす

県都の玄関口として、ますます重要な位置付けとなることから、都市構造の再編・強化、交通結節機能の強化、公共交通サービスの向上、自転車利用環境の向上などによる行き交いのいろどりを整えること、賑わい交流の拠点の形成、まちなか観光資源に魅力向上、コンシェルジュサービスの充実などによるおもてなしのいろどりを整えることによって出会う人を増やす。

方針② 暮らす「魅力ある住まい、生活、働く環境を充実する」

目標2：暮らす人を増やす

地域コミュニティの維持や中心市街地の存続と魅力の向上は、中心市街地の人口増加を図るためには重要であることから、既存ストックの有効活用の促進、建替え居住の促進、まちなか居住に対するPRの強化などによる魅力ある住まいの環境を充実すること、中心商業地の機能の充実、暮らしやすさを支える基盤施設の充実などによる魅力ある生活環境を充実すること、働く場としての受け皿の充実や魅力の向上による魅力ある働く環境を充実することによって暮らす人を増やす。

方針③ 遊ぶ「歩きたくなる素敵な境界形成と多様な余暇活動の舞台として演出する」

目標3：遊ぶ人を増やす

多様な交通機関で人が集まることができる特性を生かした、歩きたくなる魅力的な空間形成と市民を主体とした様々な活動は、中心市街地におけるにぎわいを創出することにつながることから、魅力的な空間形成、新たな魅力の創出、継続的にぎわいの舞台づくりなどによる歩きたくなる素敵な境界形成を推進すること、まちなか交流施設の整備、にぎわいを生むイベントの展開、効果的なPRと情報発信などによる多様な余暇活動の舞台として演出することによって遊ぶ人を増やす。

[2] 計画期間

基本計画の計画期間は、平成25年4月から、目標達成のための事業が完了し、実施事業の効果が現れると考えられる平成30年3月までの5年とする。

[3] 数値目標

(1) 目標指標設定の考え方

本計画では、中心市街地を活性化していくために設定した3つの目標に、それぞれ定量的な目標指標を設定する。また、目標指標を補完し、第2期計画の進捗状況の把握と検証を行うため、各目標にサブ指標を設定する。

目標1「出会う人を増やす」に対応する目標指標

「出会う人を増やす」に対応する目標指標として、以下のような考え方から、**公共交通機関乗車数（1日平均）**、**観光案内所利用者数**を、目標指標として設定する。

公共交通機関乗車数（1日平均）

- ・公共交通機関の充実を図ることで、多様な人が「出会う」ことが可能となること。
- ・中心市街地への来街者数としてある程度の傾向が把握可能なこと。
- ・交通事業者の調査により定期的に数値が把握可能なこと。

サブ指標

指標	対象	測定方法	目的
駐車台数	中心市街地にある主要駐車場（市・県駐車場、カトー立体パーク、サカエパーキング）	事業者から提供	来街者数の推移を見るため

観光案内所利用者数

- ・観光客や来街者のもてなし・行き交いの場として、「出会う」の傾向が示されること。
- ・定期的、継続的に数値が把握可能なこと。

サブ指標

指標	対象	測定方法	意味づけ
ホテル稼働率	中心市街地にある主要ホテル（ホテルフジタ福井、ユアーズホテルフクイ、リバージュアケボノ、エースイン福井、福井パレスホテル）	旅館業組合から提供	観光、ビジネス客等宿泊を伴う来街者数の推移を見るため
観光買い物客数	西武福井店、プリズム福井、ファーレ福井、西口再開発で整備する観光物産センター	事業者から提供	観光、ビジネス客及び非日常の買い物客等の来街者の推移を見るため

目標2「暮らす人を増やす」に対応する目標指標

「暮らす人を増やす」に対応する目標指標として、以下のような考え方から、**人口の社会増減数**を目標指標として設定する。

- ・居住人口の社会増減の実数が、「暮らす」の事業効果を測る適切な指標であること。
- ・住民基本台帳により市が継続して把握可能なこと。

サブ指標

指標	対象	測定方法	意味づけ
住宅供給戸数	中心市街地での分譲及び賃貸数	建築確認申請から調査	中心市街地内での住宅供給戸数の推移を見るため
空き店舗率	中心市街地での1階部分空き店舗数/1階店舗数	市調査	絶対数としての空き店舗数では、単に空き店舗を減らすとの方向性となるため、率として経年的な推移を把握するため
県、市来庁者数	—	県から提供及び市調査	生活者としての来街者数の推移を見るため
事業所数	—	経済センサス調査	中心市街地内の機能として欠かせないオフィス機能の推移を見るため
昼間人口	—	国勢調査	昼間の賑わいとしての滞在人口を測るため

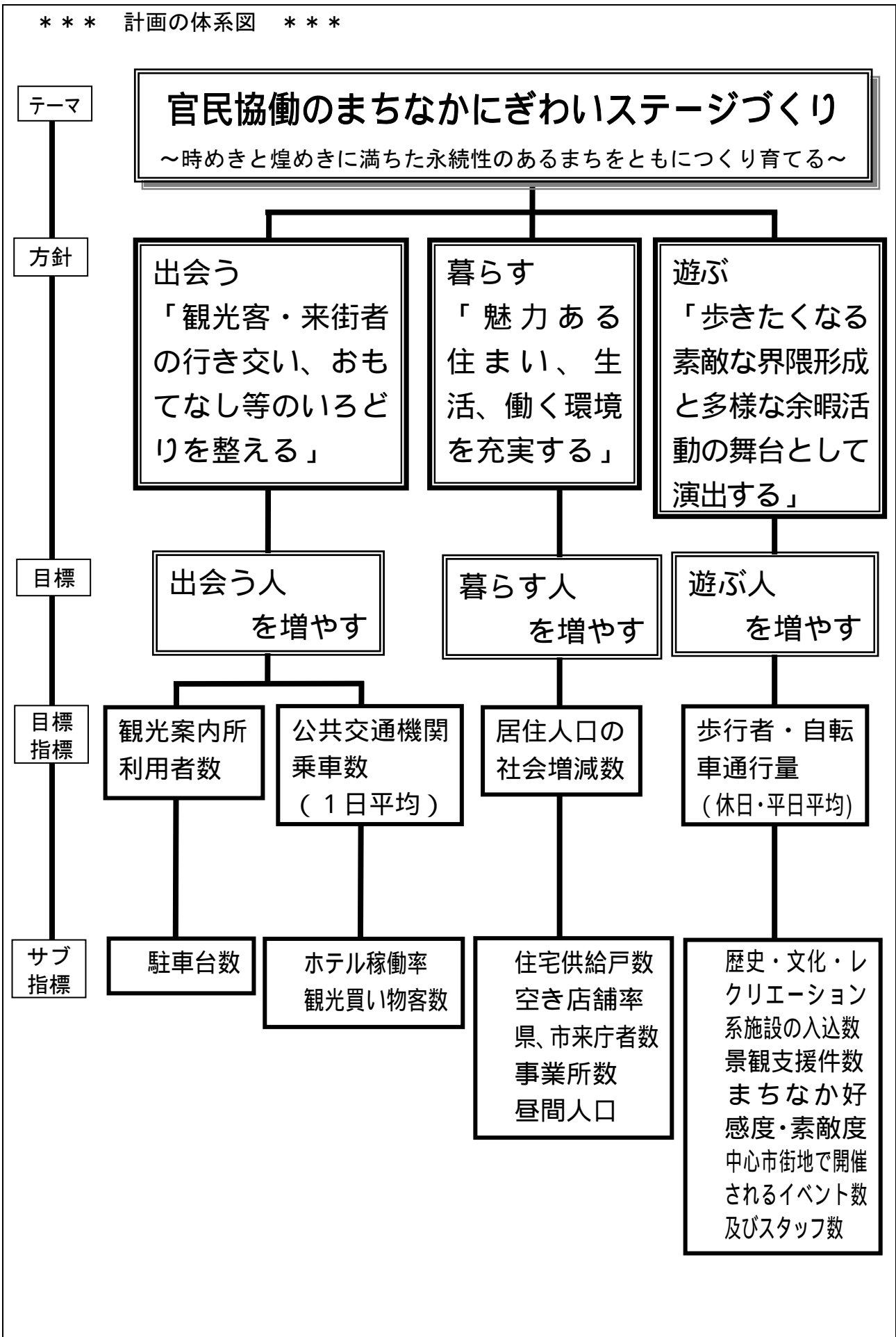
目標3「遊ぶ人を増やす」に対応する目標指標

「遊ぶ人を増やす」に対応する目標指標として、以下のような考え方から、**歩行者・自転車通行量（休日・平日平均）**を目標指標として設定する。

- ・ 中心市街地内を回遊することが賑わい創出につながることから、歩行者・自転車通行量が「遊び」のある程度の傾向を示すと考えられること。
- ・ 毎年定期的（7月・10月）に観測を行っており数値的把握が可能なこと。
- ・ 休日のみではなく日常の賑わいを捉え、気象状況等による影響を受けにくくする必要があること。

サブ指標

指 標	対 象	測定方法	意味づけ
歴史・文化・レクリエーション系施設の入込数	映画館、北の庄城址資料館、AOSSA（公共施設入館者数）、響のホール、西口再開発で整備する施設	各施設から提供	文化的な利用目的で中心市街地内に来ている人の推移を見るため
景観支援件数	—	市調査	中心市街地にふさわしい景観の創出を行う取組の推移を見るため
まちなか好感度・素敵度	来街者（調査項目：景観に関すること、中心市街地の滞在時間・立ち寄り件数、まちづくり参加度に関すること）	アンケート調査	来街者の視線で中心市街地の推移や来街者のニーズを把握するため
中心市街地で開催されるイベント数及びスタッフ数	市、まちづくり福井㈱、商店街等が主催又は共催するイベント	各イベントの実施者から提供	イベントによる効果と市民活動の状況を見るため



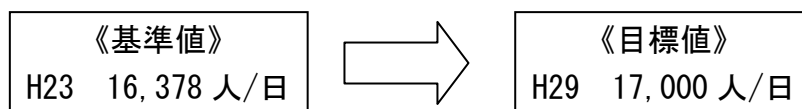
(2) 具体的な数値目標の設定

目標① 出会う人を増やす

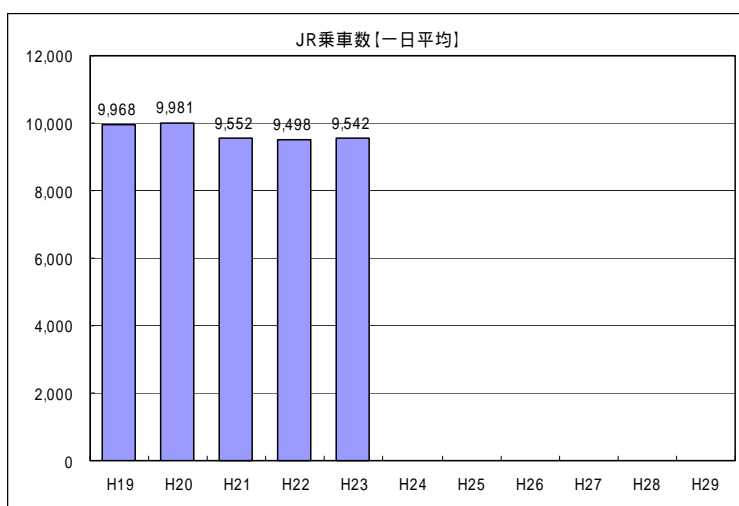
目標指標：公共交通機関乗車数（1日平均）

対象施設：中心市街地を発着点とする主要な公共交通機関（JR、えちぜん鉄道、福井鉄道、京福バス、すまいるバス）の中心市街地エリアにある全ての停留所及び駅での乗車数

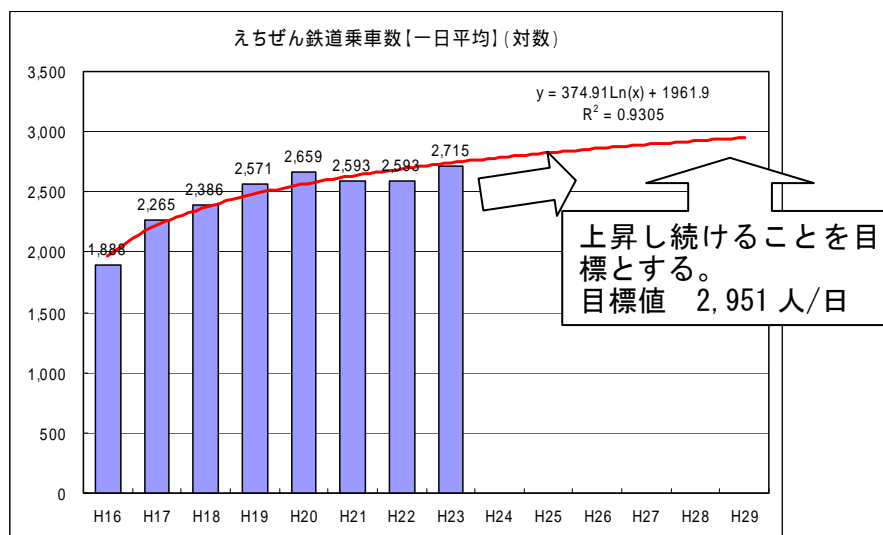
目標値：JRは現状維持、その他は減少しているものは過去最高、伸びているものはその伸びを確保することを目指す。



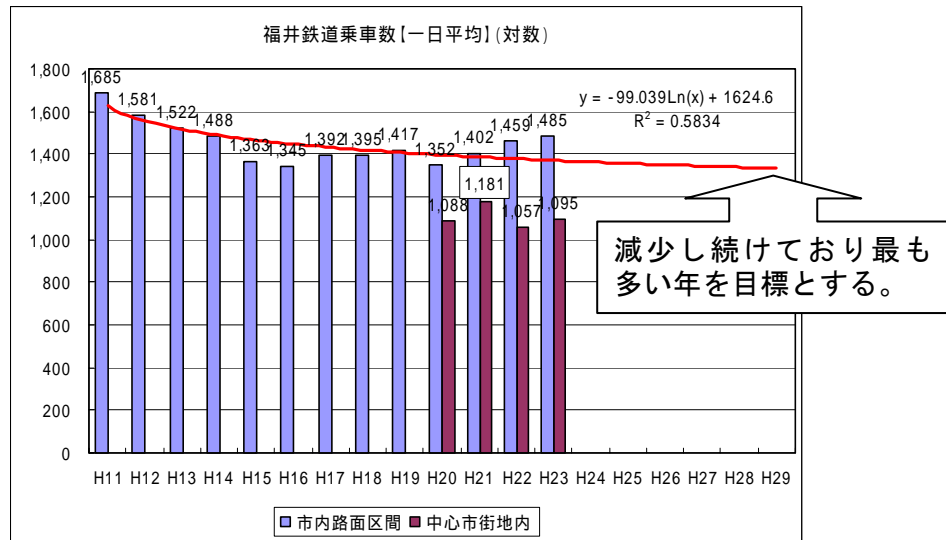
JR：平成16年の福井豪雨に伴う越美北線の運転休止後再開した平成19年以後減少し続けており、目標値は現状維持の 9,542 人/日 とする。



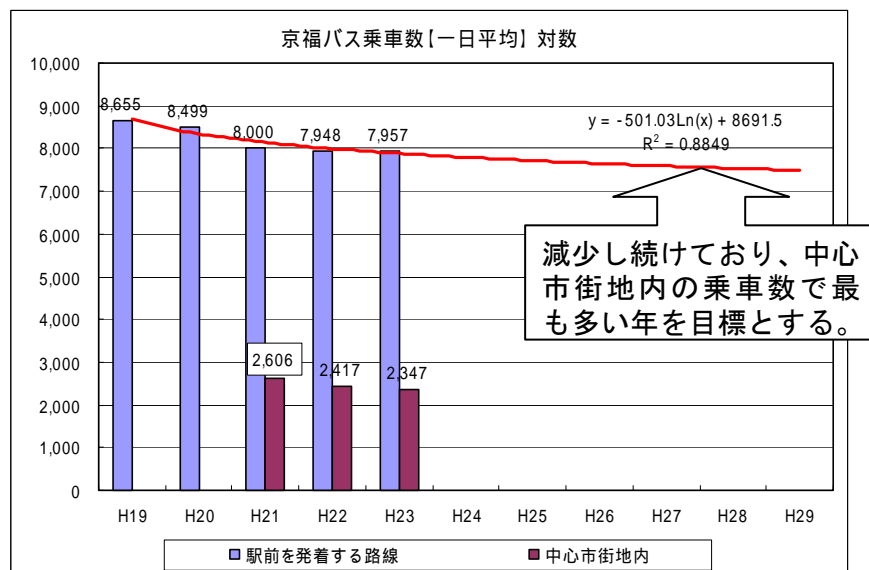
えちぜん鉄道：えちぜん鉄道が開業した平成16年以後の実績から、上昇のトレンドを確保し続けることを目標とし、目標値は2,951 人/日 とする。



福井鉄道：減少傾向にあることから目標は最も多い年を目標とし、目標値は中心市街地内の停留所の乗車数が最も多い年（H21）1,181人/日とする。

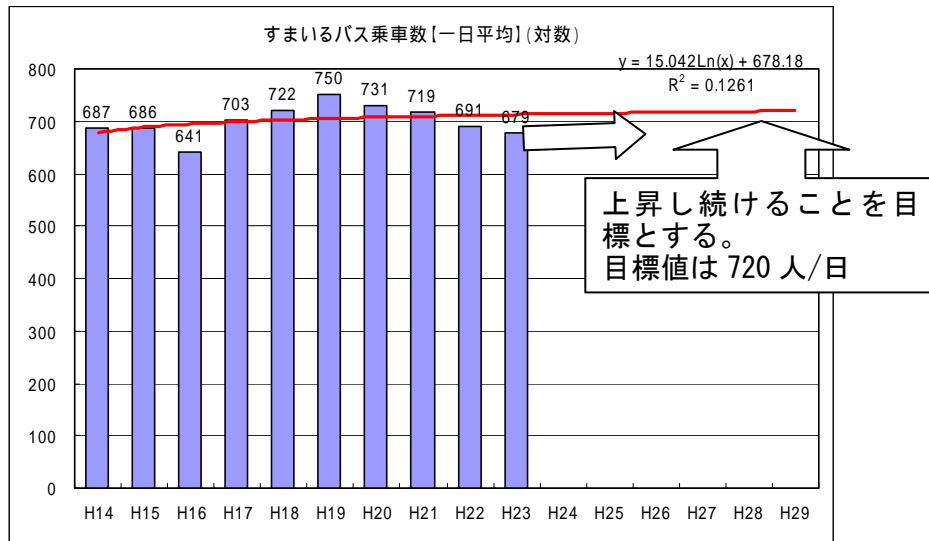


京福バス：減少し続けており、平成23年には7,957人/日となり、平成19年の8,655人/日より698人/日少なく、92%の水準となっている。



このままの推移で減少すると、平成29年には7,500人/日程度まで減少するものと予測される。そこで、目標値は中心市街地内の乗車数が把握できる最も多い年（H21）の2,606人/日とする。

すまいるバス：乗車数は近年減少傾向にあるものの、4路線での運行体制となった平成14年以降の実績から第2期基本計画の目標年次である平成29年を予測すると、下の図のとおり増加傾向を示し、720人となる。



まとめ

・公共交通機関乗車数の目標値は、下記のとおり17,000人とする。

	基準値 (H23)	目標値 (H29)	目標値／基準値
①JR	9,542	9,542	1.00倍
②えちぜん鉄道	2,715	2,951	1.09倍
③福井鉄道	1,095	1,181	1.08倍
④京福バス	2,347	2,606	1.11倍
⑤すまいるバス	679	720	1.06倍
計	16,378	17,000	1.04倍

目標達成のための事業

事業1 福井駅西口中央地区都市機能集約事業（新規）：事業効果 27 人

【事業概要】

事業主体：福井市、面積：約 0.16ha、整備内容：プラネタリウムなど

【事業効果】

$2,100 \text{ 人 TE/ha} \cdot \text{日} (\text{※}1) \times 0.16\text{ha} (\text{※}2) \div 2 \times (10.7\% (\text{鉄道分担率}\text{※}3) + 5.6\% (\text{路線バス分担率}\text{※}3))$

= 27 人

※1：事務所施設発生集中原単位（大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省 2007 改訂版））

※2：施設面積（ha）

※3：福井市中心市街地活性化に関する意識調査（平成 24 年度 福井商工会議所 中心市街地への交通手段

事業2 （仮称）福井駅西口中央地区市有施設等整備事業（新規）：事業効果 249 人

【事業概要】

事業主体：福井市、面積：ボランティアセンター等 0.65ha、屋根付き広場 0.16ha、整備内容：総合ボランティアセンター、屋根付き広場など

【事業効果】

ボランティアセンター等：事業効果 111 人

$2,100 \text{ 人 TE/ha} \cdot \text{日} (\text{※}1) \times 0.65\text{ha} (\text{※}2) \div 2 \times (10.7\% (\text{鉄道分担率}\text{※}3) + 5.6\% (\text{路線バス分担率}\text{※}3))$

= 111 人

※1：事務所施設発生集中原単位（大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省 2007 改訂版））

※2：施設面積（ha）

※3：福井市中心市街地活性化に関する意識調査（平成 24 年度 福井商工会議所 中心市街地への交通手段

屋根付き広場：事業効果 138 人

$10,600 \text{ 人 TE/ha} \cdot \text{日} (\text{※}1) \times 0.16\text{ha} (\text{※}2) \div 2 \times (10.7\% (\text{鉄道分担率}\text{※}3) + 5.6\% (\text{路線バス分担率}\text{※}3))$

= 138 人

※1：商業施設発生集中原単位（大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省 2007 改訂版））

※2：施設面積（ha）

※3：福井市中心市街地活性化に関する意識調査（平成 24 年度 福井商工会議所 中心市街地への交通手段

事業3 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業（継続）：事業効果 202 人

【事業概要】

事業主体：福井駅西口中央地区市街地再開発組合、面積：約 1.23ha、整備内容：商業・業務施設、住宅、公共公益施設、駐車場ほか

【事業効果】

商業施設：事業効果 151 人

$10,600 \text{ 人 TE/ha} \cdot \text{日} (\ast 1) \times (0.33\text{ha} (\ast 2) - 0.155\text{ha} (\ast 3)) \div 2 \times (10.7\% (\text{鉄道分担率}\ast 4) + 5.6\% (\text{路線バス分担率}\ast 4))$

= 151 人

※1：商業施設発生集中原単位（大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省 2007 改訂版））

※2：施設面積（ha）

※3：既存施設面積（ha）

※4：福井市中心市街地活性化に関する意識調査（平成 24 年度 福井商工会議所 中心市街地への交通手段

住宅：事業効果 51 人

$700 \text{ 人 TE/ha} \cdot \text{日} (\ast 1) \times 0.9\text{ha} (\ast 2) \div 2 \times (10.7\% (\text{鉄道分担率}\ast 3) + 5.6\% (\text{路線バス分担率}\ast 3))$

= 51 人

※1：住宅施設発生集中原単位（大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省 2007 改訂版））

※2：施設面積（ha）

※3：福井市中心市街地活性化に関する意識調査（平成 24 年度 福井商工会議所 中心市街地への交通手段

事業4 （仮称）福井にぎわい交流拠点整備事業（福井駅西口中央地区暮らし・にぎわい再生事業）（継続）：事業効果 34 人

【事業概要】

事業主体：福井市、面積：約 0.2ha、整備内容：多目的ホール

【事業効果】

$2,100 \text{ 人 TE/ha} \cdot \text{日} (\ast 1) \times 0.2\text{ha} (\ast 2) \div 2 \times (10.7\% (\text{鉄道分担率}\ast 3) + 5.6\% (\text{路線バス分担率}\ast 3))$

= 34 人

※1：事務所施設発生集中原単位（大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省 2007 改訂版））

※2：施設面積（ha）

※3：福井市中心市街地活性化に関する意識調査（平成 24 年度 福井商工会議所 中心市街地への交通手段

事業5 その他の商業活性化事業等の取組による効果：事業効果 137 人

【事業概要】

遊ぶ人を増やすための取組と同時に、イベント開催の促進、ハードを含めた景観整備、コミュニティバスの利用促進等、商業活性化等の取組を実施し、歩行者動線軸を中心に魅力の向上を図る。この相乗効果として、来街者の10%増を見込む。

【事業効果】

8,390 人/日 (※1) ×10% (※2) × (10.7% (鉄道分担率※3) +5.6% (路線バス分担率※3))

= 137 人

※1：遊ぶ人を増やす事業の西口再開発関連 5,956 人＋自転車駐輪場の整備 1,804 人＋中心市街地チャレンジ開業支援 630 人

※2：イベント開催の促進、ハードを含めた景観整備、響きのホールやA O S S A の利用促進など商業活性化等の取組を実施し、歩行者動線軸を中心に魅力の向上を図り、遊ぶ人を増やす取組を行うことの相乗効果として、10%増の集客数を見込む

※3：福井市中心市街地活性化に関する意識調査（平成24年度 福井商工会議所）中心市街地への交通手段

事業6 交通結節機能の強化による乗車数の増加：事業効果 251 人

【事業概要】

土地区画整理事業により福井駅西口広場にバス停の設置、路面電車の延伸を行うことにより交通結節機能の強化を図る。

【事業効果】

・路面電車の乗車数増加：事業効果 101 人

562 人/日 (※1) ×17.9% (※2) = 101 人

※1：福井鉄道福井駅前乗車数（平成23年度）

※2：路面電車のターミナル駅への延伸による他事例の増加率の平均

・路線バスの乗車数増加：事業効果 150 人

2,347 人/日 (※3) ×6.4% (※4) = 150 人

※3：京福路線バス中心市街地内バス停一日平均乗車数（平成23年）

※4：岐阜駅北口駅前広場内にバス乗降場を整備したことによる効果。バス年間利用者数 16,625 千人/年→17,692 千人/年に 6.4%増加。

事業7 L R V 導入による乗車数の増加：事業効果：34 人

【事業概要】

福井鉄道がL R V 車両の導入を行う。

【事業効果】

L R V 車両の導入による乗車数増加：事業効果 34 人

(2,715 人/日 (※1) +1,095 人/日 (※2)) ×0.9% (※3) = 34 人

※1：えちぜん鉄道中心市街地内駅一日平均乗車数（平成23年度）

※2：福井鉄道中心市街地内駅一日平均乗車数（平成23年度）

※3：福井鉄道に低床車両導入（H18.4）により、市内路面区間の乗車数が 1,392

人/日 (H17年) →1,405人/日 (平成18～平成23年度の5年間平均乗車数)に0.9%増加。

まとめ

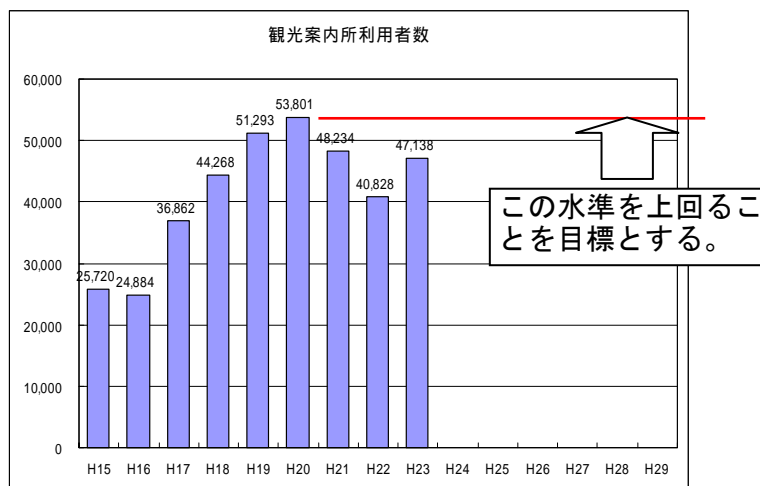
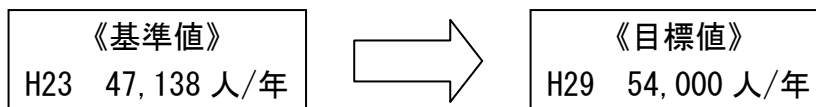
事業	事業効果
福井駅西口中央地区都市機能集約事業	27人
(仮称) 福井駅西口中央地区市有施設等整備事業	249人
福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業	202人
(仮称) 福井にぎわい交流拠点整備事業	34人
その他の商業活性化事業等の取組による効果	137人
福井駅西口広場整備	251人
LRVの導入による効果	34人
合計	934人

16,378人 (H23) +934人 (事業効果) =17,312人 > 17,000人 (目標値) であり達成可能である。

目標指標：観光案内所利用者数

対象施設：福井駅周辺の観光案内所

目標値：最も利用者が多かった平成 20 年度の水準を目指す。



目標達成のための事業

事業 1 （仮称）福井駅西口中央地区市有施設等整備事業（新規）：事業効果 22,626 人

【事業概要】

現在福井駅構内に設置されている観光案内所を西口再開発ビルに移転整備する。面積：約 100 m²。

【事業効果】

$$47,138 \text{ 人/年 (※1)} \times 48\% \text{ (※2)} = 22,626 \text{ 人}$$

※1：平成 23 年度の利用者数

※2：平成 17 年度に現在の観光案内所が開設されたことによる利用者の増加率

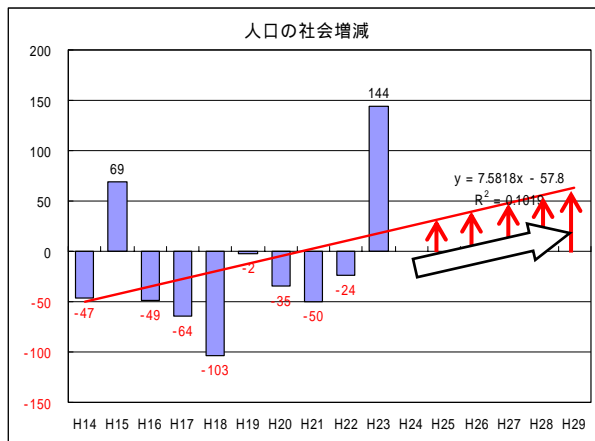
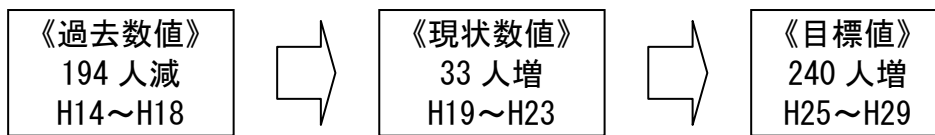
まとめ

47,138 人 (H23) + 22,626 人 (事業効果) = 69,764 人 > 54,000 人 (目標値)
であり達成可能である。

目標② 暮らす人を増やす

目標指標：人口の社会増減数

目標値：人口の社会増加を維持することであり、計画期間終了時(平成 29 年)まで推計される社会増を確保するよう今後 5 年間で 240 人増を目指す。



社会増の右肩上がりの傾向を維持することを目標とする。

目標達成のための事業

事業 1 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業：事業効果 205 人

【事業概要】

事業主体：福井駅西口中央地区市街地再開発組合、面積：約 1.23ha、整備内容：商業・業務施設、住宅、公共公益施設、駐車場ほか

【事業効果】

住宅戸数 90 戸 × 2.28 人/戸 (※1) = 205 人

※1：中心市街地内の世帯あたり人員 (平成 24 年)

事業 2 (仮称) 福井市まちなか住まい支援事業：事業効果 186 人

【事業概要】

まちなかへの居住を促進するため、戸建て住宅のリフォームや二世帯型戸建て住宅の建設等を補助

【事業効果】

住宅戸数 81 戸 (※1) × 2.28 人/戸 (※2) = 185 人

※1：都心居住推進プランによる本事業の支援目標戸数

※2：中心市街地内の世帯あたり人員 (平成 24 年)

まとめ

事業	事業効果
福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業	205 人
(仮称) 福井市まちなか住まい支援事業	185 人
合計	390 人

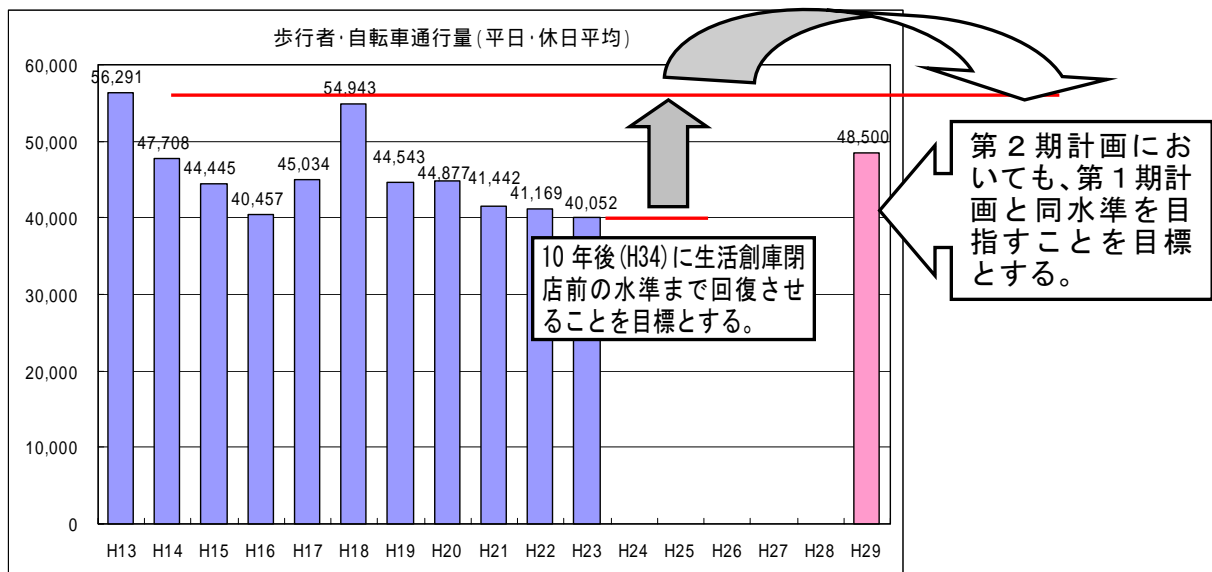
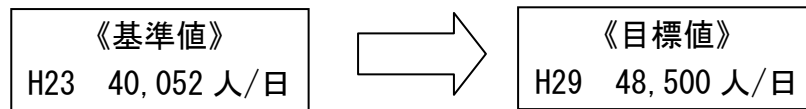
390 人 (事業効果) > 240 人 (目標値) であり達成可能である。

目標③ 遊ぶ人を増やす

目標指標：歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）

測定地点：中心市街地内の10地点、測定時期7月と10月

目標値：第1期計画では10年後（H35）年に生活創庫閉店（H14）前の水準まで回復させることを目標とし、休日の歩行者・自転車通行量として52,500人/日を目標としている。今計画でも平日・休日の平均に換算して、同じ目標値まで回復させることを目標とする。（48,500人/日）



【算出根拠】

第1期基本計画期間中の平成19年度から平成24年度における7月の歩行者・自転車通行量の休日/平日比は1.18（H19：1.54、H20：1.22、H21：1.15、H22：1.14、H23：1.00、H24：1.05）である。

この比から、平日の目標値を求めると、

$$52,500 \div 1.18 = 44,492 \text{ 人/日}$$

となる。したがって、平日・休日の平均の目標値は

$$(52,500 + 44,492) \div 2 = 48,496 \rightarrow 48,500$$

となるので、48,500人/日を目標とする。

目標達成のための事業

事業1 福井駅西口中央地区都市機能集約事業（新規）：事業効果 353人

【事業概要】

事業主体：福井市、面積：約0.16ha、整備内容：プラネタリウムなど

【事業効果】

$$2,100 \text{ 人 TE/ha} \cdot \text{日} (\text{※1}) \times 0.16\text{ha} (\text{※2}) \div 2 \times 2.1 (\text{※3}) \\ = 353 \text{ 人}$$

※1：事務所施設発生集中原単位（大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省 2007 改訂版））

※2：施設面積（ha）

※3：平成 21 年度に実施した福井駅周辺動態調査によると、中心市街地への来街者 376 人は調査地点を 776 回通過しており、平均 2.1 回カウントされている。

事業 2 （仮称）福井駅西口中央地区市有施設等整備事業（新規）：事業効果 3,214 人

【事業概要】

事業主体：福井市、面積：ボランティアセンター等 0.65ha、屋根付き広場 0.16ha、整備内容：総合ボランティアセンター、屋根付き広場など

【事業効果】

ボランティアセンター等：事業効果 1,433 人

$$2,100 \text{ 人 TE/ha} \cdot \text{日} (\text{※1}) \times 0.65\text{ha} (\text{※2}) \div 2 \times 2.1 (\text{※3}) \\ = 1,433 \text{ 人}$$

※1：事務所施設発生集中原単位（大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省 2007 改訂版））

※2：施設面積（ha）

※3：平成 21 年度に実施した福井駅周辺動態調査によると、中心市街地への来街者 376 人は調査地点を 776 回通過しており、平均 2.1 回カウントされている。

屋根付き広場：事業効果 1,781 人

$$10,600 \text{ 人 TE/ha} \cdot \text{日} (\text{※1}) \times 0.16\text{ha} (\text{※2}) \div 2 \times 2.1 (\text{※3}) \\ = 1,781 \text{ 人}$$

※1：商業施設発生集中原単位（大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省 2007 改訂版））

※2：施設面積（ha）

※3：平成 21 年度に実施した福井駅周辺動態調査によると、中心市街地への来街者 376 人は調査地点を 776 回通過しており、平均 2.1 回カウントされている。

事業 3 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業（継続）：事業効果 1,948 人

【事業概要】

事業主体：福井駅西口中央地区市街地再開発組合、面積：約 1.23ha（うち、商業施設 0.33ha）、整備内容：商業・業務施設、住宅、公共公益施設、駐車場ほか

【事業効果】

$$10,600 \text{ 人 TE/ha} \cdot \text{日} (\text{※1}) \times (0.33\text{ha} (\text{※2}) - 0.155\text{ha} (\text{※3})) \div 2 \times 2.1 (\text{※4}) \\ = 1,948 \text{ 人}$$

※1：商業施設発生集中原単位（大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省 2007 改訂版））

※2：施設面積（ha）

※3：既存施設面積（ha）

※4：平成 21 年度に実施した福井駅周辺動態調査によると、中心市街地への来街者 376 人は調査地点を 776 回通過しており、平均 2.1 回カウントされている。

事業 4 (仮称) 福井にぎわい交流拠点整備事業 (福井駅西口中央地区暮らし・にぎわい再生事業) (継続) : 事業効果 441 人

【事業概要】

事業主体：福井市、面積：約 0.2ha、整備内容：多目的ホール

【事業効果】

$$2,100 \text{ 人 TE/ha} \cdot \text{日} (\text{※}1) \times 0.2\text{ha} (\text{※}2) \div 2 \times 2.1 (\text{※}3) \\ = 441 \text{ 人}$$

※1：事務所施設発生集中原単位（大規模開発地区関連交通計画マニュアル（国土交通省 2007 改訂版））

※2：施設面積（ha）

※3：平成 21 年度に実施した福井駅周辺動態調査によると、中心市街地への来街者 376 人は調査地点を 776 回通過しており、平均 2.1 回カウントされている。

事業 5 JR 福井駅南側自転車駐輪場整備事業 (継続) : 事業効果 1,804 人/日

【事業概要】

事業主体：福井市、事業内容：JR 福井駅南側に駐輪場を整備

【事業効果】

$$622 \text{ 人} (\text{※}1) \times 2.9 (\text{※}2) = 1,804 \text{ 人/日}$$

※1：本事業で整備予定の駐輪台数は 1,000 台である。現在えきまえKOOCANの駐輪台数は 378 台なので、その差が歩行者自転車通行量に加算される。

※2：平成 21 年度に実施した福井駅周辺動態調査によると、福井駅周辺の自転車での来街者 30 人は調査地点を 87 回通過しており、平均 2.9 回カウントされている。

事業 6 中心市街地チャレンジ開業支援事業 (新規) : 事業効果 630 人/日

【事業概要】

事業主体：民間事業者、支援：福井県・福井市、事業内容：空き店舗への出店者に開業経費等を支援

【事業効果】

$$12 \text{ 件/年} (\text{※}1) \times 5 \text{ 年間} \times 50\% (\text{※}2) \times 10 \text{ 人/店} (\text{※}3) \times 2.1 (\text{※}4) = 630 \text{ 人/日}$$

※1：当該事業での年間支援件数

※2：平成 18～平成 21 年度まで開業支援を行なった店舗の現時点における開業率

※3：開業支援を行なっている店舗の平均来店者数

※4：平成 21 年度に実施した福井駅周辺動態調査によると、中心市街地への来街者 376 人は調査地点を 776 回通過しており、平均 2.1 回カウントされている。

事業 7 居住者増分：事業効果 1,369 人/日

【事業効果】

390 人 (※1) × 1.003 回 (※2) × 3.5 地点 (※3) = 1,369 人/日

※1：目標 2 の事業による居住者増分

※2：パーソントリップ調査による帰宅トリップ数 (平均的な外出回数)

※3：平成 21 年度に実施した福井駅周辺動態調査によると、徒歩での来街者 13 人は調査地点を 45 回通過しており、平均 3.5 回カウントされている。

事業 8 交通結節機能の強化により公共交通利用者が増加し、来街者が増加

：事業効果 1,079 人/日

【事業効果】

交通結節機能の強化による事業により増加する公共交通機関等の利用者が中心市街地内を回遊するものと想定する。

251 人/日 (※1) × 4.3 回 (※2) = 1,079 人/日

※1：交通結節機能の強化により増加する公共交通機関等の利用者数

※2：平成 21 年度に実施した福井駅周辺動態調査によると、公共交通機関を利用した来街者 59 人は調査地点を 251 回通過しており、平均 4.3 回カウントされている。

事業 9 LRVの導入により公共交通利用者が増加し、来街者が増加

：事業効果 146 人/日

【事業効果】

LRVの導入により増加する公共交通機関等の利用者が中心市街地内を回遊するものと想定する。

34 人/日 (※1) × 4.3 回 (※2) = 146 人/日

※1：交通結節機能の強化により増加する公共交通機関等の利用者数

※2：平成 21 年度に実施した福井駅周辺動態調査によると、公共交通機関を利用した来街者 59 人は調査地点を 251 回通過しており、平均 4.3 回カウントされている。

事業 10 その他の商業活性化等の取組による効果：事業効果 1,098 人/日

【事業効果】

10,984 人/日 (※1) × 10% (※2) = 1,098 人/日

※1：歩行者・自転車通行量増加に向けた事業合計

※2：イベント開催の促進、ハードを含めた景観整備、響きのホールやAOS SAの利用促進など商業活性化等の取組を実施し、歩行者動線軸を中心に魅力の向上を図り、遊ぶ人を増やす取組を行うことの相乗効果として、目標 3 の増加分の 10% 増を見込む。

まとめ

事業	事業効果
福井駅西口中央地区都市機能集約事業	353 人/日
(仮称) 福井駅西口中央地区市有施設等整備事業	3,214 人/日
福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業	1,948 人/日
(仮称) 福井にぎわい交流拠点整備事業	441 人/日
J R 福井駅南側自転車駐輪場整備事業	1,804 人/日
中心市街地チャレンジ開業支援事業	630 人/日
居住者増分	1,369 人/日
交通結節機能の強化による来街者の増加	1,079 人/日
L R V の導入による来街者の増加	146 人/日
その他の商業活性化事業等の取組による効果	1,098 人/日
合 計	12,082 人/日

40,052 人 (H23) + 12,082 人 (事業効果) = 52,134 人 > 48,500 人 (目標値)
であり達成可能である。

(3) フォローアップ

それぞれの目標指標については、適宜、以下の方法により市と中心市街地活性化協議会が連携を図りながら数値を把握する。

事業の進捗状況及び数値目標の達成状況については、計画期間の中間年にあたる平成27年度末に福井市中心市街地活性化協議会に報告し、必要に応じて目標達成への措置を講じるものとする。

目標① 出会う人を増やす

◆公共交通機関乗車数（1日平均）

中心市街地内に乗り入れている各交通機関等が毎年公表する乗車人員等を把握し、数値目標の達成状況を確認する。具体的には、JR福井駅、えちぜん鉄道福井駅及び新福井駅、福井鉄道市役所前駅及び福井駅前駅、すまいるバス、京福バスの中心市街地エリア内のバス停の各乗車人員を把握し、数値目標の達成状況を確認する。

◆観光案内所利用者数

JR福井駅周辺にある観光案内所の利用者数を把握し、数値目標の達成状況を確認する。

目標② 暮らす人を増やす

◆居住人口の社会増減数

市が毎月更新し、公表している住民基本台帳に基づく人口（基準日10月1日）により数値目標の達成状況を確認する。

目標③ 遊ぶ人を増やす

◆歩行者・自転車通行量（休日・平日平均）

毎年2回（7月及び10月の平日・休日）実施する歩行者・自転車通行量調査により、歩行者・自転車通行量を把握し、数値目標の達成状況を確認する。